

69  
合  
128

京都の文化

貝原篤信著



京城勝覽序

平安城と山城別愛宕郡宇多乃邑山

神武天皇大和別橿原の都と神くま

六のうと大和河内栲幡山城近に長門たふ小宮

新成はしごり五入事。三十又處遷都古四十餘

度より及有り桓武の帝奈良乃都より山城五

長岡ふりうらまをりし中けるが今れ都の地は神

樹意を勝境なり事成ありしりし

此所小文所と





此地方の最中にありて平泉の地なる  
其地河乃奥區あり。上流あり。ふ川水去地  
境山とて多し。帝城あり。ぬづ  
天府乃國あり。美代不易の地なるべし。  
定めさせをゆい。王城あり。衣く衣遷せしんが  
ぬめ。東山の峯に將軍塚とあり。守後神  
ぞ。あふは都と平とて。安らりあり。あふせ。  
猪民乃曰く。く。あふい。い。え。る。さ。ふ。あ。う。て。  
平安城と名つあり。此都乃曰く。乃。名。區。

拂乃ぞくりにひあり。陳迹其石のどくりに布ら  
事瓜系なる人をふあ。う。ら。も。多。う。と。い。ふ。  
ひや郡。う。ら。う。め。く。其。人。其。敬。邑。不。  
なり。い。く。上。邦。瓜。見。が。は。軍。と。い。ふ。と。名。録。  
乃。あ。る。瓜。系。と。て。ゆ。く。く。と。い。ふ。ん。も。  
う。ら。も。多。う。と。い。ふ。人。ふ。あ。う。ら。も。多。う。  
に。目。く。下。遊。観。と。い。ふ。き。や。の。り。き。ら。と。い。ふ。に。  
方。と。い。う。ら。も。其。多。瓜。系。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。  
ゆ。ら。も。多。う。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。



と考ふるのんたをさしごとくして整へくむるのうしを  
かゝるべしそのうし其如の名は城といへば  
雍州府志。山城國志。名所通考。其外少を  
採ふ志のせよ家書ありて何處のうしを魚目混  
し。今此書おの只其のうしをきりて乃名目  
志らざるものをもとてその日る本を風氣やう  
りふ。土地厚く人物うまう。財穀ゆたか  
て。とてうた事人の國よとぞ言ふれど。この國  
乃人可なりと云ふ。あはれむる事なりとて

乃人豊秋津例と号をきし事をもつるなり  
人の君多國不死國とかげきし事なり  
云々の事は成る事なり又此都ふと云ふ人はい  
地乃徳州よと云ふれり事なり安らうの事  
と考ふと古終ふ事なり事なりとて人かごと  
しきある事なり事なり事なり事なり  
事なり事なり事なり事なり事なり事なり  
人よ信よ事なり事なり事なり事なり事なり  
久しく事なり事なり事なり事なり事なり



觀乃名の此初に風去乃実よの多人を事を  
志んや。所をい書と作するたげ。この  
後続ゆき平安の名ふ。あゆる事を志る  
し。ぬく帝もる

寶永三年冬春日

奥原篤信記

京城勝覽目錄

○洛中洛外名所毎日見物之案内

○序乃洛の京町小路の由来と志る事

○洛中の名所古跡を志る事 丁目より十七丁目まで

物一日 十九日 三條小橋大橋伝はるるあての町と志る事。

建仁寺六波羅清水へ出を志る事。粟田口までの

乃伝志る事。今日いん物多し。こぬふらふへ

○但し日あつとて。黒石乃つとるかな



二日

廿六銭 南禅寺へ小狼園寺へ河原へ

遊までのはな志かき○右のみらねりては  
さきかど乃ほきり。今日も見事なり

三日

廿一銭 京よりふたにゆき竹田へ

京へ入るはな志かき○但し日ゆたふりた  
ゆるぎもつていふ事。まらるるみらねりては  
船子く出せり

四日

廿六銭 上乃醍醐にゆくはな志かき

○此日の乃ねりてはゆたを余りてはな志かき  
よ下の醍醐へゆき船子く出せり

又日

四十銭 宇治よりあまのけい日ゆたふりた

とて入るはな志かき船子く出せり

六日

四十銭 大桑野小塩にゆくみらねりた

○今日乃乃ねりてはゆたを余りてはな志かき  
船子く出せり。桂川小桑へ

七日

四十銭 岩倉へゆきみらねりた

八銭

五







十二日

下ノ  
七紙

鞍馬山にゆくはなはた

○け月のなほしよもせぬらんしんしん

て後とをー

十四日

下ノ  
七紙

小原にゆくはなはた

ゆきゆり七里乃余なるもらちりく小坂あつて

足取もわまこもなるもらちりく

を夜ふけてわー

十五日

下ノ  
七紙

江別末坂にゆくはなはた

○け月のゆきゆり八里けりきこなるわ

ゆきゆり坂奉けり上坂本はなはた

乃宮八里の暮しんおあまの終まぬ

朝かぬぐめけりゆきゆり

十六日

下ノ  
七紙

石ふゆくはなはた

○けみらのゆきゆり九里にをー

しきふゆきゆり

十七日

下ノ  
七紙

たふゆきゆり十里はなはた



○比目乃みらぬと云ふと云ふ事しつらんあり。  
山坂もなかくぬくにいふ事ありし一尊と云ふは  
かよふらん

拾遺下四右ふきしつる事いふ事

氷室 大慈山 岩屋 田原 松ヶ崎

播磨守徳上郡之名所書跡 此の事いふ事

月原九例候

京城勝勝覽

京都乃町南水と横と一東西と横とと横町  
おまがふふゆくとわがふふの南ゆくとさる  
とつ横町方れば何の町と云ふ西入と云ふ  
ていぼそとつ町と云ふれはまがふれあはる  
やど。角と云ふ二条安町と云ふ山の方第一  
町目と云ふ町通二条よる町と云ふまがふ町と云ふ  
町西夷川よる町と云ふあひま安町通二条よ



二町より一町とす。宝町を三條の通り下  
の町と云ふ。三條より一町とす。又三條を乃木町  
の西町と云ふ。三條通を町とす。東入を  
に方と云ふ。一町とす。

南ふたてと云ふ町の名。東より西よりの。

○河原町 是は境の外にある。洛外なり。と云ふ。

○寺町 東極西といふ。東は

と云ふ。寺なり。大いふ。川と中川といふ。

○清孝町 ○教屋町 白土 ○富小路 ○柳の場の路

○場町 ○寺の倉 ○乃木町 ○東洞院 ○東屋町

突抜 ○舊丸 ○支替町 全段の末と云ふ町也

○宝町 ○夜棚突抜 三條の夜乃と云ふ町より上

に流さぬ。もくろ町あり ○新町 ○釜屋突抜

三條の谷屋町より上に流さぬ。と云ふ町あり

○西洞院 ○小川 ○油小路 ○堀川 川あり。橋

あり ○葦原町 ○狹路 ○石門 ○大交 ○田







洛中

○内裏 凡人常の

時河門入らむ時不

らむと河老のりてね

流んむら目あり

○仙洞所所

○女院所所 山二河

不もね宿ありをじ

○親聖の河殿 各備

官家 以上河築地

乃らちふありて山築  
地の内丸人並興  
のいど

東方 ○系拖通

南少長 近世

寺町 山びりの

東系れりりりり

しあり近代あり

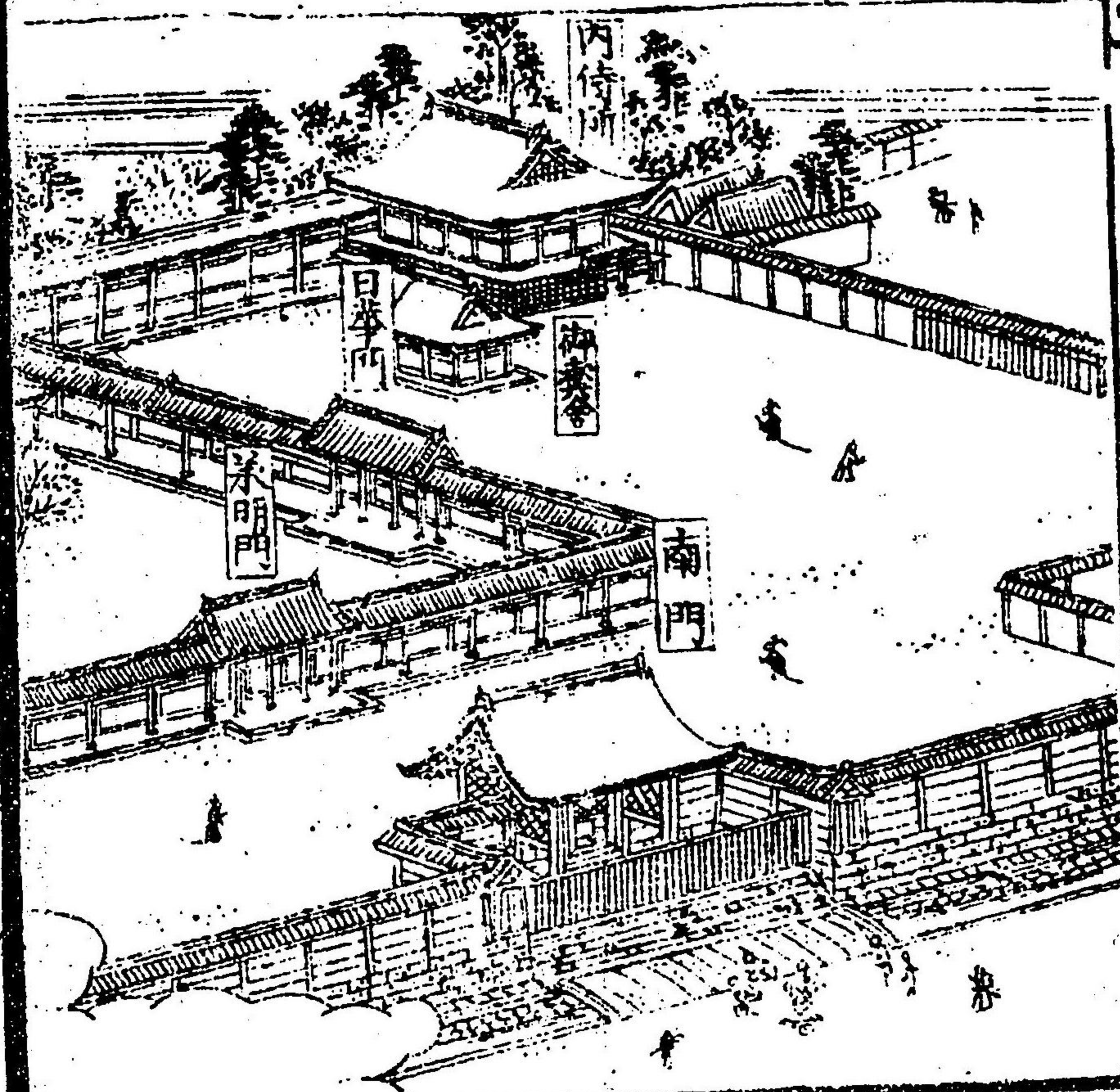
ちと東加賀川乃

ちと東加賀川乃

内裏之御圖



補遺他書  
春日平岡  
三〇









○中津靈 上津靈の氏族  
 不かりいん不なり ○菅原神  
 谷 菅原吉田の方に好む  
 町の南に小徳甚社あり  
 ○華堂 古河ふるむら  
 三十二の燈籠の二あり  
 ○下津靈の社古町より  
 ○折敷古 古町ふるむら寺  
 あり。東側の山本西にいま  
 東側の所は六角をとりて



又信ふ折敷古をともつて  
 古の心とあり河東河東  
 山ふゆりあり ○和泉武  
 那が墓 折敷古のみあり  
 試を院のふらふあり  
 ○祇園乃津 祇園 河東  
 色古河あり  
 ○久米橋色 久米色  
 つかと折敷色の事あり  
 橋色より武町よりあり





橋色い六条坊つあり

○浄教堂 一遍上人の教

堂ありおち傍と書若くあり

船ははる。浄土の舟

一と

○下古町浄土宗又時宗

かどのちあまこあり

こよ東寺

中 浄教は 浄土の旨

あり上賀後ゆくらあり

○妙見寺 妙見寺 妙蓮寺

本はもつとに箇ちいと東

て日蓮宗のちああり

○中立賣 禁裏のちあり

市門を西へある町あり

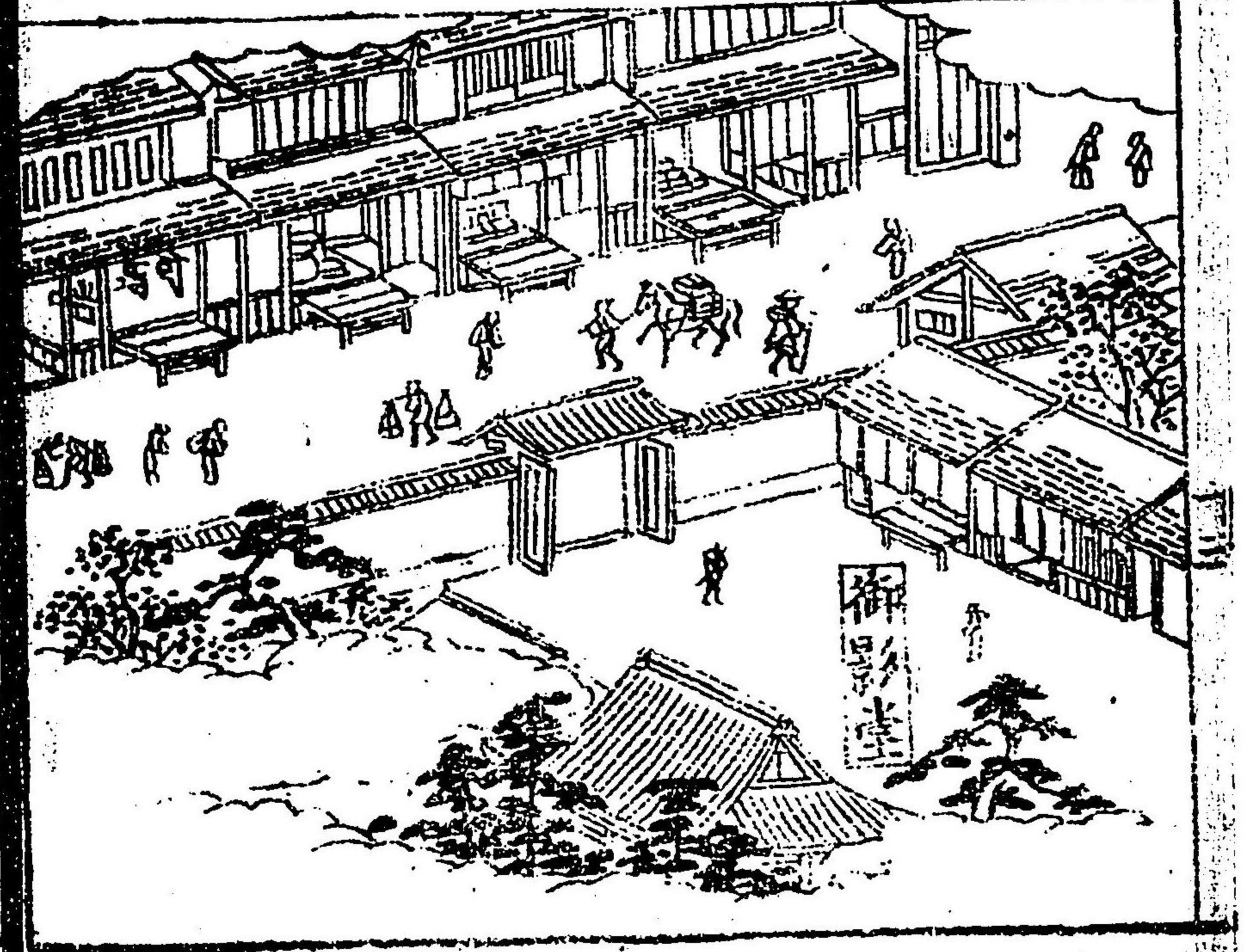
はる堀川ふちもある橋成

り橋より今一東堀川あり

橋成りより橋よりふちのちま

りありとあり。九条中にて

中立賣家町新在家を





松本藩の町あり

○柳の水 西洞院を三東の

南あり。法皇ありは町ふ

本本能寺あり

○六角堂 頂法寺といふ

六角堂ありは町の修持

代々多花と傳へ七月七日の

船池坊より花を散らし

見たり

○佛光寺 高倉を中

高倉より流のたるとあり

○因幡茶師 又松本より

馬丸あり○又松本

松本を西洞院の南あり

○新玉澤寺 松本を室

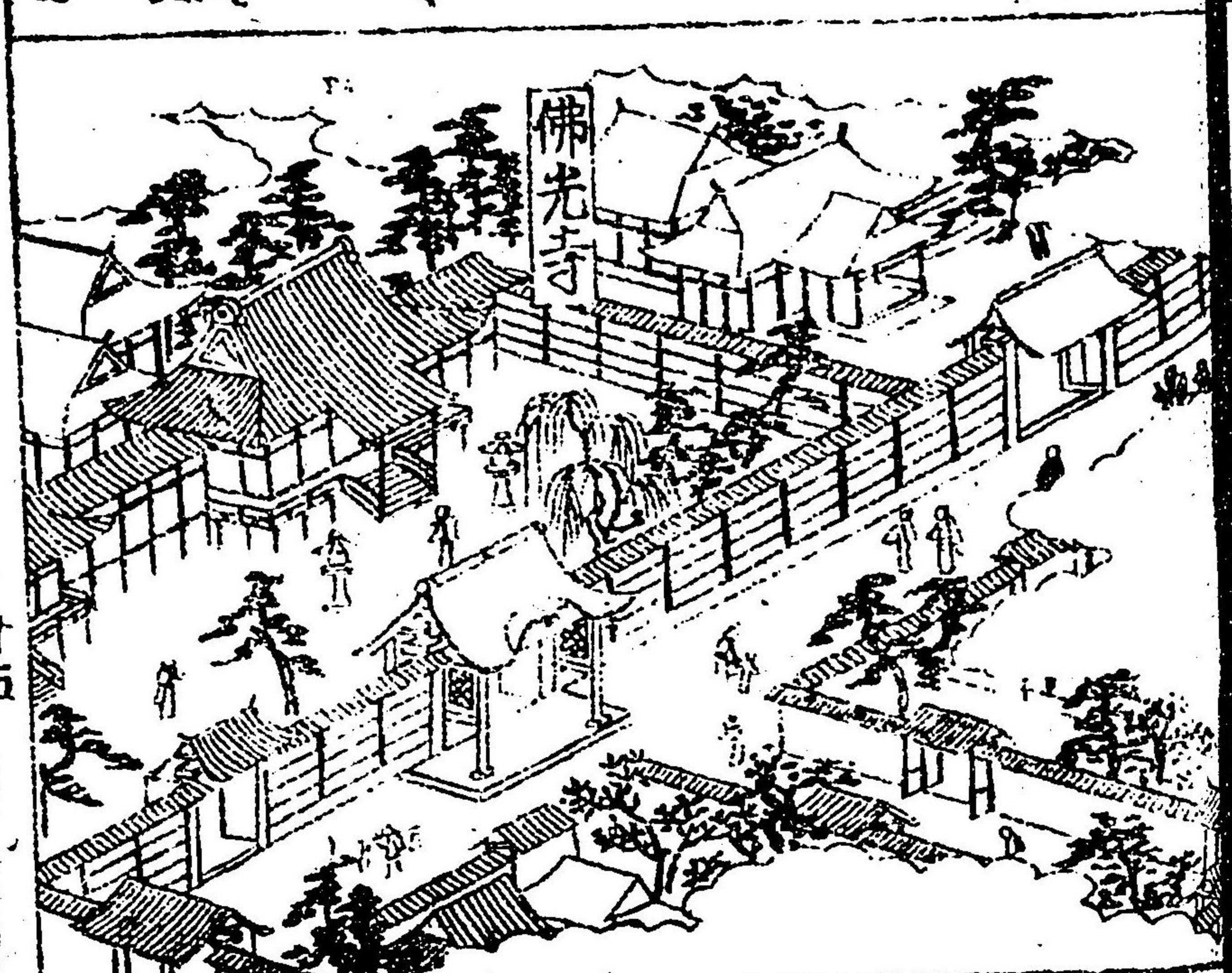
町のひらにあり紀別あり

乃備玉澤寺あり

うせしとあり

○東本願寺 東門外

と稱し六条あり





わくを東南あり

取上中

西 安居院

大徳寺の方にあり  
今は今安居院と

あり町の名あり

○堀川ありふるを

る町あり町の中に川  
あり。び川の源あり

あり

○二条河原

○神泉苑河原あり

大徳寺のふもとあり

云あり。池あり奥

あり。中河ふた

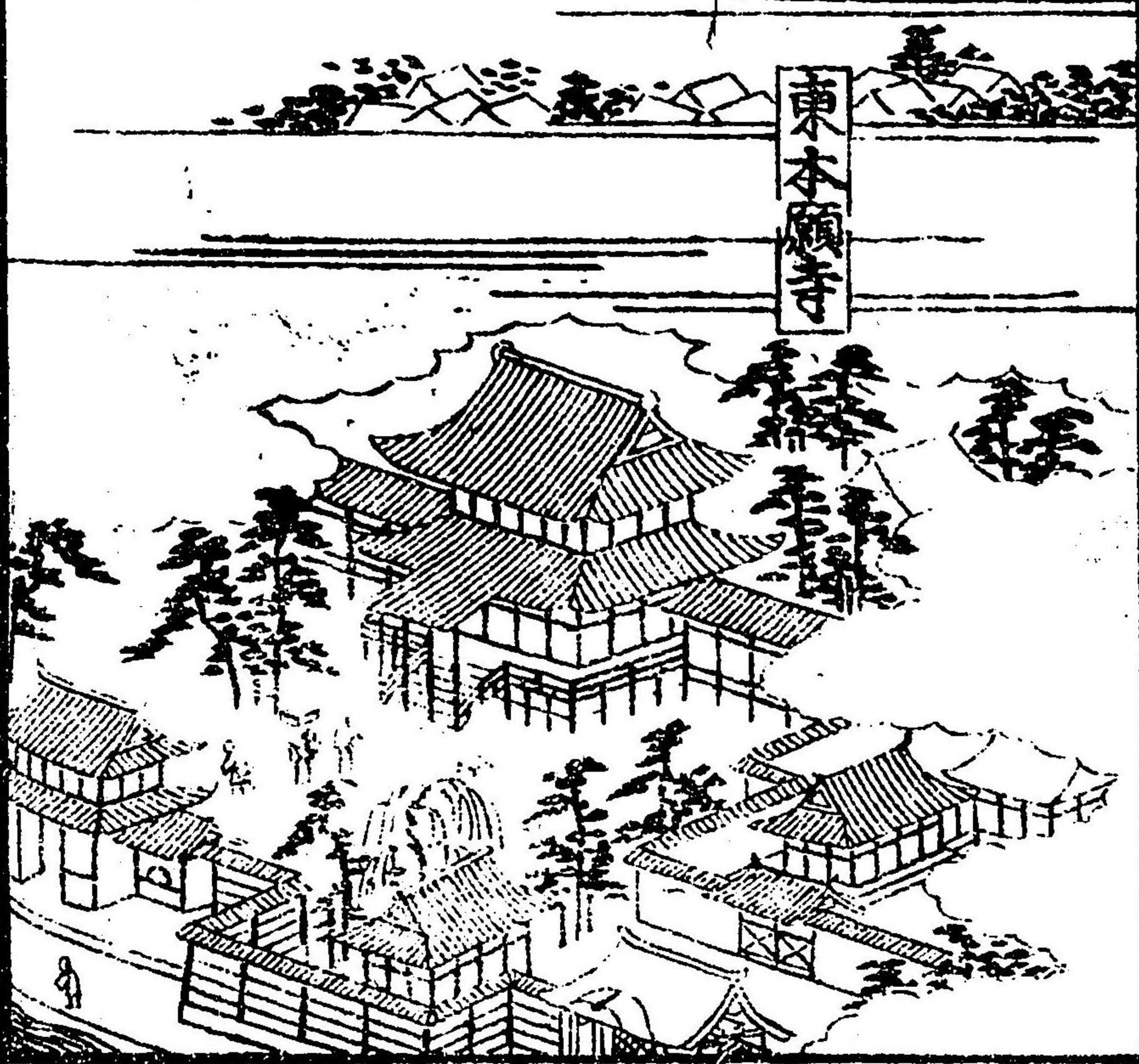
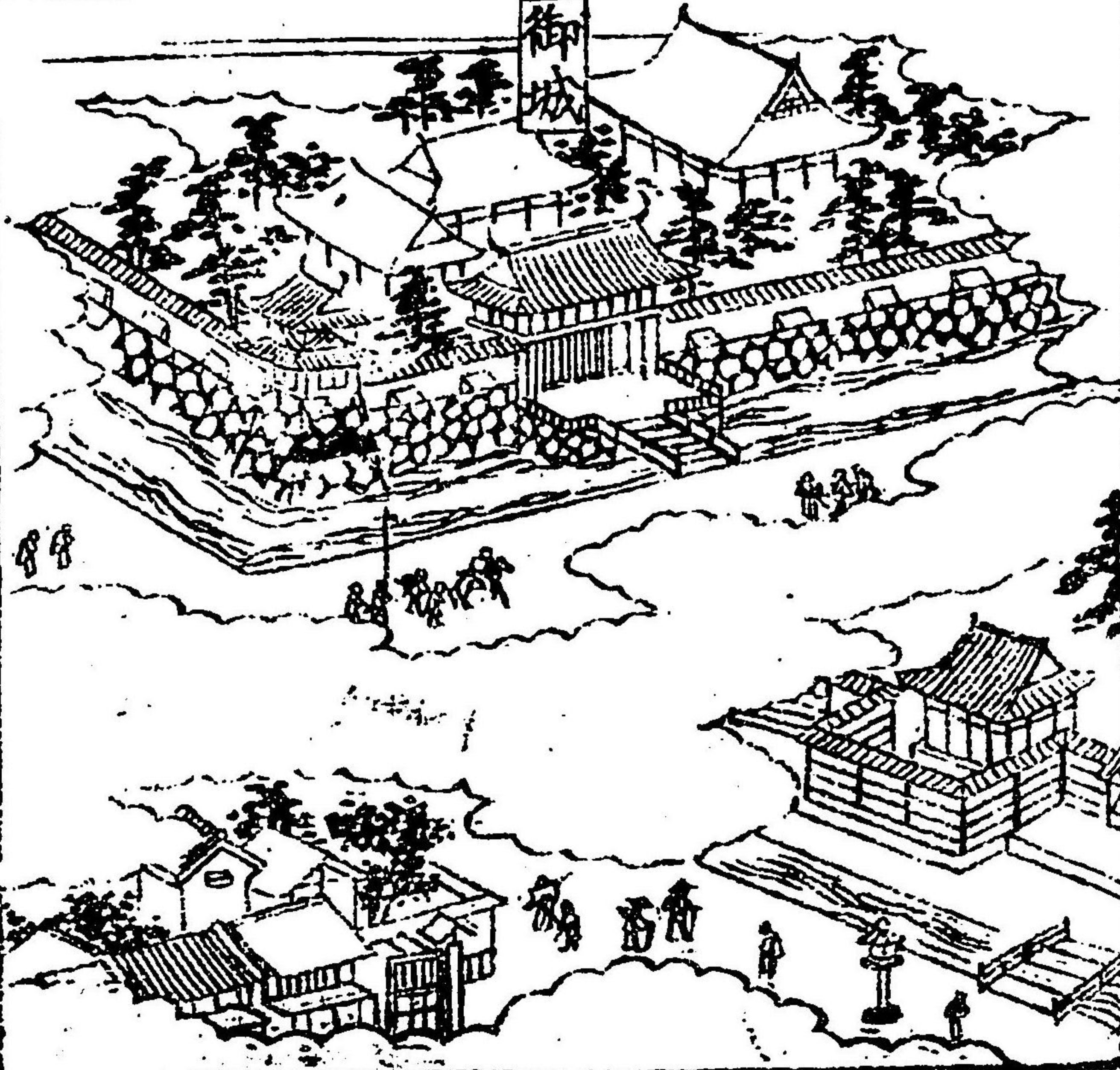
の柱ありと

ありありあり

○大徳寺の跡あり

酒井氏の宅あり

泉苑の南あり





○雀の森 妙学院の跡

河原太夫の寓ふあり

○壬生 地蔵堂の寺あり

壬生忠孝が礎とて古蹟

あじふも流中なるを

○本國寺 日蓮宗の大

寺あり寺のりり川

のち松原の寓ふあり

○本願寺 門跡と稱

○不動堂 細小路七条乃

寓ふ堂あり

○稲荷寺 西九条

あり○朱雀権現堂 西

七条にあり○水茶所 七条

の寓ふあり堂あり

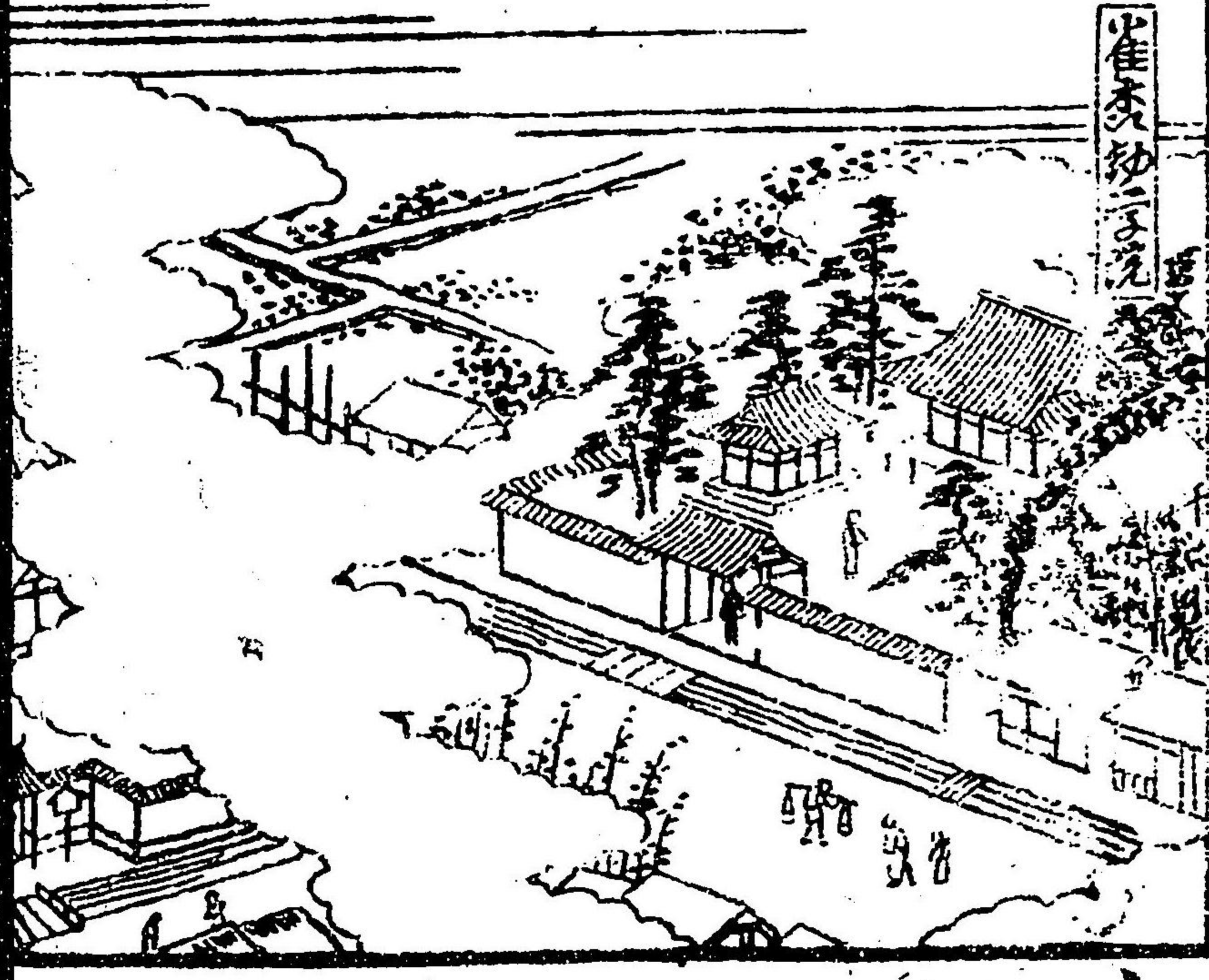
清水の跡あり

○西八条 清盛の旧宅の跡

あり○遍照公院 大通

寺あり俗に尾崎と稱

雀の森 妙学院





ごまのふあり

○六宮権現 六孫王御基

の華地小社ありの清建

意のつく仕業あり又八幡

春日の社あり

○東寺 卜東也ものこ

しあり所はにきり中東

よむるありてまきし健勝

大原社たりふゆつとご

にんぐい。高き宗のたも

かろと。又室の階ありおとれ

九乃方又乃ありを布あり

んも。あふ門あつひにわす

俗ふ羅は門いふまきも

ひしれ羅生つひ初のみ大

門ありをふありをび寺の

ありたり九条をふあり

○西寺の跡 今も田あり

てま故家の跡あり

己上西





右洛中城記をいひ介み細  
わら右後寺社多々れとも  
いづらぐりたれが略と

○右京の周太公境秀吉  
公はりせうる東の河京町と  
古河一の石いひとあ紙衣  
川のこゝにありあの東の  
右京の九条をいひいふと  
大徳ものゝあか天蔵のあ

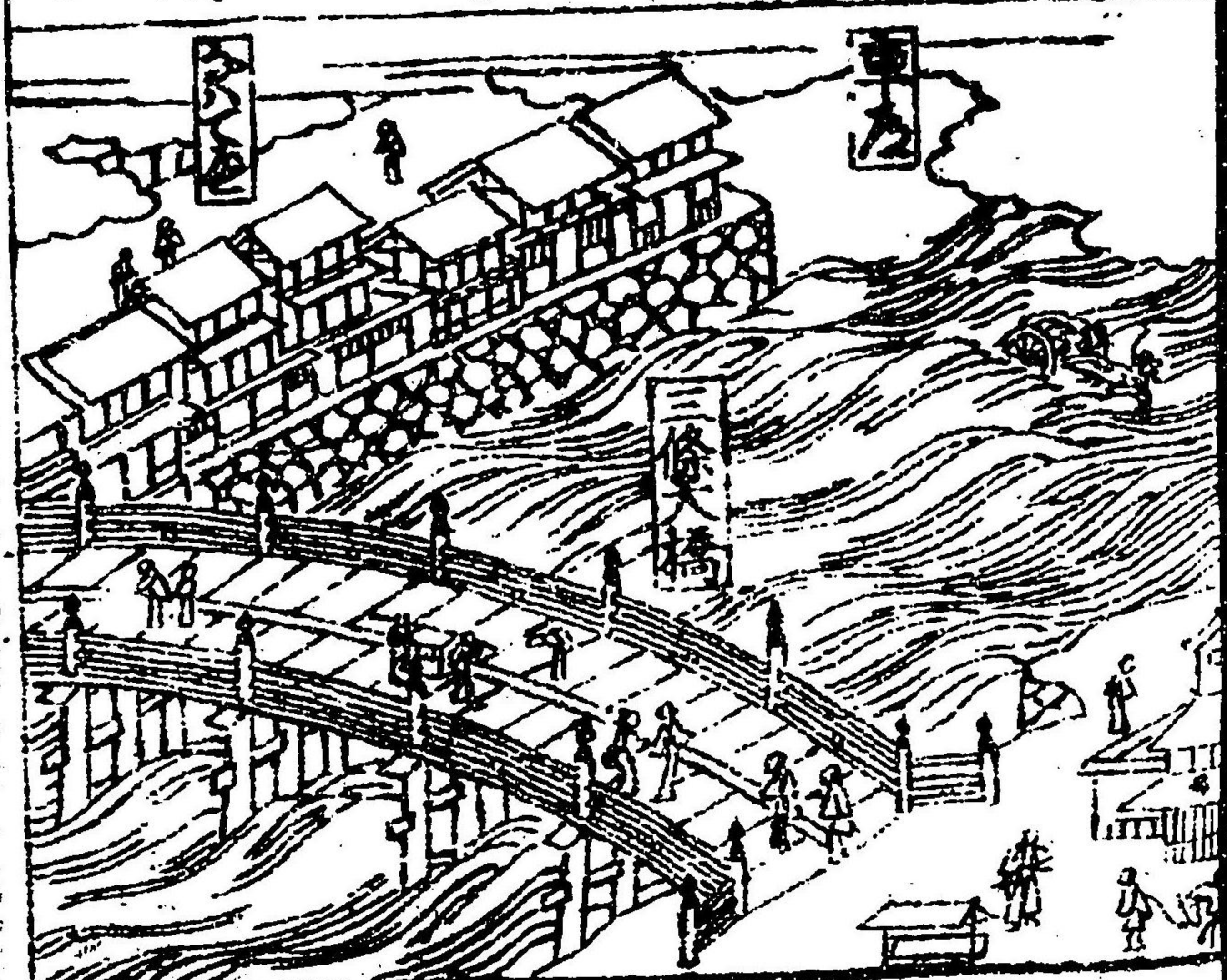
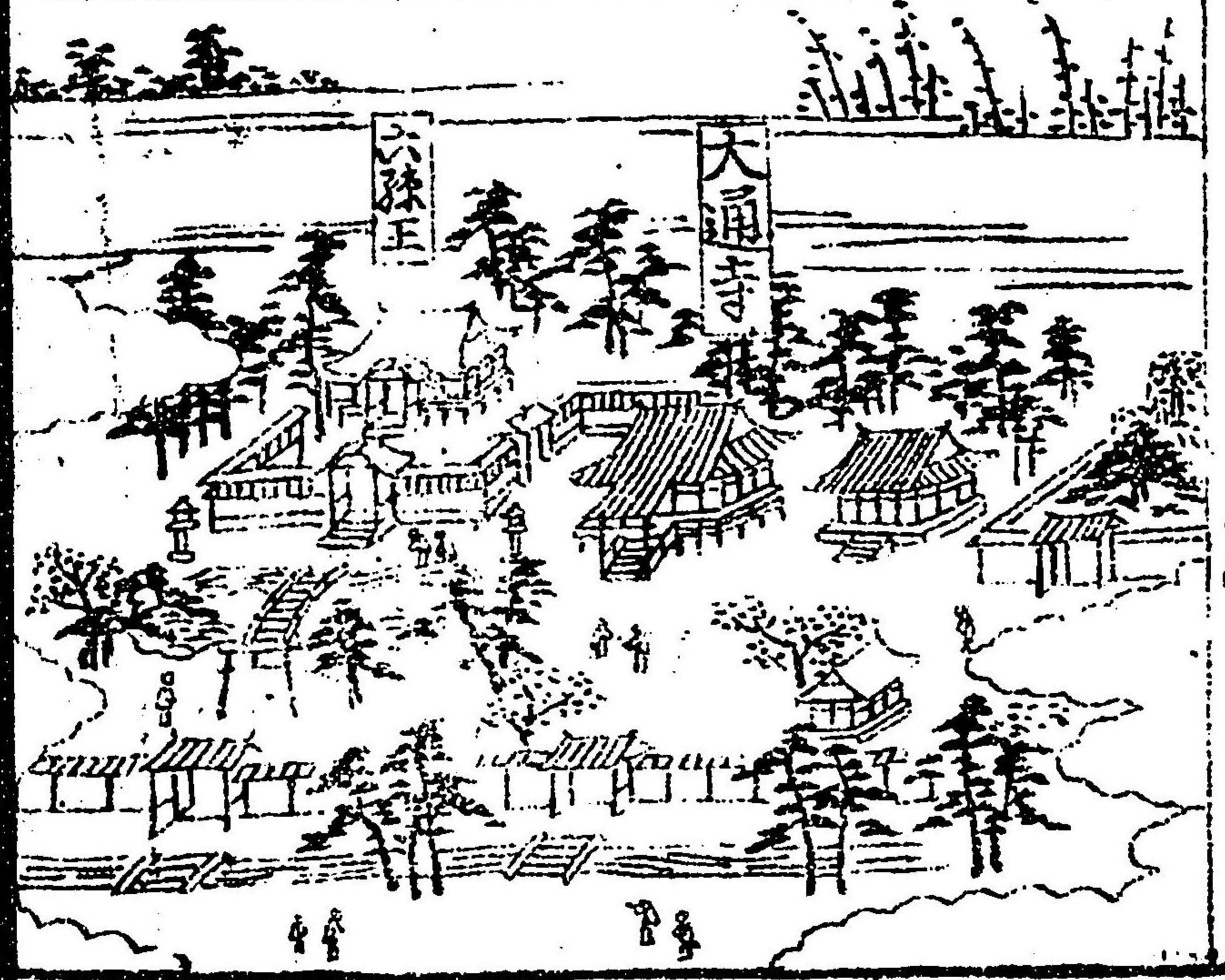
のり。京ののり。京ののり

右洛中畢

洛外

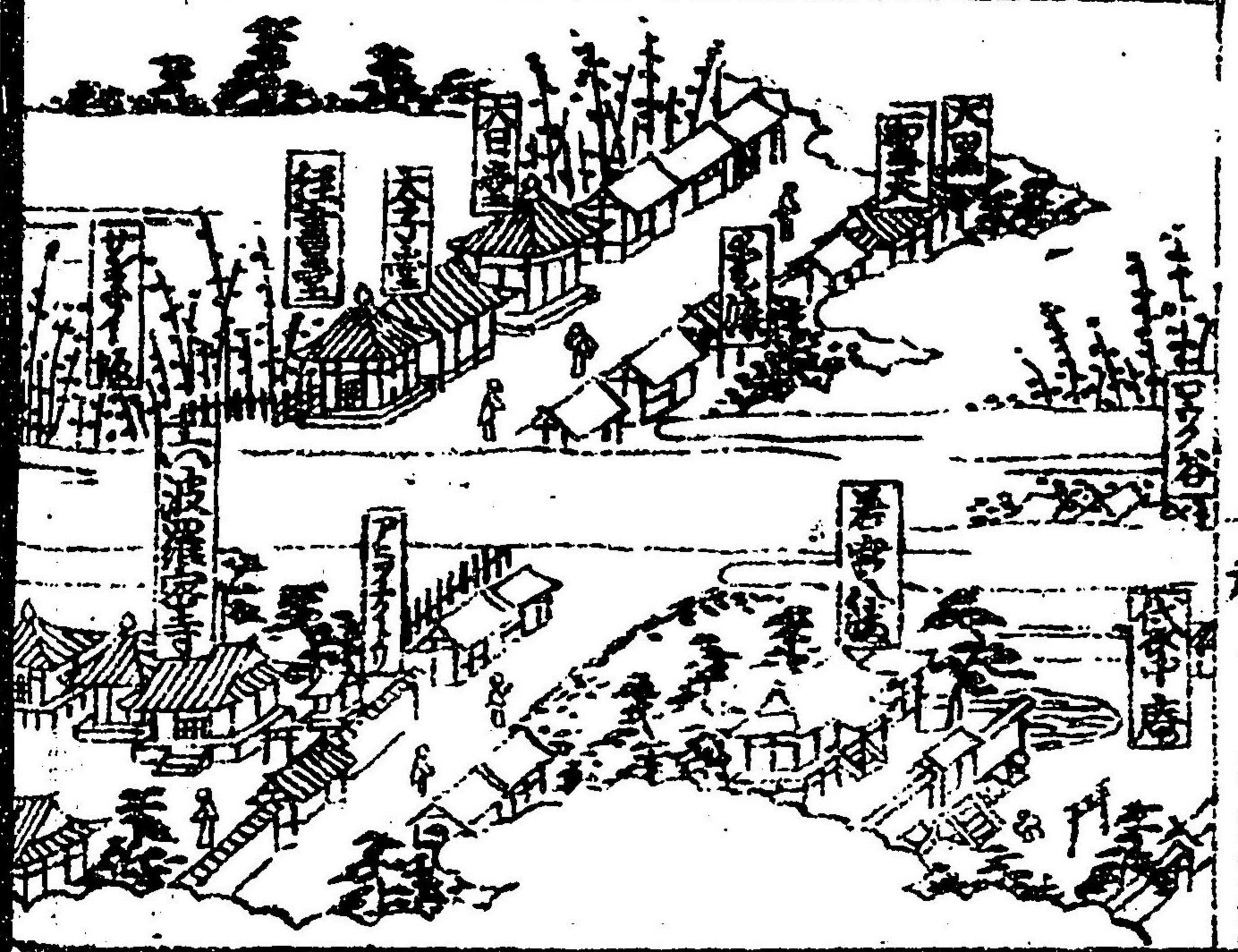
▲初一日 東方

○二条小橋 右京川  
つせう。飛りしりもあ  
伏見ふゆ。いあより  
のさかまがくもくご  
いもあに高生塚のり  
こまの。狐瑞葉もとの  
公英。知子及び侍妻教十





人何家にうぐい○三條大  
 橋は茂川ふつとせり橋の  
 上よりひえのふはるのき  
 大糸橋をさきふのた  
 かん○ふりく町 三條大  
 橋のまよりと河原の方には  
 乃あり○大和橋 白川  
 こそせり○建仁寺 只山  
 の一かたり大もあや○養老  
 寺は波屋のけいしん小御

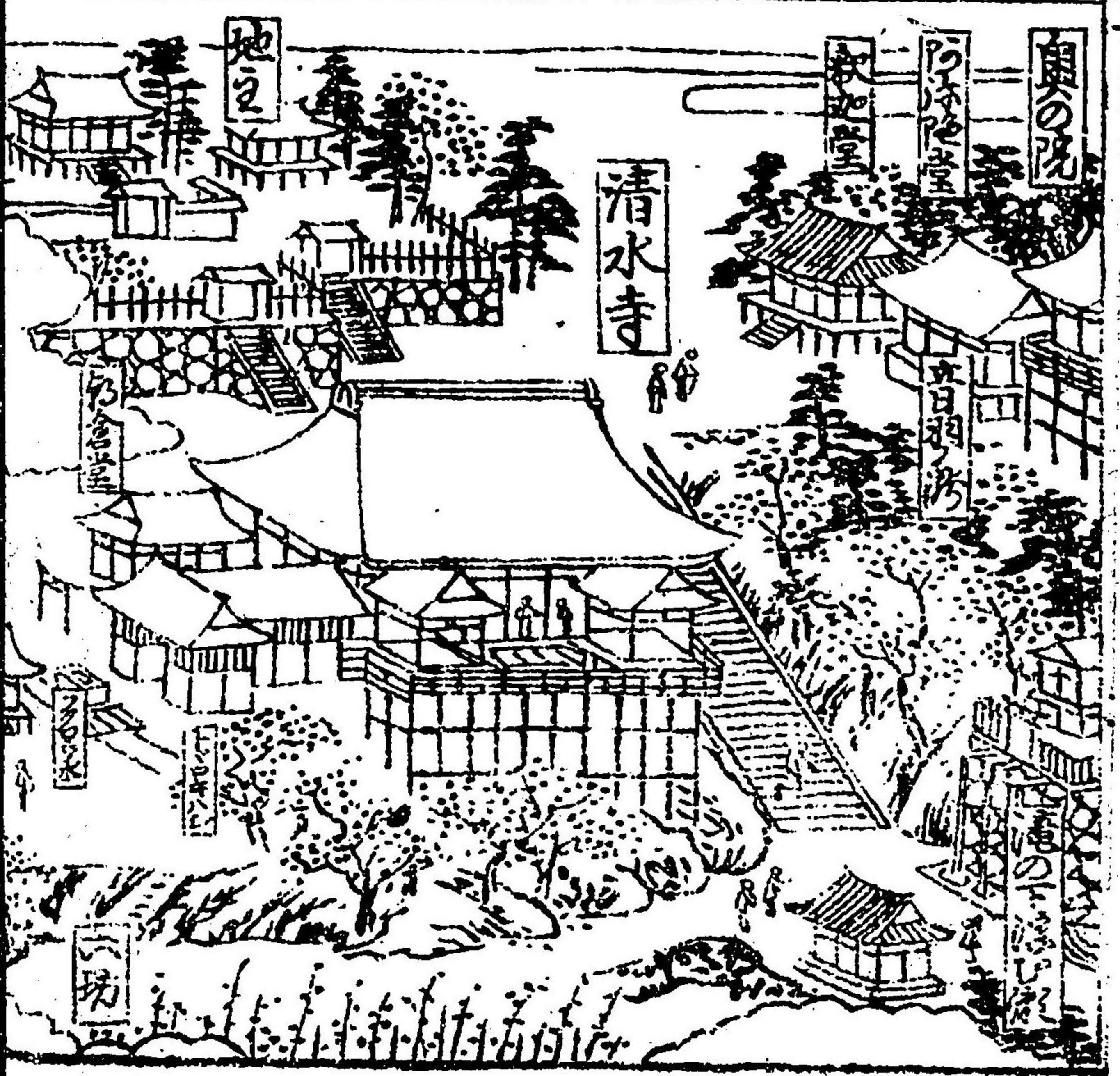


にわり○六波羅宮 奉  
 考中い知者たの美陣 布  
 地務方り○経書堂 六波  
 羅を坂とがしよりてよ  
 わりふりかろと○子安乃  
 塔 泰成寺のりふるが  
 ○車宿馬路 け二面の二  
 門のりふりふ側あり  
 ○清水二五門 修磨場  
 坂のふりけふは成就院五





○田村堂 田村丸  
 の本像ありあり  
 ○清水観音堂  
 南ふじろをちよひ  
 作らわりの観音と  
 いふ○地まげ現  
 観音堂のうしろ  
 きふよみ橋わりの  
 社の観音堂より  
 ちよひありあり



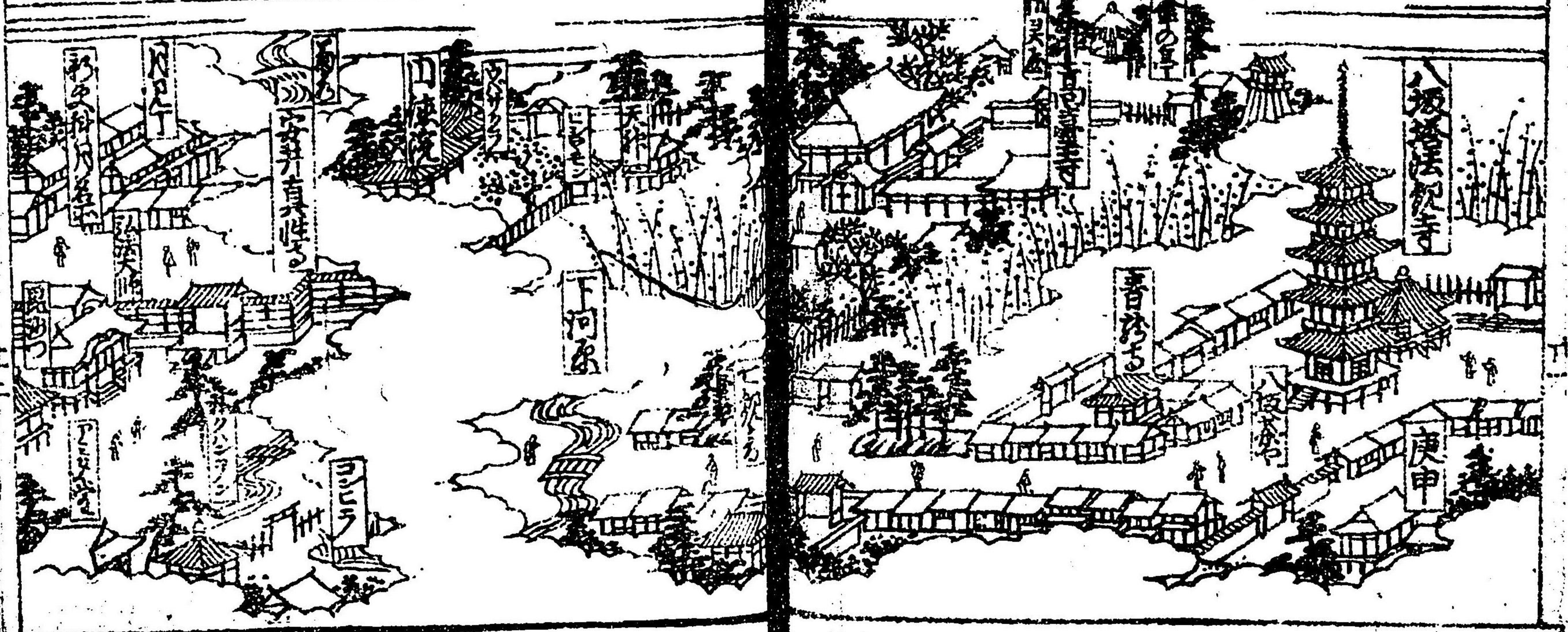
社の前に僧の目  
 石のうしてなま  
 わりしもの林あり  
 奥の院ありあり  
 ちよひ一方より  
 江ゆくふ多し  
 つる○奥の院 西  
 山大系地中使山  
 寺外洛中洛外  
 見ゆ好系あり





○善相山 清水寺の上のふ  
 かり○善相の遊○三の坂  
 清水寺より下ると後園の方  
 に切りあきわりの○下の東  
 小川を渡りおりの出○霊山  
 時宗あり坂と東よふた  
 あり傍坊多し好景の坊  
 わりて能人多し傍坊少  
 精を料理といふとよふた  
 霊のふとよふた天照を神

宮ありげふなりしあり尾  
 中し早くと霊徳宮よふた  
 とよふたのふ○八坂乃  
 塔 法観寺といふ又寺の  
 塔なりげふに葉を多し  
 ○善相寺 大なるあり豊  
 長秀吉公の山の改不立あり  
 すかりし秀吉公の山の改不  
 の本像は霊廟あり。碑葉  
 あり表の花秋のむす多し。



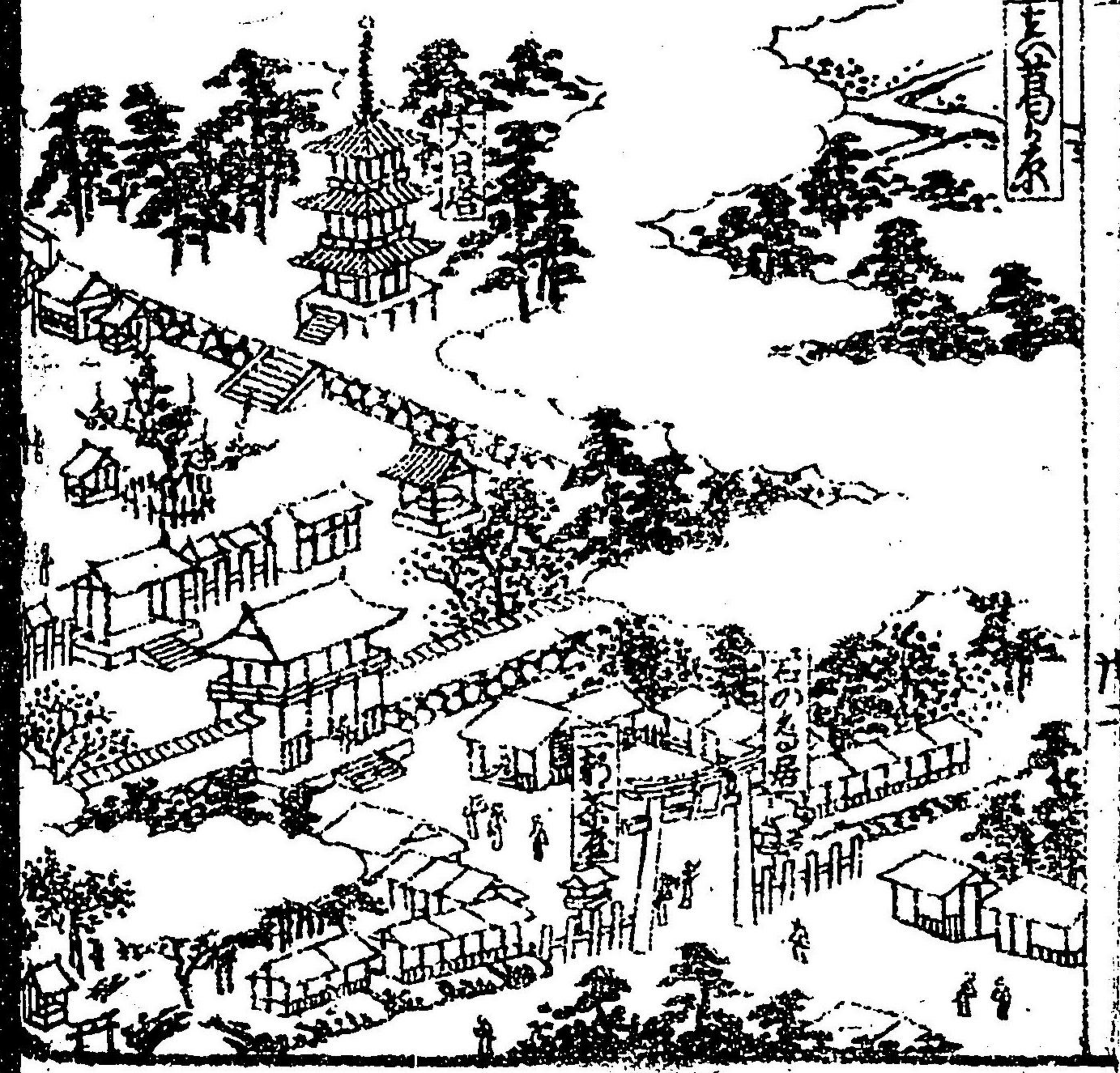


其のふ。もるふもむ  
多し。ちりりふふ  
い。この祇園の方に  
ゆく乃あり

○安井真性寺

此乃親勝なるを  
建むるの。りりあり。  
着ふふ吹は。し。橋  
りありて。人あり。  
奥に金毘羅あり

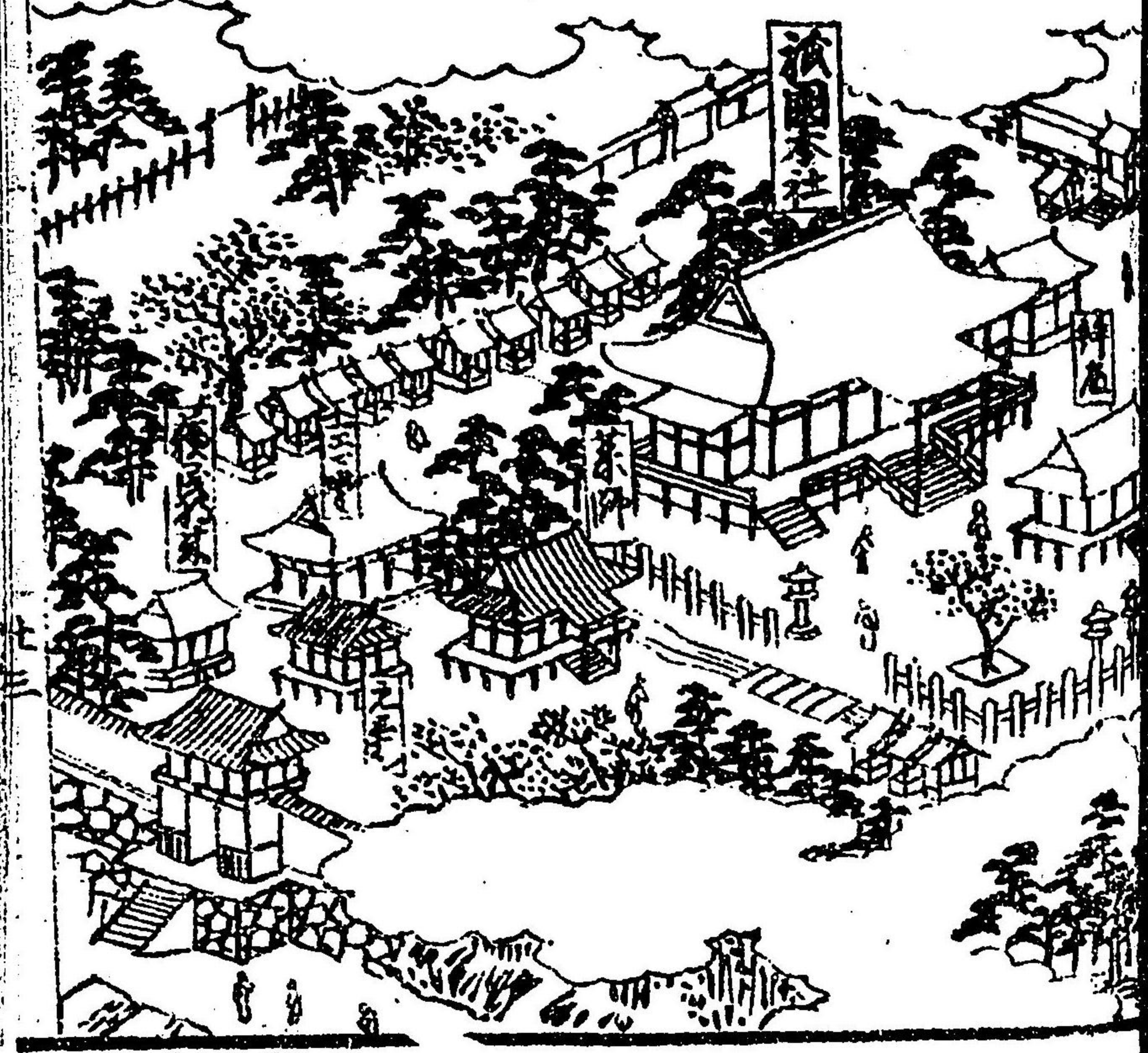
東照宮



新築のふあり

○祇園感神院

石のる居乃。新い照  
る院道日。親王乃  
市。等。かり。と。神。殿。と  
紫。震。殿。と。撰。写。せ。り  
と。い。ふ。清。水。と。い。は。く  
人。多。し。あ。り。橋  
あ。る。の。方。に。藤。氏。の  
東。の。社。あ。り。の。方。の









〇 將軍塚 長安寺の上乃  
 〇 院よりよりく。南ふりの方  
 〇 天皇いかにかえりて  
 〇 とき王城の徳儀の神  
 〇 志せつらむめい

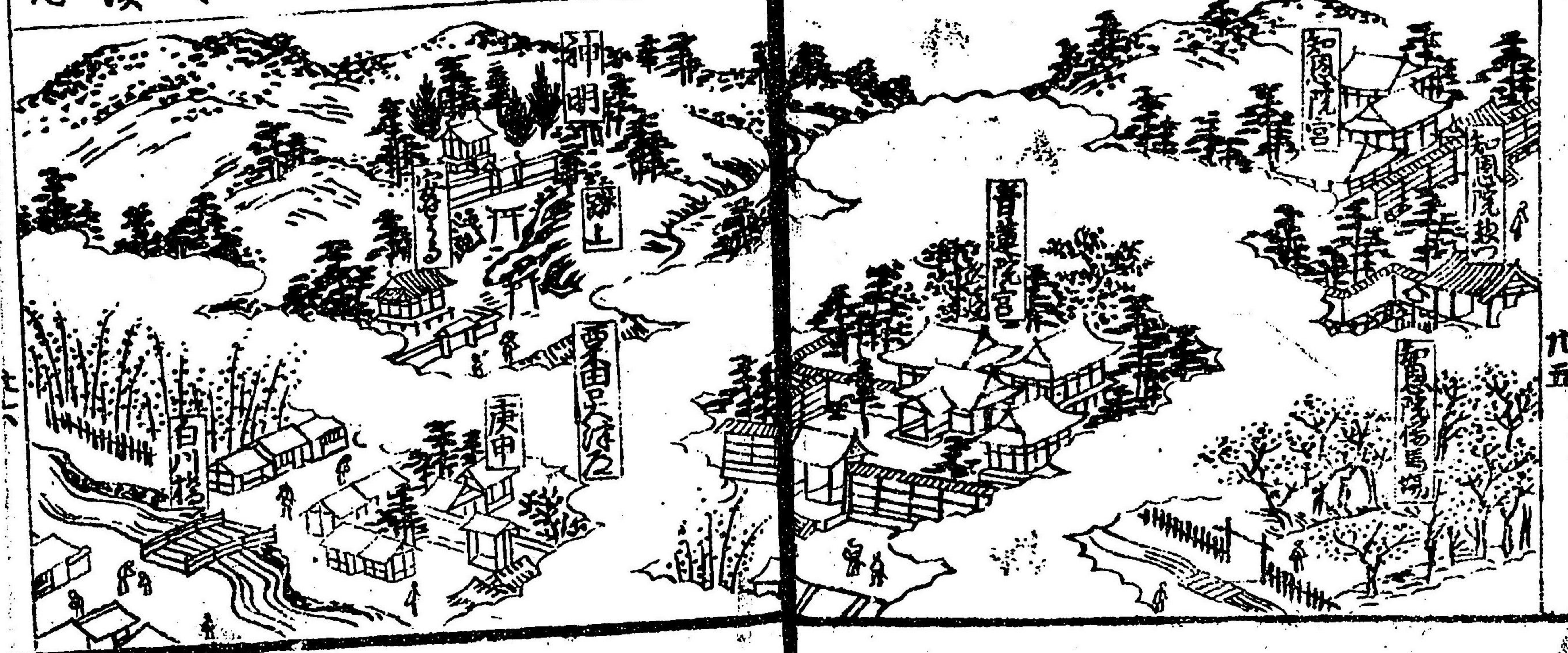
〇 知恩院  
 〇 浄土宗の教かたは  
 〇 方々興ふ事  
 〇 有るに  
 〇 も下にも  
 〇 にも本  
 〇 てげ地  
 〇 苑多  
 〇 漢五





静寂しうが堂の南なる  
 きふくは種あるが堂の東の  
 石塔はるくよまじりに心  
 院の奥に院と云○庚申  
 堂 普光院と云○知良  
 院のかつ瓜出川ふほそ  
 ともちふゆくげふまむ  
 わり。堂ふ三橋のこもる  
 ○粟田の三系をより大  
 けのふにけりあり○白川

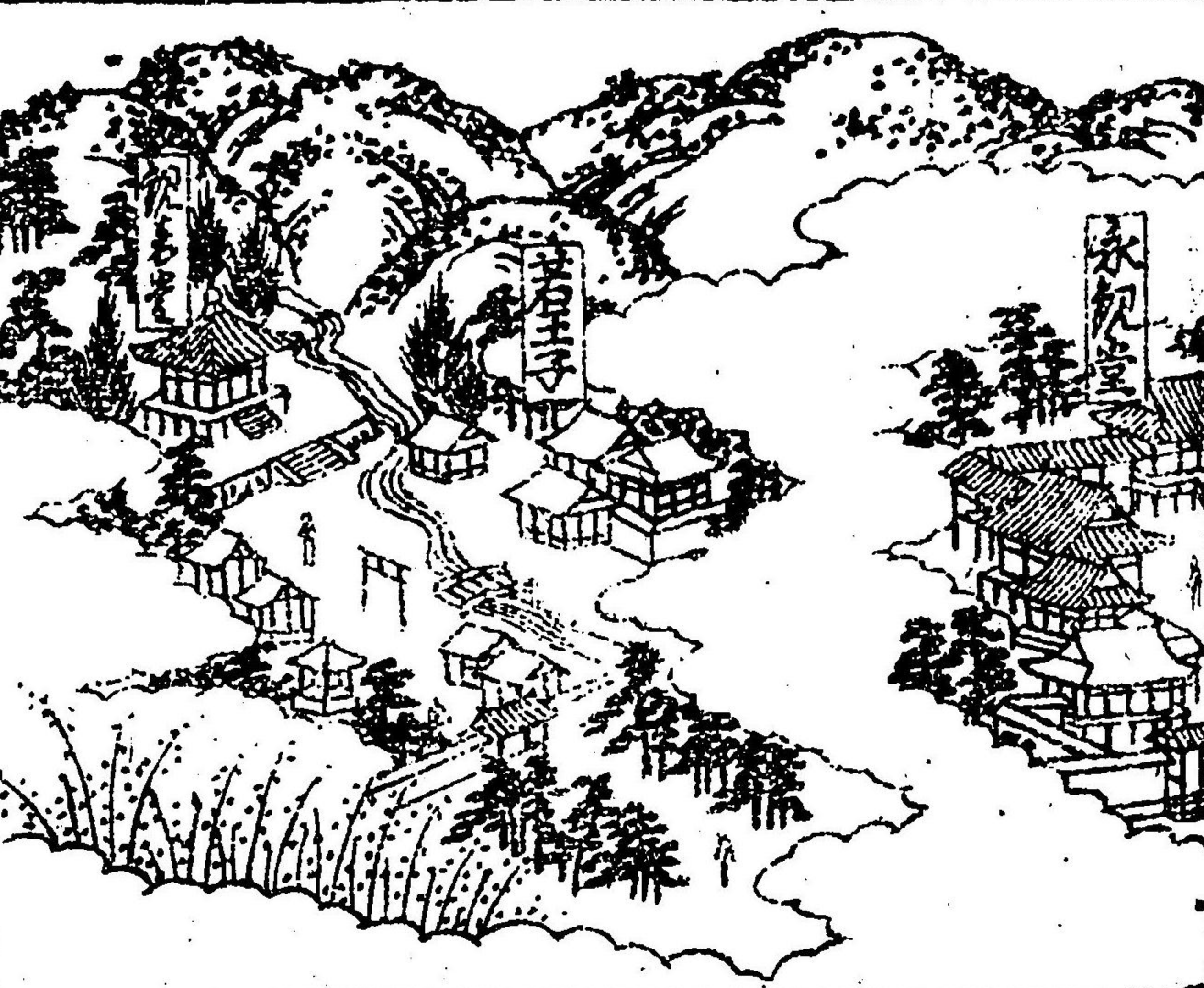
物 白川ふくまじり  
 ○青蓮院 粟田の南の方よ  
 五親王御門跡あり。清教の  
 知人多くてふらんふ年と  
 ▲第二日 東方  
 南禅寺より山下粟田の  
 のふあわ  
 ○南禅寺 又ふの上を大寺  
 なる。三門あり門ふ十六羅漢  
 あり。ふたふは種あり。ふ門





見取多し。子院の内金地院  
 寄席あり。修儀末のり人  
 熱の茶の乃名し。あゝ茶や  
 あり。栗田にちりし。びさのお  
 く谷のりよ。約が境あり。まきこ  
 死ふのりよ。まきこ。心のかつり  
 物く。まきこ。心のかつり  
 をし。まきこ。心のかつり  
 ○永観堂 標林あり。まきこ  
 香の流流。まきこ。心のかつり

浄土のふ。正徳の多く。集る本  
 庭寮あり。後乃あり。○まきこ  
 山伏の先達也。然其権現の  
 社あり。○兜雲寺 近年有  
 禅あり。再興。東福門院の  
 河助成あり。れり。様も也。花  
 わり。佳境なり。○悲田院  
 是にも様あり。あゝ。ふと  
 小のり。次貧人の居る里  
 あり。家多し。○黒谷紫





雲山金戒光明寺といふ  
 浄土宗の寺也。門前小所  
 のり。基西に教盛然谷乃  
 石碑あり。又岡崎村に佛  
 殿の東に上りて後ふ下を  
 銀園と云ふ。くまをき  
 のをうり真如堂の方には  
 乃のを○真如堂といふ  
 けさこの所の東にふふ今  
 元々の地をたしむる民がた

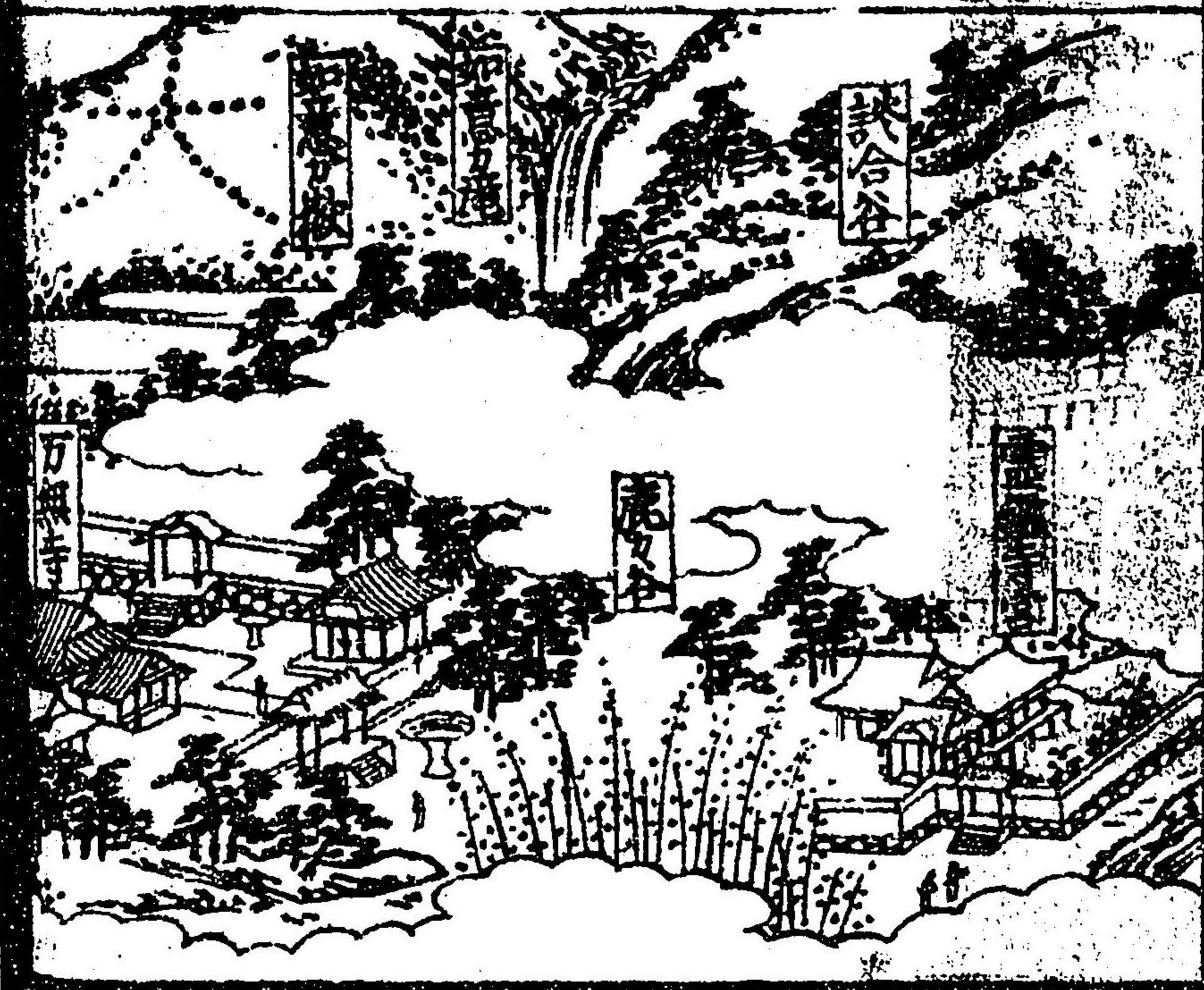


流の系始古所ふふ一ノを  
 寢にうつる。つあふ系屋  
 社人しとの鹿谷もまの  
 の下なる谷の真に妙を  
 わるし。海がみゆさうて系  
 うくらゆら。海の南はもの  
 越て別の谷。後實人傳於  
 家。以てかさんそ。後念  
 一ノ社。の谷。三階の人の  
 あり。ゆふけ。若くは

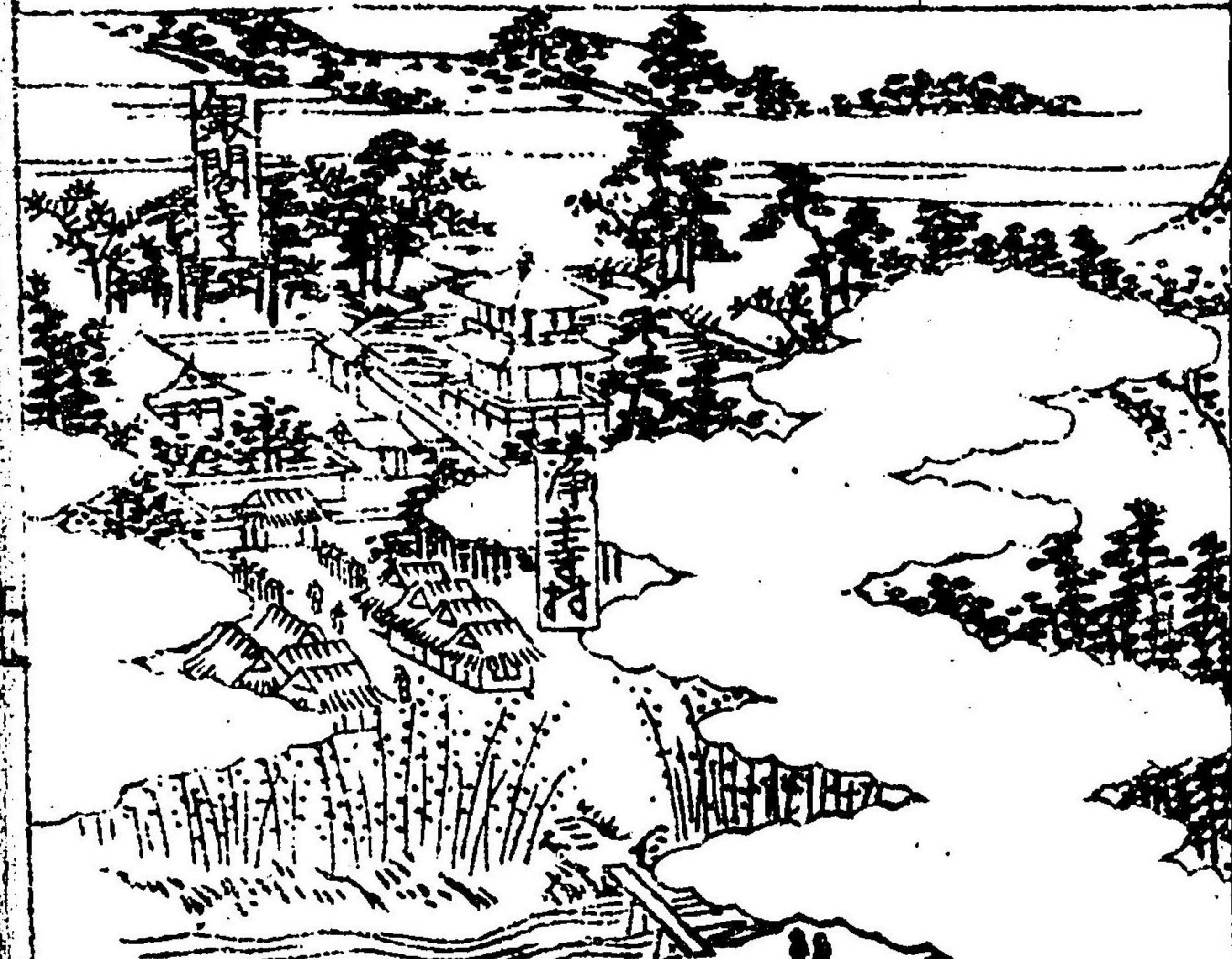




ちよびよのきふ山抄を綴り  
 しては事以眼りする人の又ハ  
 東近江のいん白カ○茶屋  
 ひし傍坊ありとく中世  
 と地質ハ心知屋院の系  
 在初高真身せり。佛殿甚  
 と秀麗なりとふふちりし  
 湯泉あり○銀園寺 将  
 軍東山殿足利義政の宅  
 のゆかり。野澤あり庭有。



白紙のあり。義政のまゝひ  
 銀園あり。園と二階あり。東  
 求堂とては人並ら茶  
 室あり。是茶湯を飲むのト  
 り多し。傍にありとるんは  
 此と乃ふふ。あひ七月十六日  
 酒の神別。大の字に大  
 にとりし。○吉田 ありあり  
 の茶場あり。日本園中  
 瑞祥とびふふのまゝ。













西へ入るて東へ入る

とある

○又條の橋 是も橋を五

入条通ふらわらばけ橋を

後川とせりたり。此の川は橋

のあはれなり。○大佛

方廣寺に八尊はあり吉

公家もあふ。本寺の釈迦

さ九尊又入口のしりごと人

入す。あやしむらりさ入一

寸むる像佛なり。堂乃も

水軍入り二入す。東西七

尺入りす。堂の棟の高さ

二十八尺。柱九十二本。北面

の石垣長さ二二尺なり。此

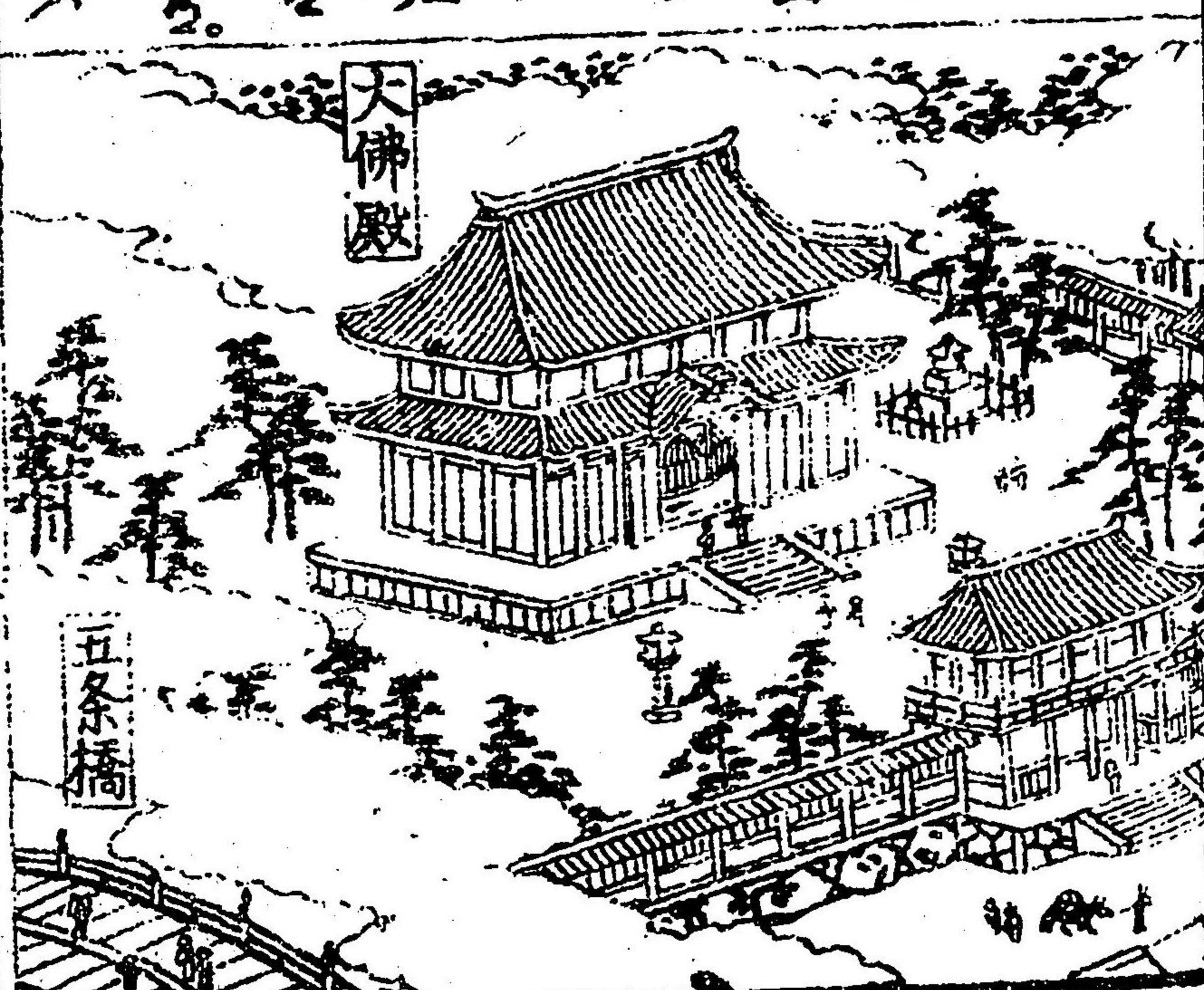
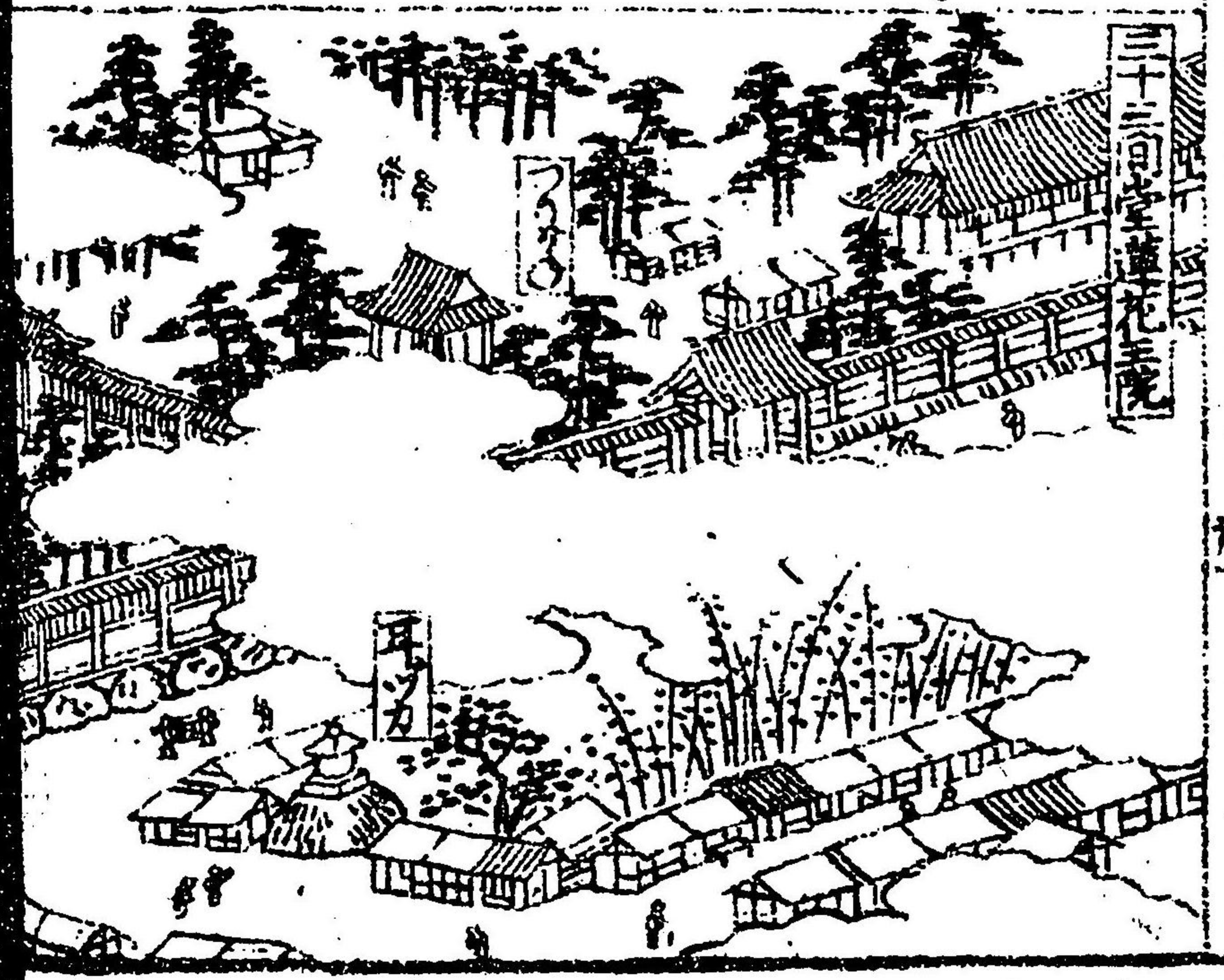
大石なり。大鐘あり。一丈

四尺。もう九尺二寸。わつさ九

寸。奈良の大佛の種よりと

大なり。昔、朝鮮人の耳塚

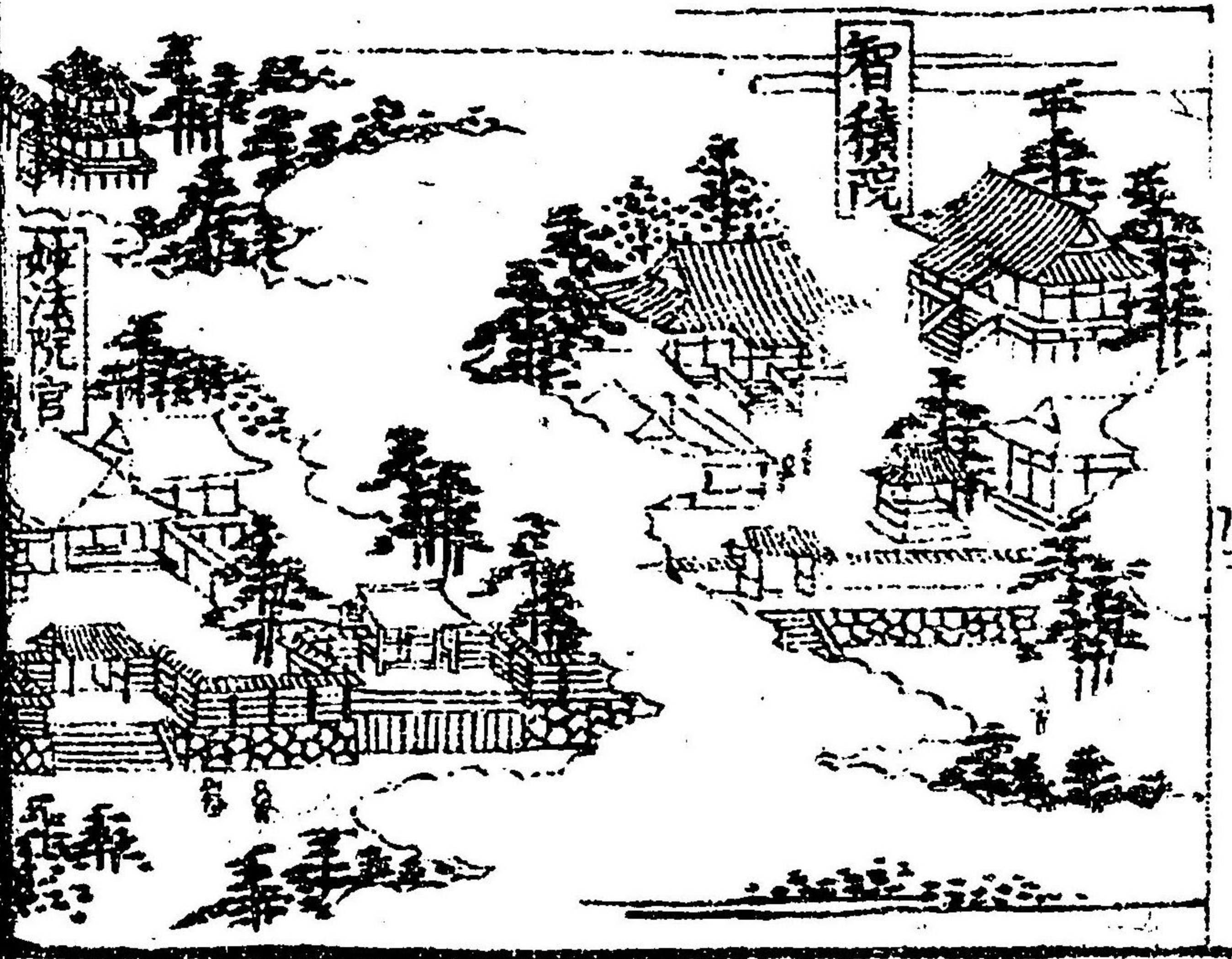
堂の東南小國泰隆といふ



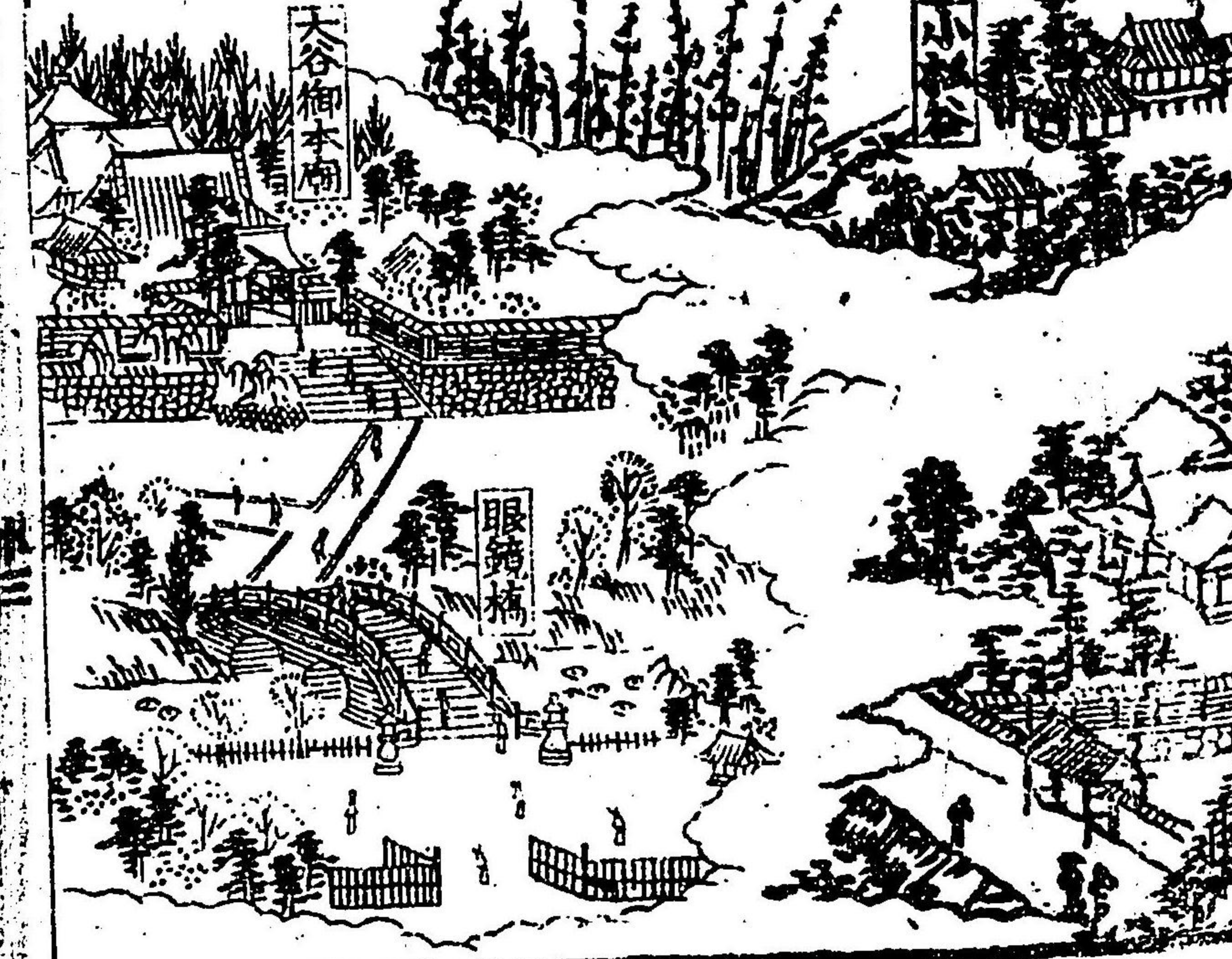
五条橋



て秀吉の病所のまへにあり  
 (三十三回堂) 蓮花日院  
 法白河院を多くする  
 先手親書あり又ちの  
 ふも親書あり一冊と安  
 と堂のあり六十坪一尺  
 すのり三つ分一回し  
 ありあり矢野と村の  
 西の福ものありあり  
 けしきあり○妙法院



入るるを○智積院 あり  
 書宗あり紀別根本あり  
 けしきあり○大若  
 寺ありあり大若あり○大若  
 妙法院の水車ありあり  
 西人の墓ありあり  
 ありありありありあり  
 ありありありありあり  
 ありありありありあり  
 ありありありありあり













○竹田 伏見より南にゆく  
 に竹田をどりゆく竹田ふ  
 安樂寺流のりまゝまゝ  
 本堂の下にありはる  
 藤を有する。新所橋の下  
 に八條女院と藤を城あり  
 神の表ありす。比叡城  
 南難宮のたかきをたかき  
 もいふありあり。藤あり  
 ありあり。藤あり。横大路と

りふも竹田をふりて  
 二条よりこの川とまゝ  
 なる川と竹田あり  
 伏見ふ入りて流川もこの  
 みらふありくありの  
 の橋ありたりありあり  
 入り竹田ありありあり  
 東洞流ふあり  
 ▲竹田日南  
 上の醍醐ふりてあり





○徳島寺 山号と中を

のふ徳島の南ふあり。ち余

院の清陵あり。此地より上

にうえそくの東あり。そを

し多ふ一社のまつりあり

本ふありあり○おのちふ

法軍をけうりつのもん

○ちの若殿 徳島より

ふ科少なるありあり。養

徳道とあり。小松谷とあり

とあり。若とあり。あり

ありとありとありあり○科

宇治郡からとあるあり

とあり。若ぬふのありあり

清陵村よりとありと六地

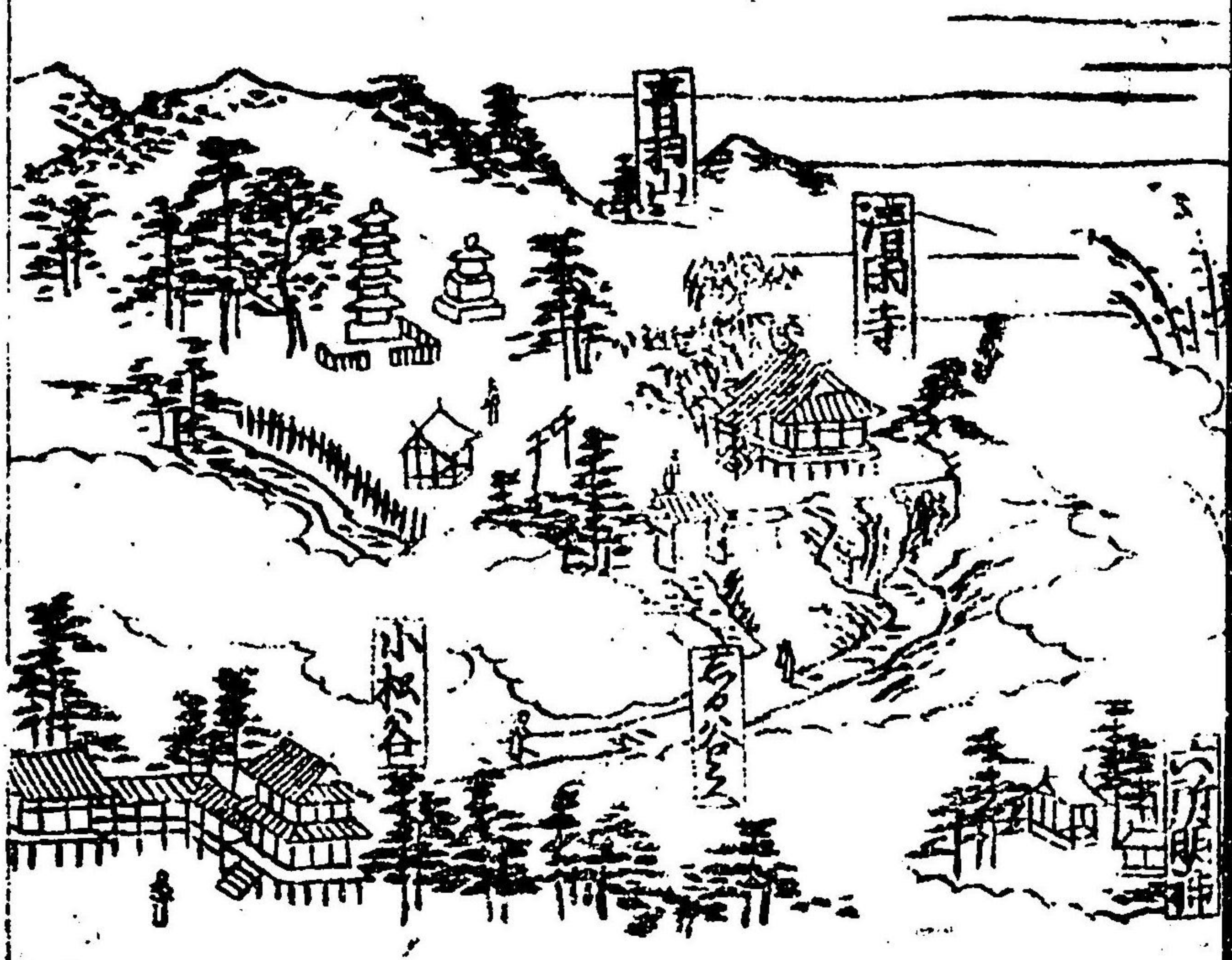
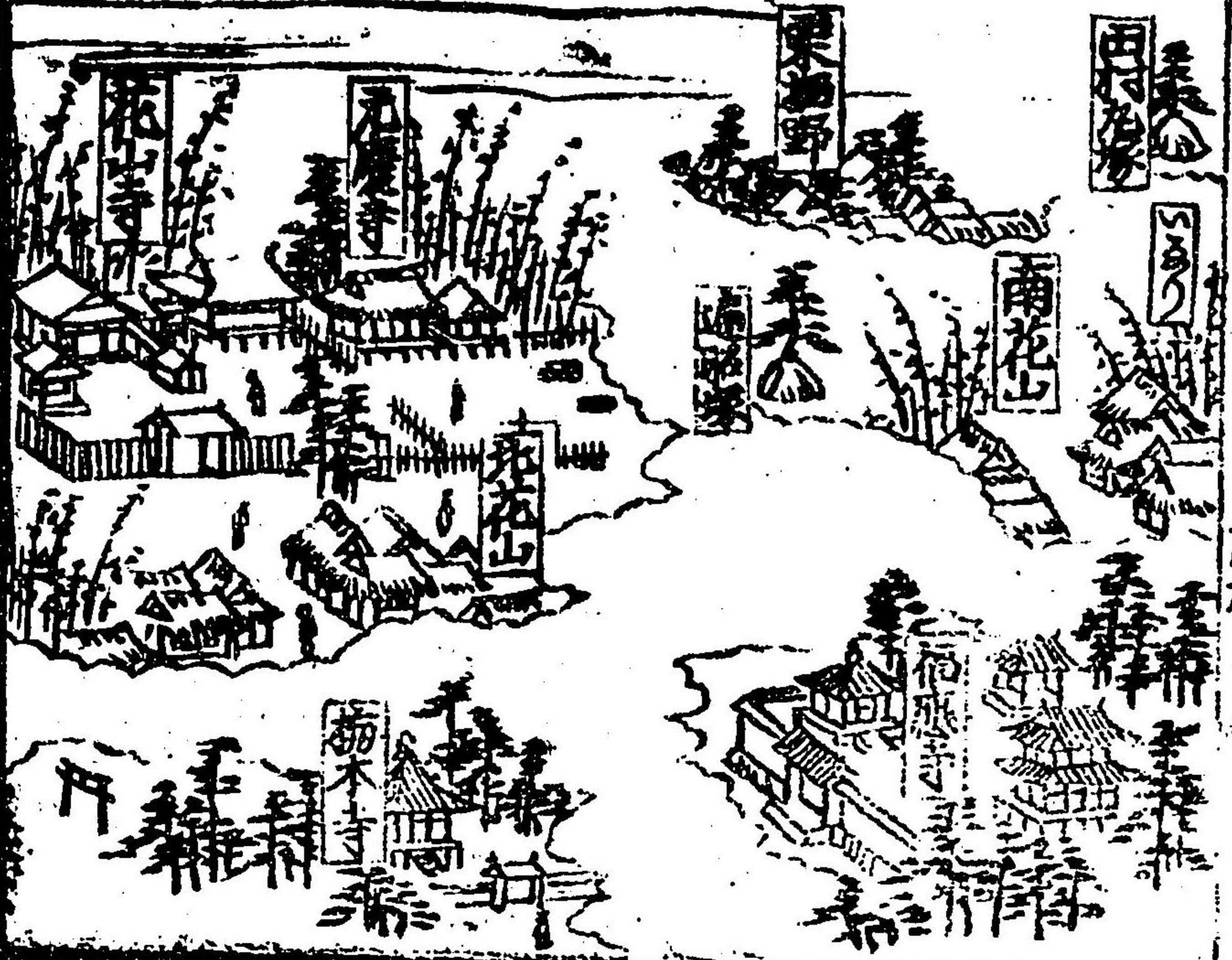
までのありと一里ありと科

郷十八村ありとありと科

ありあり

ありとありとありとあり

科のありとありとあり









天皇の御孫人家のうしろ  
 へのりあま又平地かんま  
 中に三寶院尼の宅あり  
 是ままふ伏の長方なり  
 うし。教所のうねとの  
 わり。秀吉公取をまか  
 ら家になまるといふま  
 又をうりあり。かまもい  
 ましと揚花より。まより  
 の礎破人二里あり。坂との  
 る上下の礎破寺まま  
 ○上礎破 釜取ふ方あり  
 あり。ふに清滝権現の  
 社あり。びふく女と社あり  
 ふふ小幡坊あり。茶葉也  
 ふふまふ。系あり。一目ふ  
 やうく。何れも。まより。三  
 本あり。東のふ下れ。本  
 にまふ村あり。秋まのま  
 五のまふ。ふふまより





あふにゆくらあり

○ 日野 栢多しちんた

の借終ふし舟乃とら

甲斐の栢とつ海外はく

栢あつと西こそはあて

とつとたもまう。ばあま

市街のそぢわりのひ

のふれこつた時長め

大なるの目野た下のふ

とよりみかこのまにの

宇治のゆくらあまの

既ぬくまトとらみらう

かーとたうまう

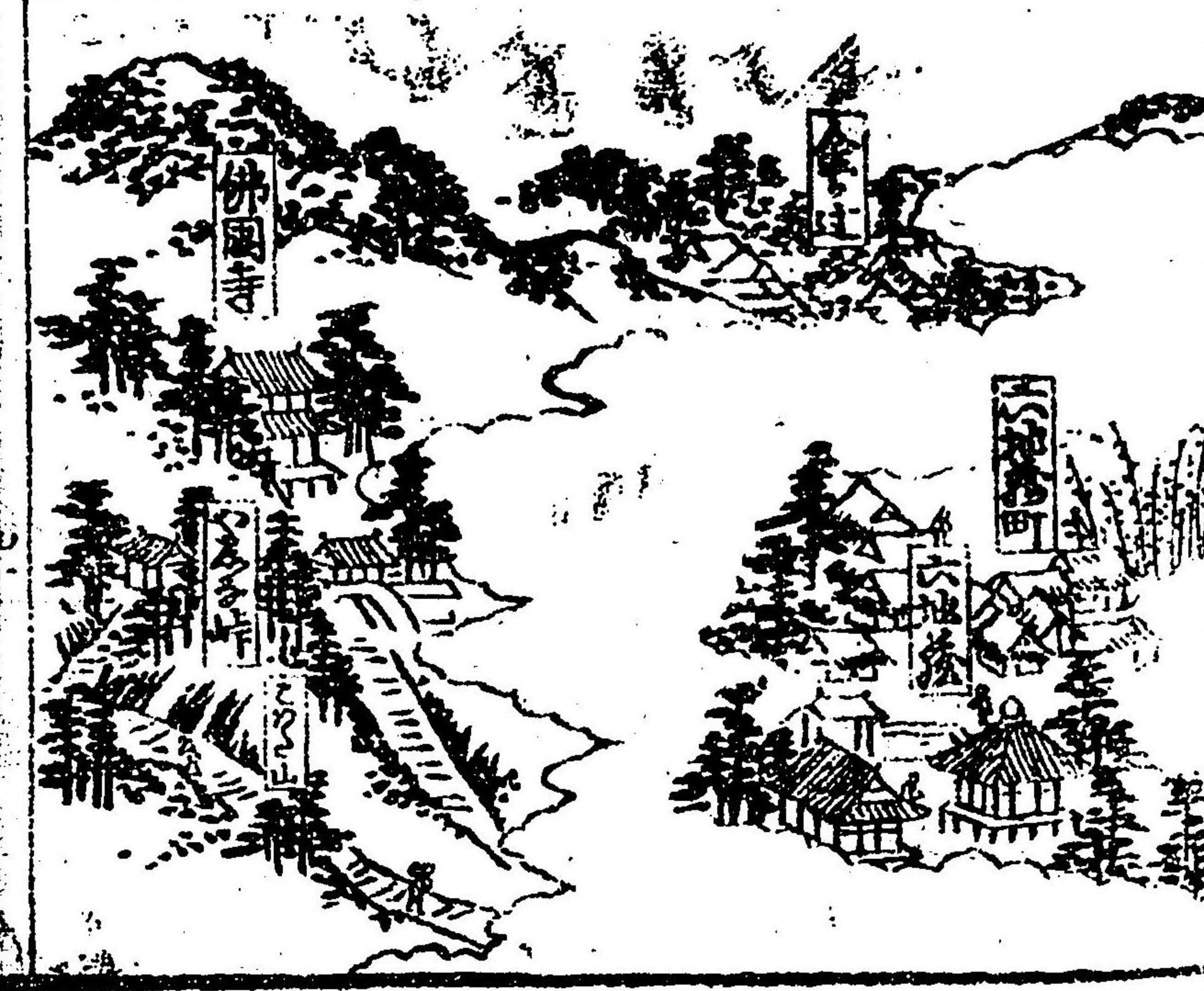
▲ 筑前

宇治ふゆくらあまの

宇治ふゆくらあまの

えん科のうら既ぬと

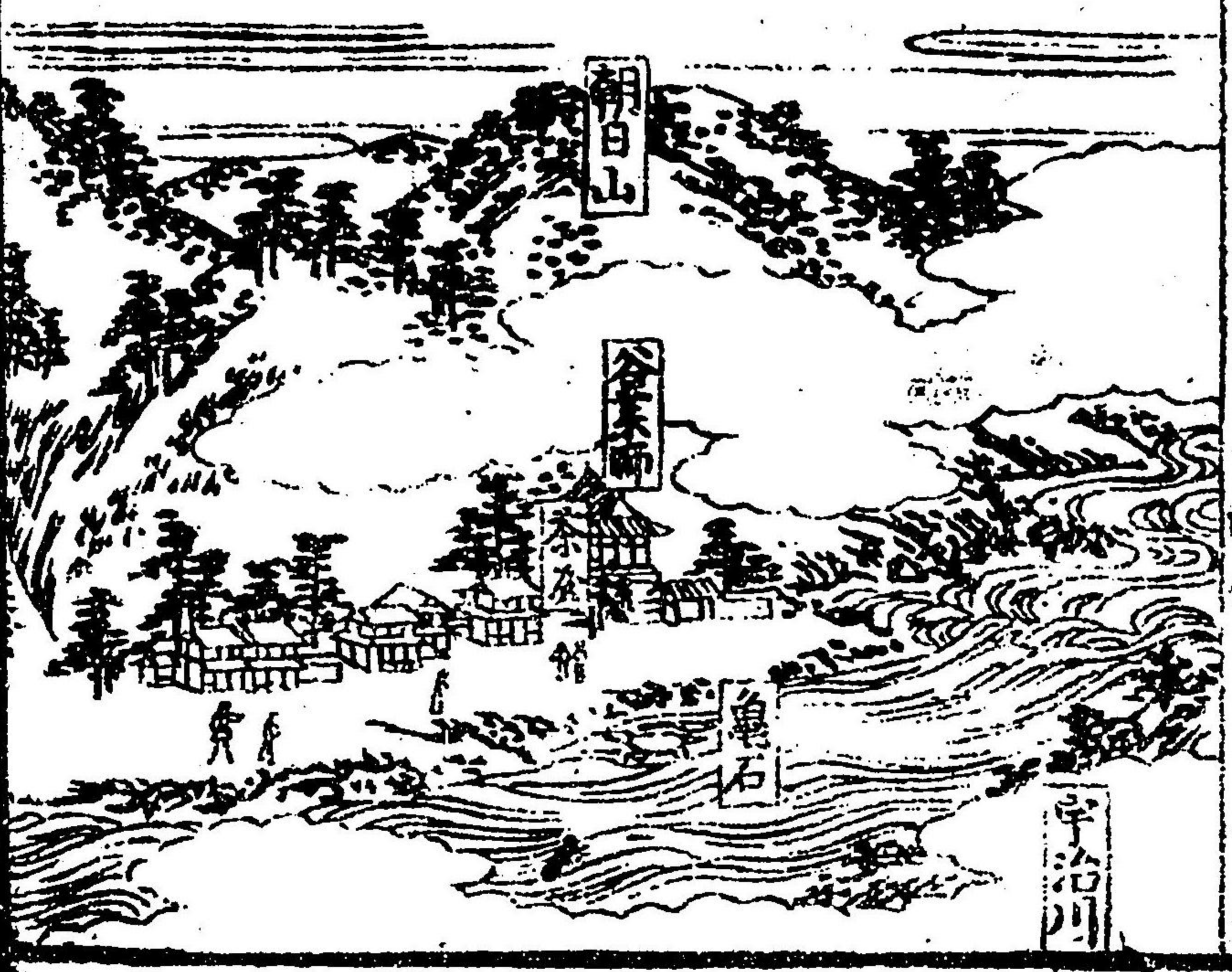
てた地あふゆらう





○麓の鹿の社 伏見のひが  
 一のありはあかろ○吳若  
 院○伴國寺 唐信高泉  
 孫師の再興佛殿を森  
 かな○六地秀町町の茶  
 屋おほし宇治川よちうく  
 志くまのほくあまう伏  
 見にも大はふもゆくの  
 らまごかるる○本橋 名茶  
 かりやしあわり天良種耳

○黄檗山 東福寺  
 大和田村ふりの唐傍源元源  
 師の因泰佛殿を森あり  
 三門のり内人の茶のり奥の  
 院あり○遠方町 宇治より  
 あまの町ふり○大馬寺  
 町 遠方町のゆふわりの  
 儀ふるまう治まをふるとり  
 にはわくとそとそとそとに  
 室をふゆけはるる今も









無事のころはのち

宇治乃里よりを望むに

ふかやふかづけりや

○谷の茶師 奥の茶

よる川よのまふり

○細代林の石塔 川中

の海淵まき思園上人

とるえんの供ありの

て今ふり○煮ん流川

心傳の流川あり

○宇治橋 宇治川よ

より流川の流を遊むの

なるを橋の小高が

ひし流ありふか

て今いふ橋より下

しといふふか

きいありしといふ

取志といふ橋は

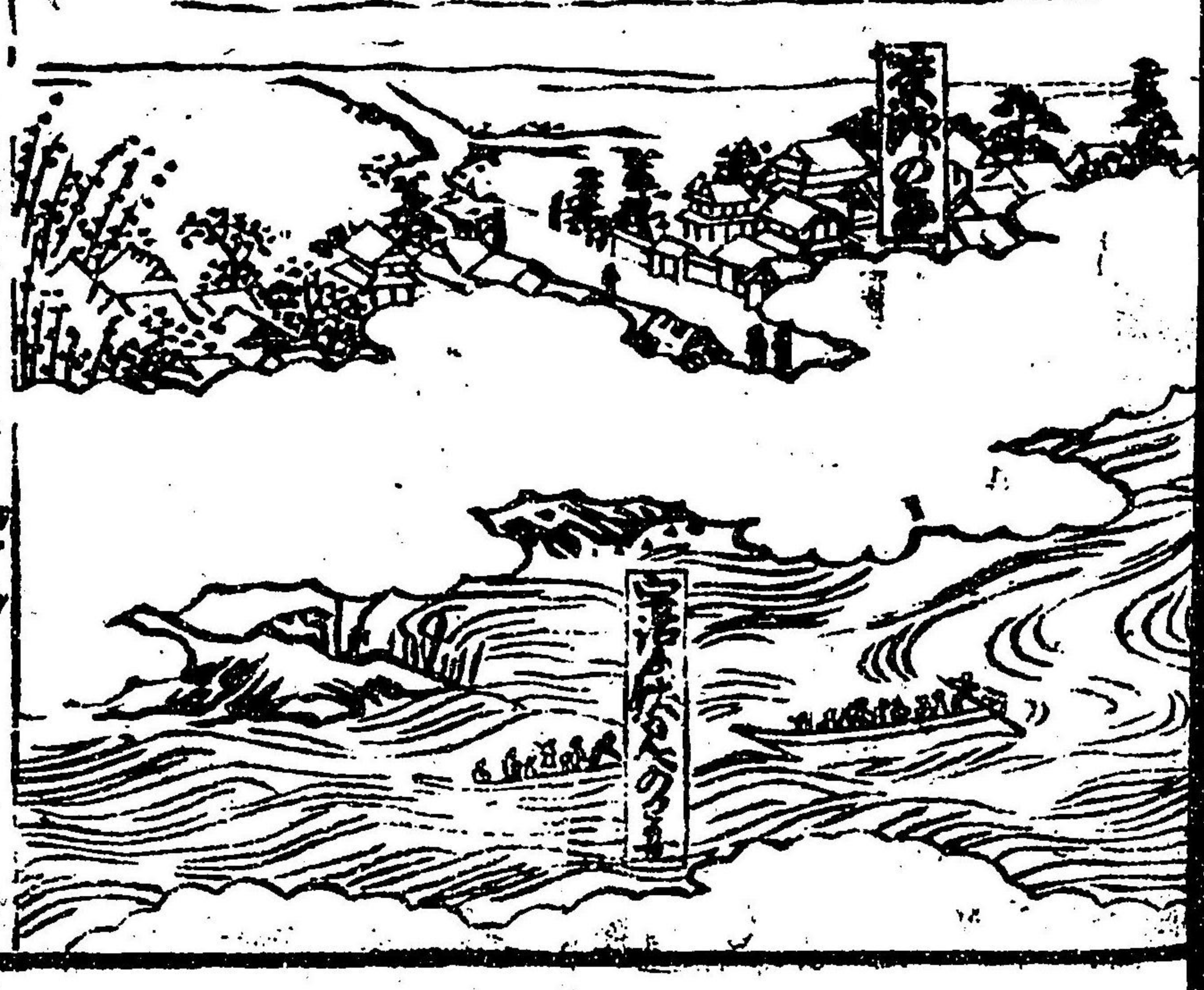
のより宇治川の





漸くしつものやゆり多し  
 のび〜カ〜のびぬ  
 じつ〜のびぬ  
 産し〜のびぬ  
 て茶あ〜のびぬ  
 ち〜豊後大分〜  
 控〜のびぬ  
 とつ〜のびぬ  
 茶地〜のびぬ

治の里 茂家あけ〜茶師  
 の家多く〜  
 家廣大なる〜  
 茶園多〜宇治川〜  
 小京の芳〜宇治郡〜  
 乃川の名宇治の里ハ久世  
 部あり○平等院 眞  
 寺〜西川の〜  
 ○病の茶草 頼政自害  
 せ〜あり〜○橋の









色ハ三月ふらなる西風あり  
まゝやまゝくゝるあり

○旗の島 西ふ小倉地

とてあまの地ありとて  
沼のうきまきあり。伏見の

ふらふら地とてありとて

後接ふらふらあり

▲第六日 西南

大原野 小塩にゆくを

志々

○東寺 ところには

あふあふ。是より山麓ふ

三里の口つ塚 東より

あふあふ。小橋あり。その

色にあり塚あり。洗う

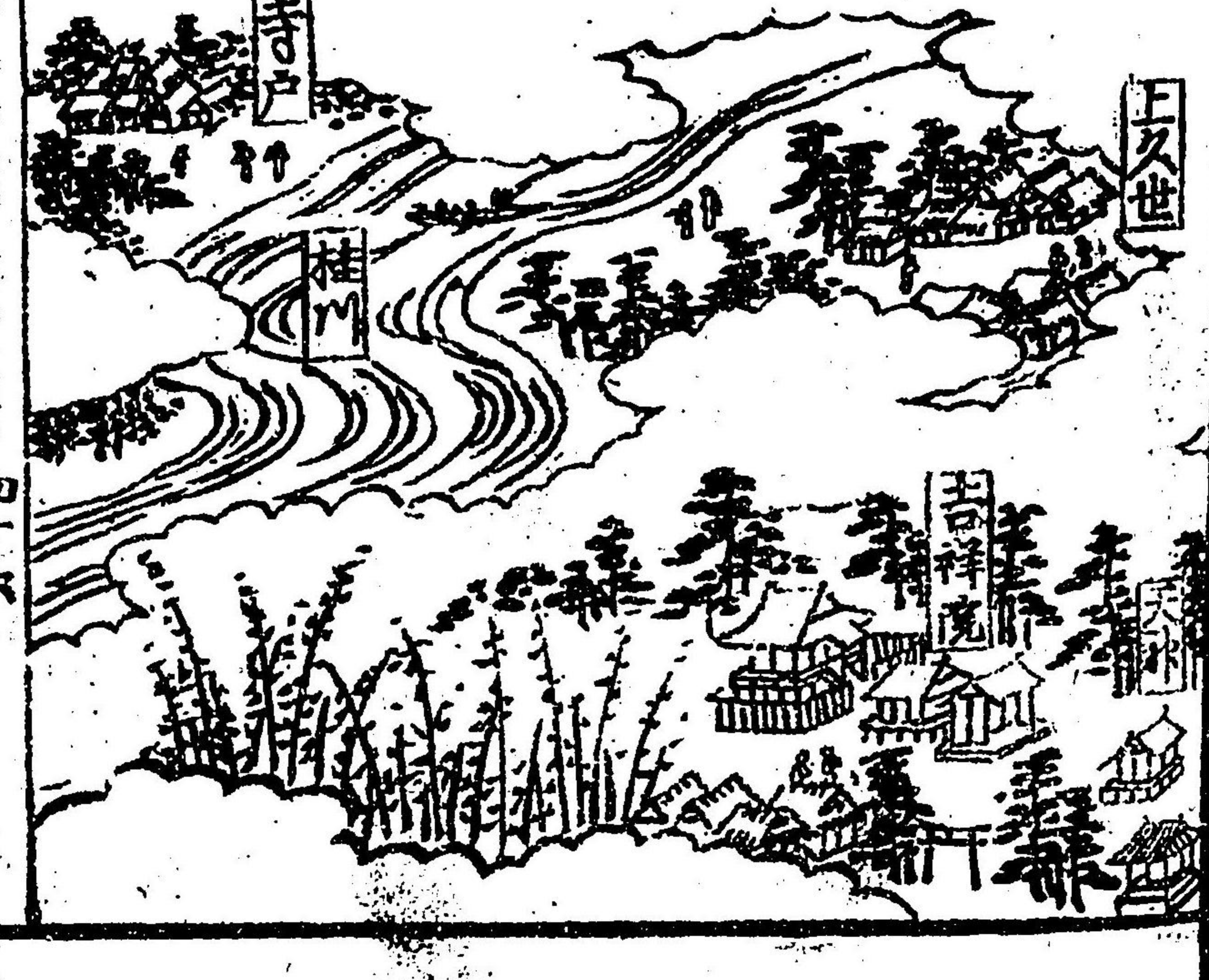
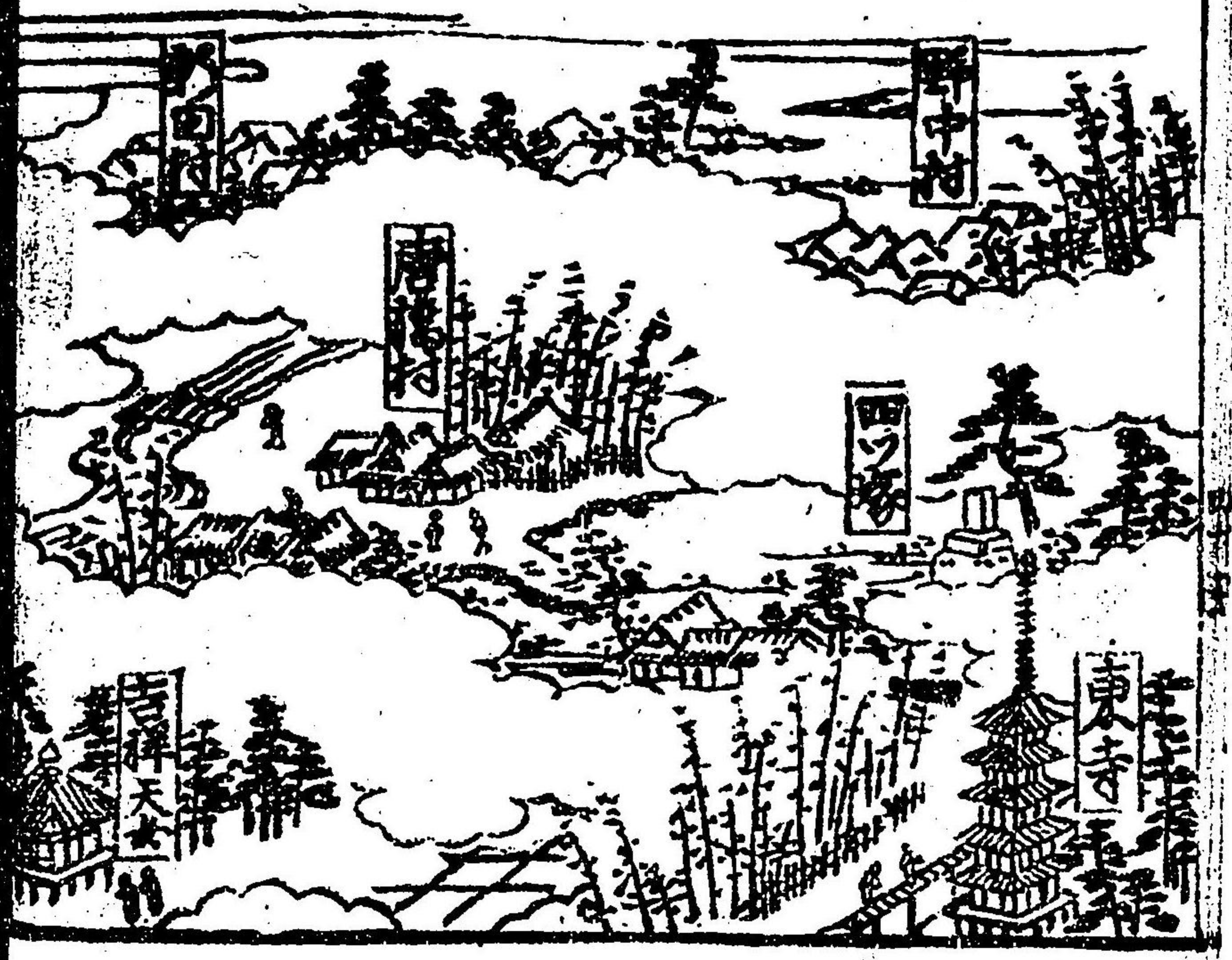
あふあふ。あふあふ。○吉福院

東寺のあふあふ。古堂あり

の地なり。吉福天女社

あふあふ。菅神のやうあり

たふあふ。あふあふあり





にのきをもちりてのびる

○唐栲○桂の里○桂川

峯を我の大井川の下なり

丹波よりとゆるおわく

あり○久世○向日明神

小野道周のまゝなり

茶ふ茶をまゝし中園

わをまゝ高橋のんま

向日川をまゝなり

かたをまゝなり

け川をまゝなり

かろ一院と山崎と八幡の

別の流川とまゝなり

長岡の系のわしけなり

にまゝなり

の十の住きまゝなり

○大原野 春日明神の

社なりけまに勝お寺と

りまゝなり

道のまゝなり

あまの紅葉の樹多し西行





標より入本わりのたのちや  
りつかに池わりの佐の  
沼より名あり

○小塩山 大系野の上

ひまわり ○善峯寺小塩

山の上にあり。坂とのり標

あり。いかに目茶あり

名あり。○西岩倉

三銘寺のふにあり ○三銘

寺 村人のさる事いれ

▲第七日 西方

岨我にゆく道と紀を

○心野 一葉のものを

今ん民家まきくせあり

○妙心寺 禅宗入山の外

大徳寺妙心寺と大寺

京都下立賣通と西

ゆもべ妙心寺の門

あふりる。ものつり入





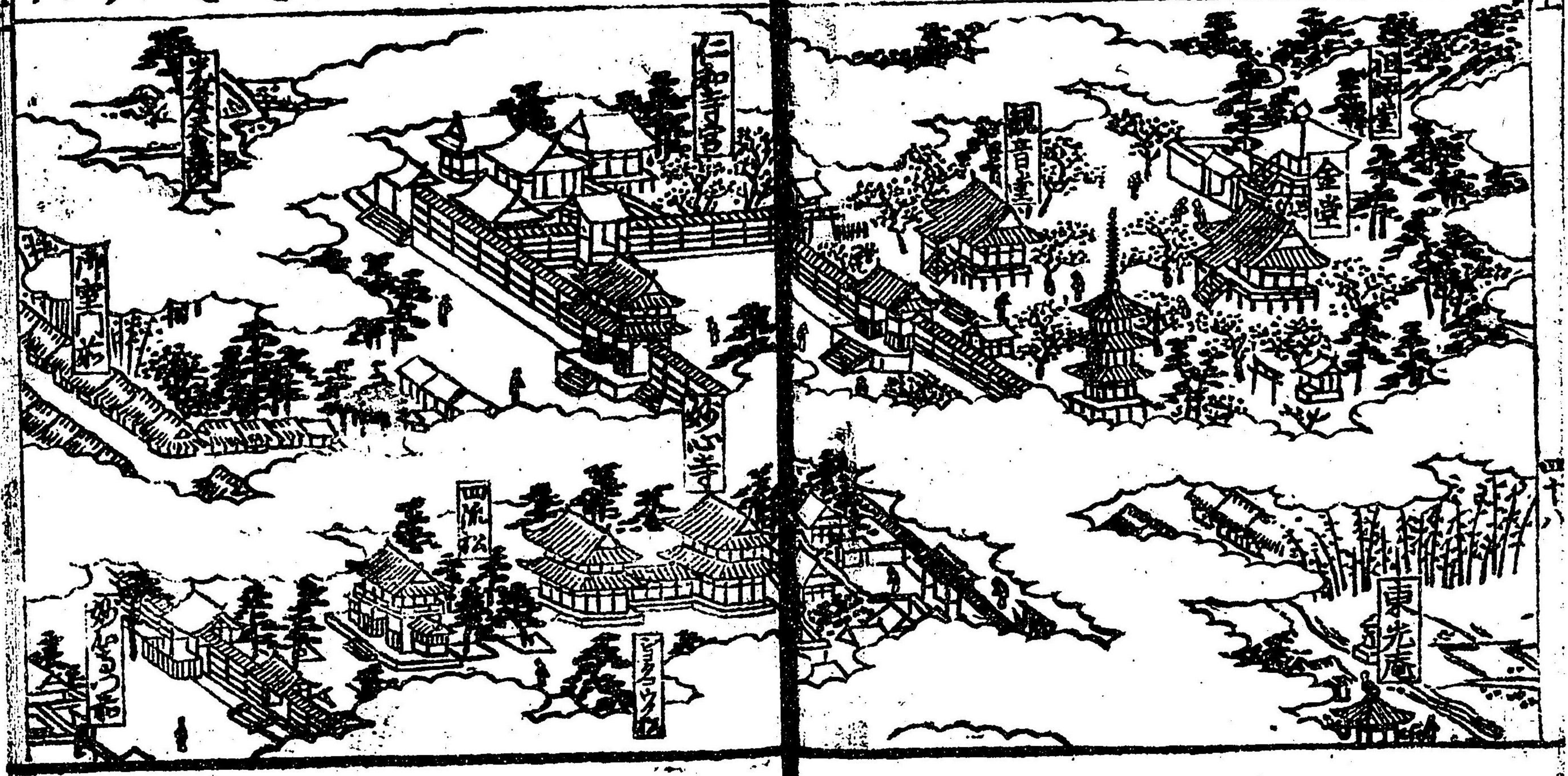
仁和曰：建法皇御願

凡九年五月廿七日

○東海上

小のふか西人三町後  
 ゆけに仁和寺にいら。  
 又南ののあは西ふり  
 ても河原にゆくあり  
 ○仁和寺 一条堂  
 町より一里餘りの  
 室とらへ親王門  
 跡のり河原の寺と  
 ともくくらんし。

八重ざくら多く一  
 中法介ふて身一と  
 長年のふけふ  
 春一毎年花のさ  
 けり十竹日のあま  
 みる人多くあく日  
 と花集せり酒食を  
 たぐ人幕かひんりて  
 花実あひたすと者多  
 し。





めせんへんをたの始中修三  
なやんくくんへー本ま  
きゆへうらと久ー

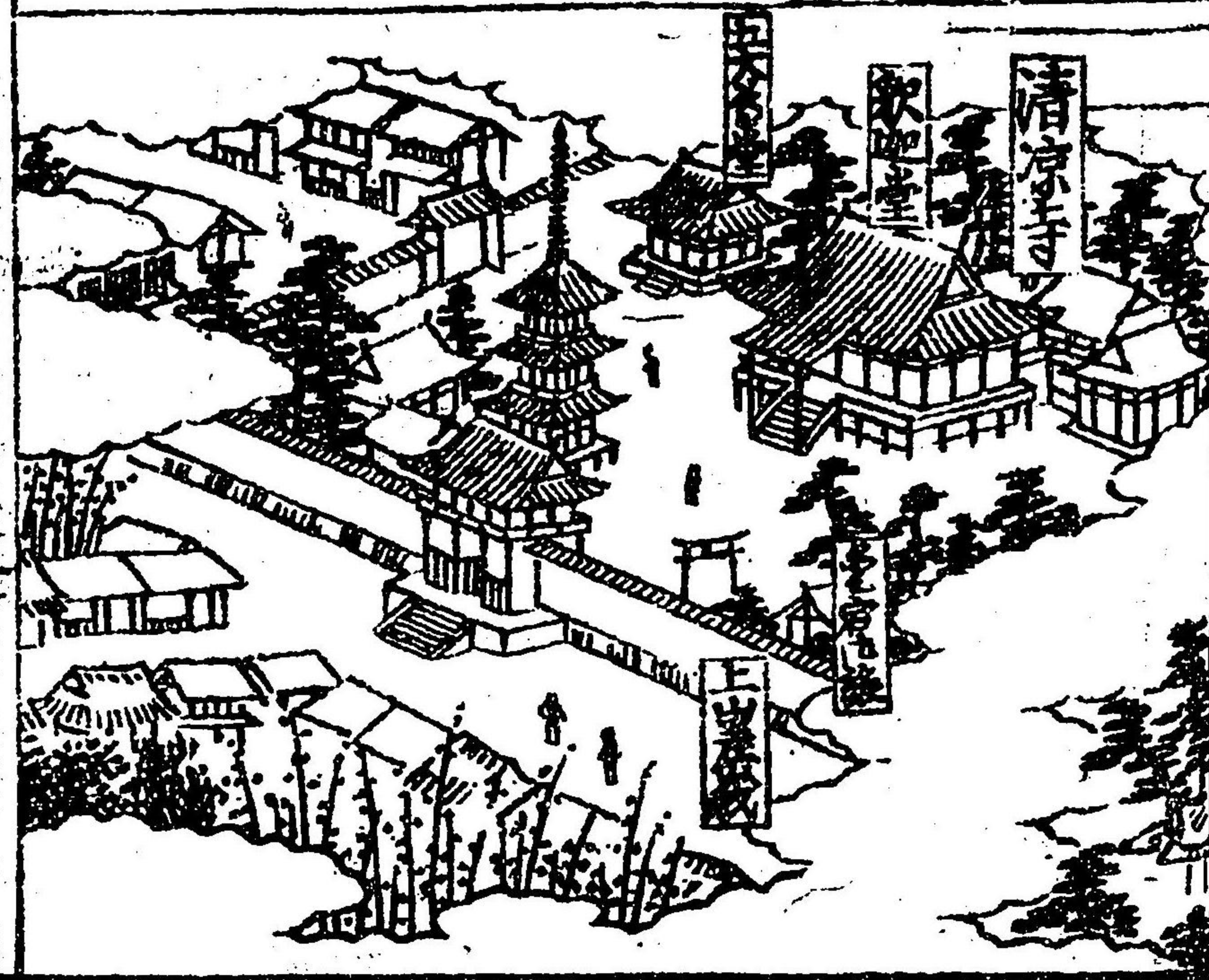
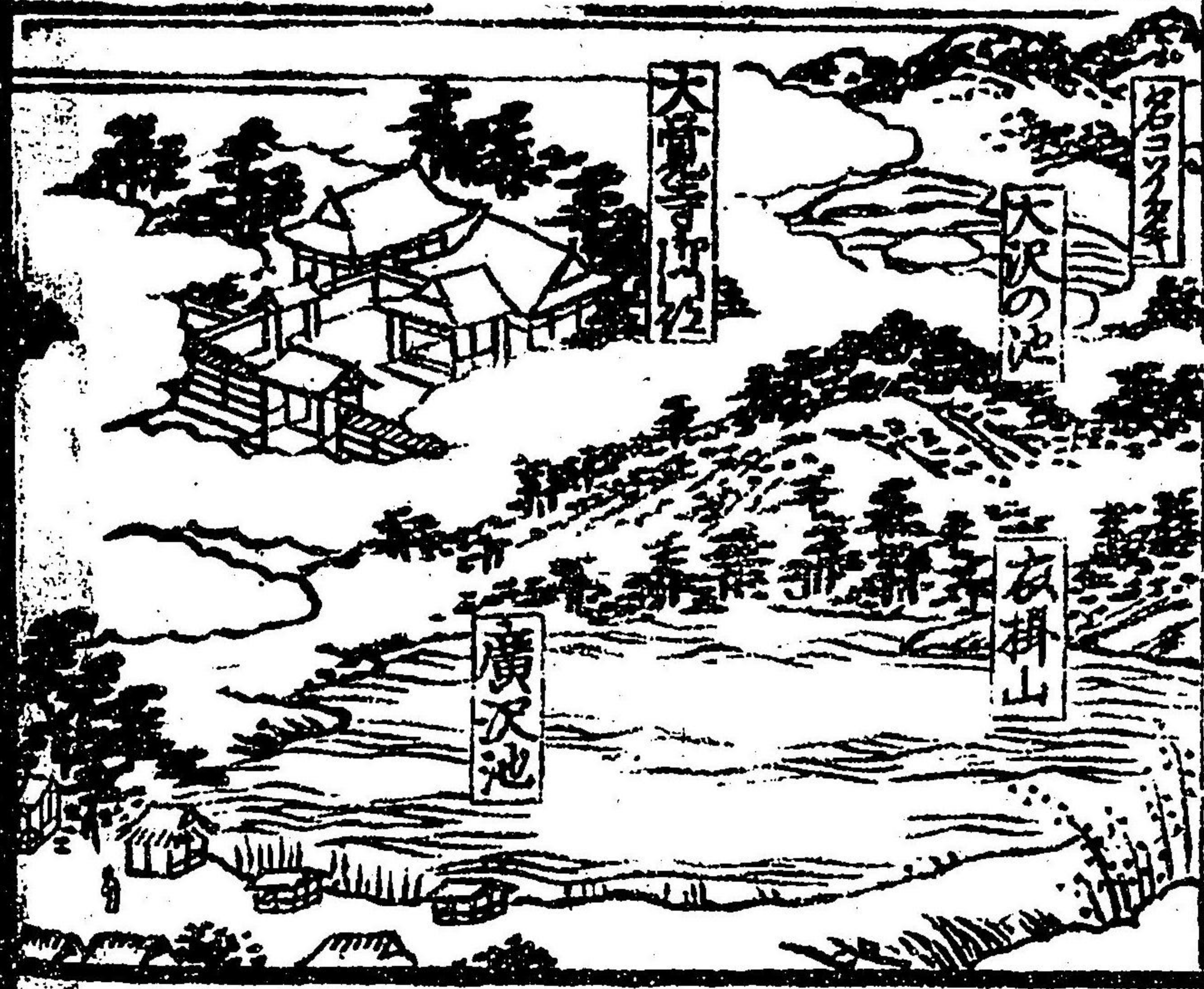
豊巖 以下嵯峨の事と

志ろと

○大澤の池 中修の  
菊考とふ○名社の  
の森 公任の墓をかん  
てとよめり修なり大沢の

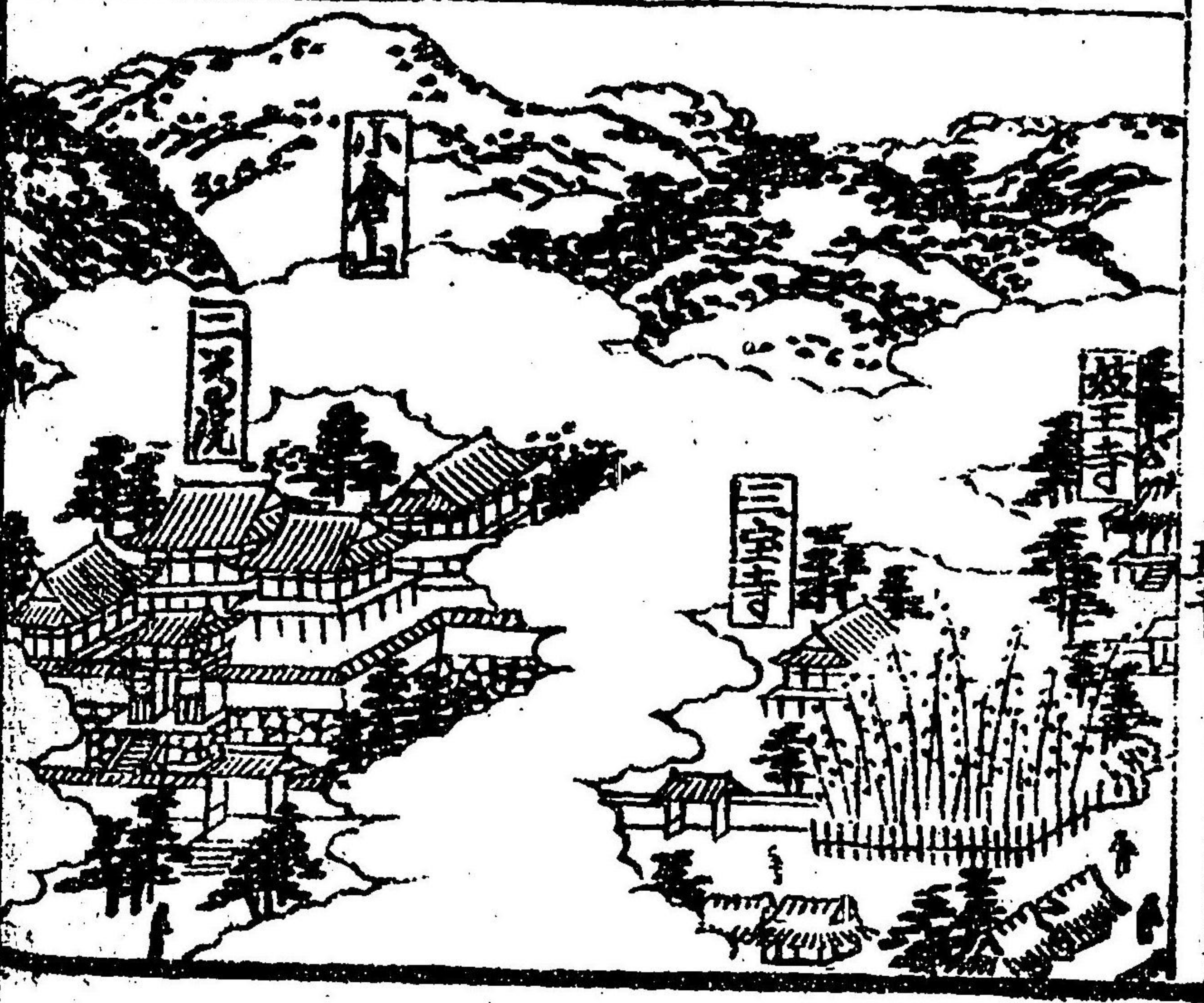
池のゆふあり。志ろと

かり今ふ修とんごら  
ん久ー○釈迦堂  
法漸とくふ本考い  
首羯摩が作の釈迦  
両小入大考堂わん古佛  
かりふの林のしらに  
釋迦と唐よりとるま  
一傍有然が墓あり  
○放生院 平清盛の時  
改王は女たごり





寺あり。今も本條あり。庭  
 修とつ三寶寺 住持院  
 のもさあり。平市を望むの風  
 あり。一遊口入るるあり  
 一あり。○二宝院  
 奉考河弥陀釈迦方左  
 あり。○小倉山 二宝院の  
 上あり。山あり。とてしほ  
 とあり。とてしほのあり。あり  
 にあり。○野宮 住持



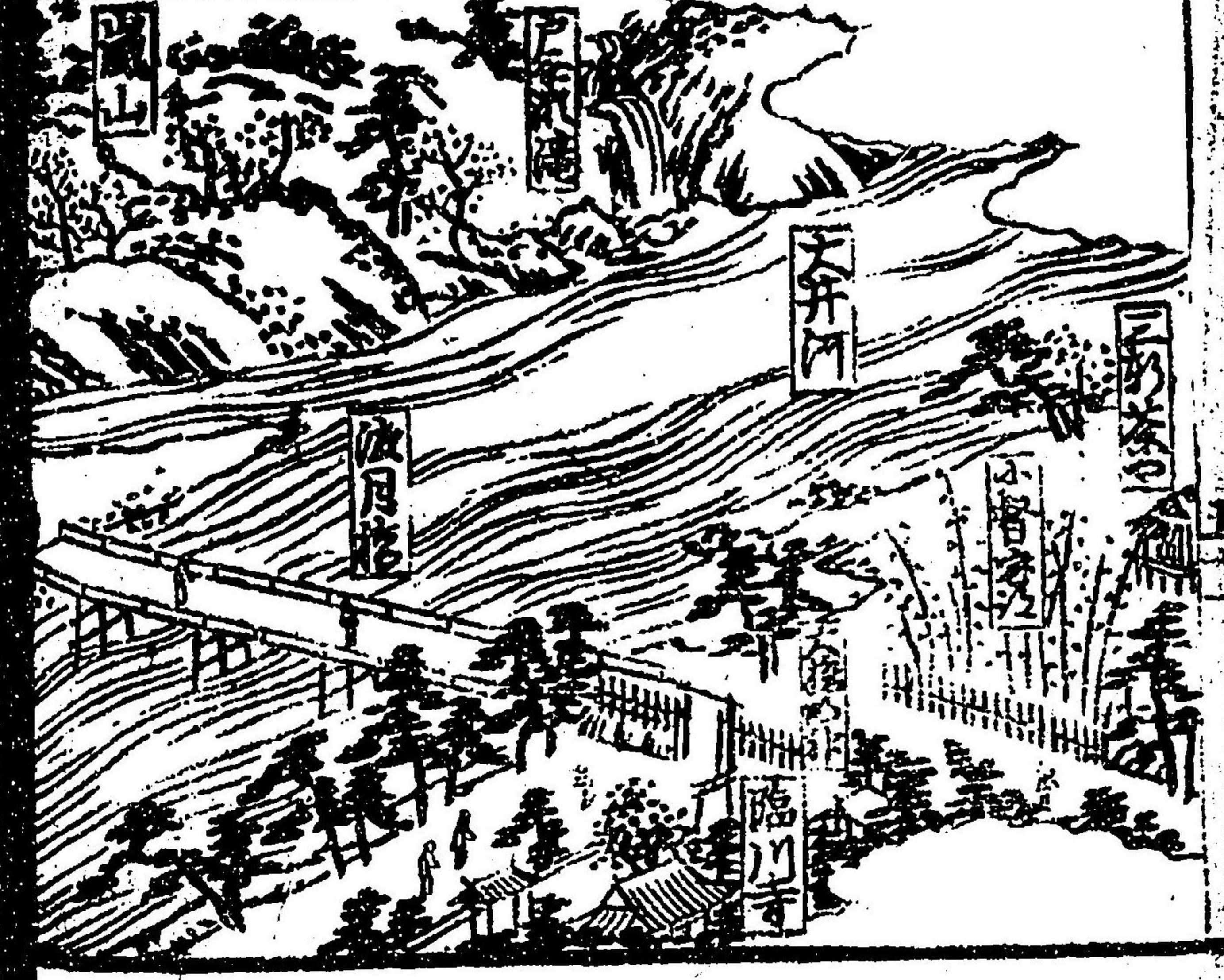
お神宮じり。住持の御元  
 にさるまゝあり。心配まゝふ  
 てりのあり。あり。あり  
 あり。○天龍寺 又ふ  
 一あり。大あり。あり。あり  
 朝の精即之の跡あり。在  
 の築ふあり。あり  
 ○大井川 丹波よりあり  
 大河あり。は橋あり。あり  
 あり。あり。あり。あり





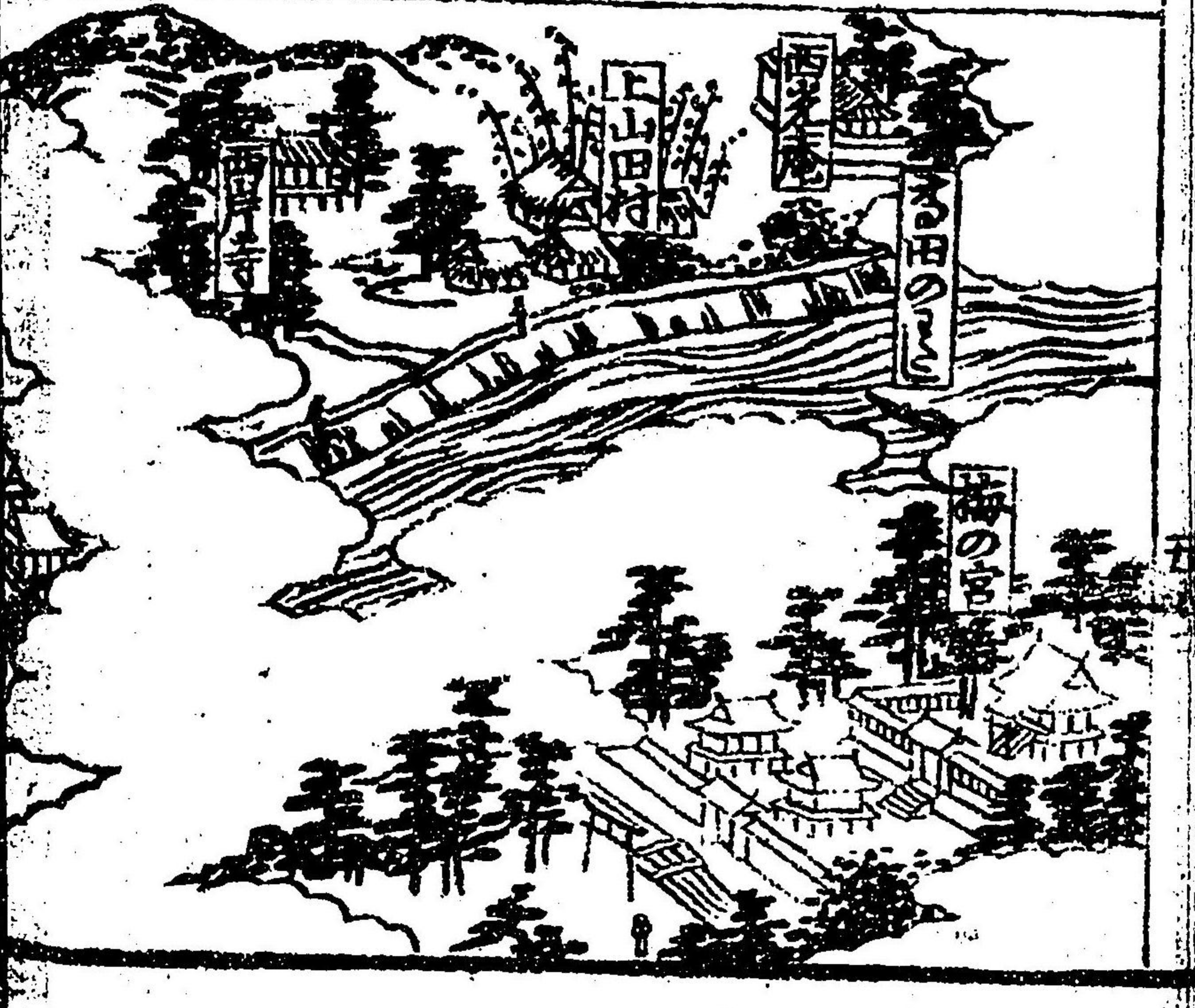
といふ川と又葛野の川といふ  
 下はく桂川といふ○嵐山  
 河の南の方なる山ありよふ  
 藏王権現にひりし吉野の  
 橋のこゝとてうろせしあり  
 今もあはれ橋あかくた  
 のはと花人のひびき  
 ○藤川寺 経書かたり  
 山ありたし。

此河上に茶屋を三つありと  
 初茶屋といふ茶屋一茶屋  
 大井のひりしふ嵐山とて  
 河の所なる茶屋の茶屋  
 の中に小督の住し居  
 のありありは河多分とて  
 てあはれなる茶屋とて  
 花さるる又月の花を  
 け○法橋寺 大井の  
 のありありおに茶屋





るりたぬわりの虚空彦堂  
 かりとるあり。その三月十  
 二月十三日にありぬの男女  
 とあはれとる事あひいし。も  
 と十三まのりともく〇標谷  
 は瑞ちの小川とさひあり。津  
 社のり宗傳の作りあり。松  
 尾の杉社々々。一し。その  
 東ふも小督の居たり。い  
 かのりあり。〇天照園 標谷



ようと八町をりりゆふる。  
 観音堂わりの角会う貴  
 本像わりの林道まのりけり  
 石碑あり〇松尾 江福寺  
 しが、又河もふあり。ゆけ  
 のやしらあり。きりり系  
 ゆに大舟ありとある。い  
 〇梅津ふゆべー〇梅津  
 長福寺とありあり。



〇梅宮 梅氏の組作り



二十三社の内なり

○是より海をみらに  
泰とらんべー又東都の  
宿の在ふより二条を  
よりとる哉ふゆけい  
まをりてたたり  
泰ハ二条をのるなり  
泰は西人なりかき  
ひはふゆのま  
のまはるゆのま

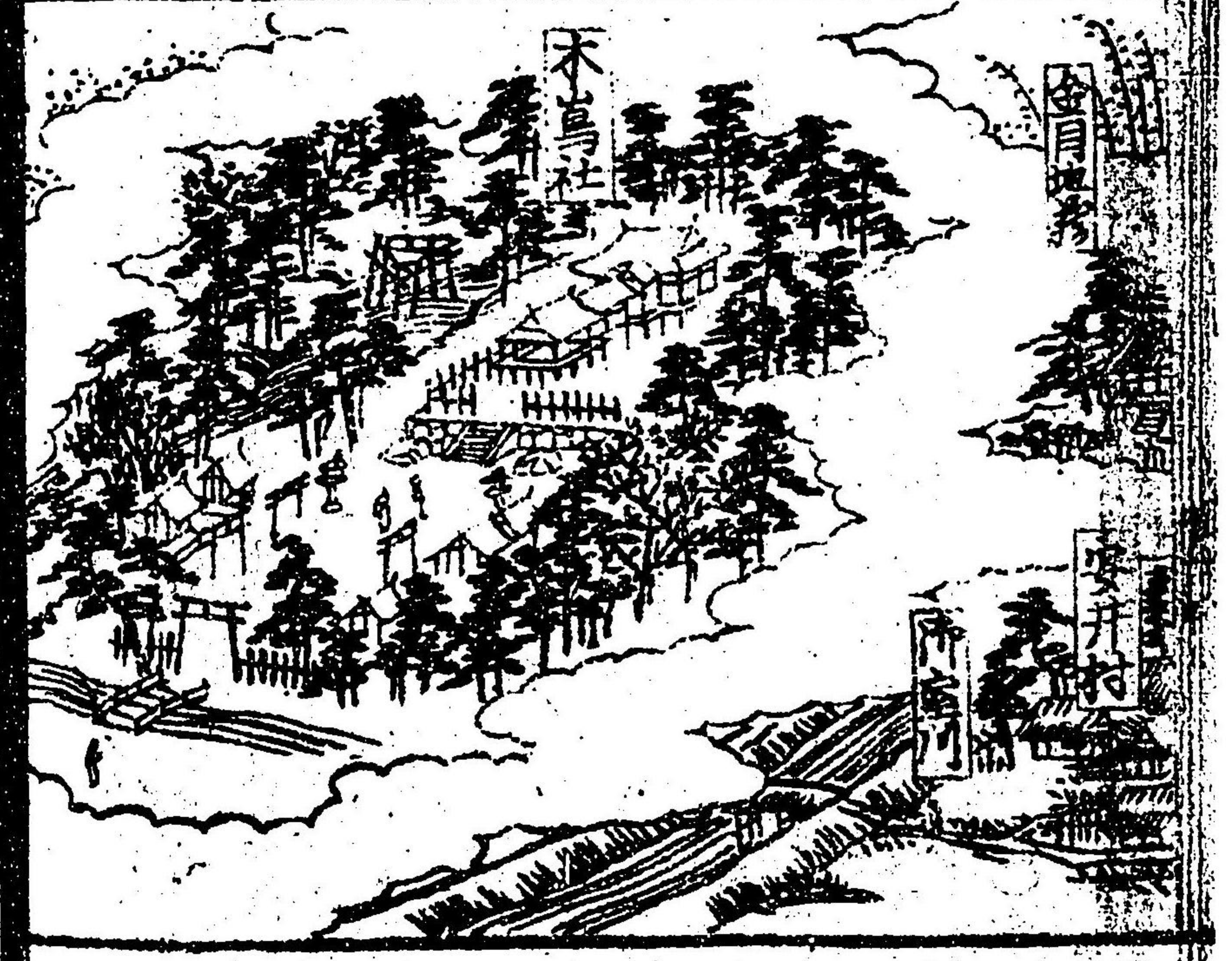
○下立賣よりとる哉に

ゆくにのるのまはる  
本はとるゆのまの  
とる。池よりとる  
ををり。市盤ふゆ  
よりとる。下立賣  
もゆかり。○を泰  
廣隆寺あり。ま言家也。





入蜂岡寺といふ人本寺  
 の茶師なり。平安城の  
 いまもまゝなるまゝなり  
 洛中洛外宸袖のさや  
 ○本の寫明神 元元  
 とのいふを考ふるなりを所  
 なるかと東方のふはあり  
 天照を神の所社なり。林  
 の内なり。洛中洛外の中なり  
 面の名居たりなり





用  
京都のくま下



▲ 八月 酉

養老山よのけろろん死

老若山よのけろろん死

万をくしきりけり

この程日ちやうく一

んかへーま夏物

ゆきもさるふふ

るふふ候

○ 養老山 候海の紋也

室のあどと死の考





のきりひるえ清修川  
 の精舎よりそとふる  
 せしけあがるあつら  
 さき一のせりわしを  
 あつ 沢のあつらも  
 入十町を町あにちる  
 一の石まふりも清  
 の額とらうあつた  
 に竹心曼珠院良高  
 法親王のあつら



社の下は僧坊六區  
 わり其内八坊の天名  
 宗二坊の真言宗也  
 緒大名又國寶の名  
 くと其の茶壺をけ  
 寺の壺倉ふりて最  
 秋ふりての香くら  
 五ふりてのせはは  
 い月と徳玉及び糸  
 ねらりと糸坊ま





山より丹波の天の鬼  
 かどるも山はあけし  
 少人ゆき月のかげ  
 ゆくろわたり。難  
 らしの影も月のかげ  
 ぐみののりつらにわたり  
 ふも 観音あゆみ。深  
 しつとまよふのがり  
 に下りてまねくも  
 性

ちくはらの乃か  
 月ふいさのりふ  
 るるあまも日  
 岩山のあまの  
 水尾しりし里  
 空の所住と下  
 ほのひしあ  
 わり。別ふ  
 ぞうり  
 ぐし。





ゆきか坂なり

▲第九日 乾の方

○高雄横尾柵の尾ふり

及みぬあつと日あき時と

山野より西の方あつとと

てろ雄横尾柵尾中ぐ

一月ふりんの。短月ふりろ雄ふ

横尾柵尾づらとらんぐべ。

又月あつたときいといふ三

尾とらんぐべふらふ柵が細

くつらふものいふあえては差

城の大沢り池のまきい

るん。大芝草のつゆのあ

とろく。美さ萩の町いふ

る。

○北野 一条道よりふり

まの植木屋の家いへん

茶本とらんぐべ梅屋の家

とらんぐべ茶屋をれあつと

天海宮の東門より入る

右馬場

長明塔

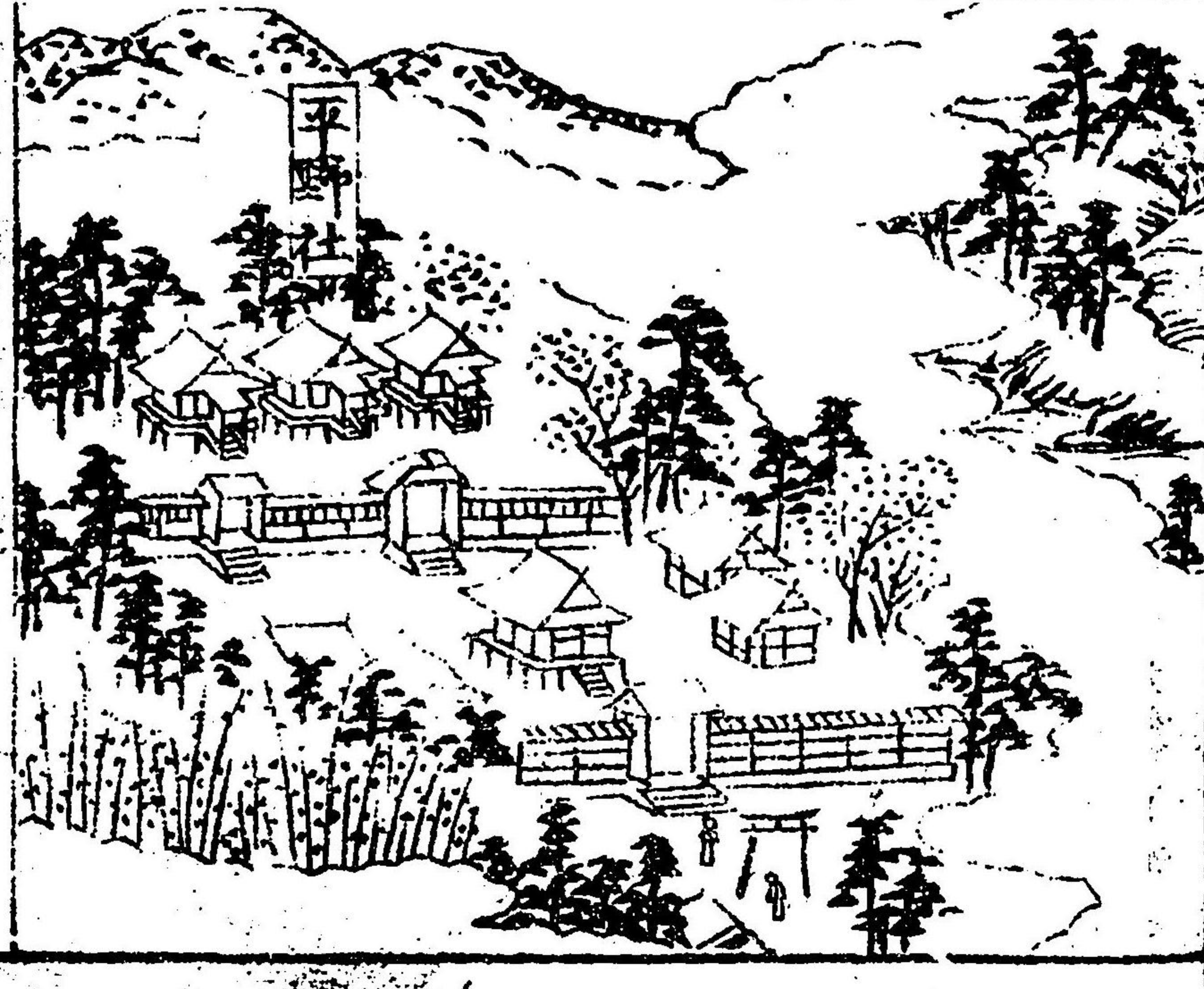




やしうふ遊つ。正門ふわくと。又下り  
 へくはふふなるり。松下を。  
 七本松下の表ふ出。教向乃  
 表たるとの馬場の西れあり  
 正満宮のまのつ  
 本社少後と。お敷と林敷  
 の方にもおとる。あつとく  
 たたかり入る。本社のふ又  
 十かたなりにも。天降の社



わりか毛の菅原相ふわくと  
 仁明天皇の時。遣唐使の  
 とふ小天神地祇とこの地ふ  
 なること。菅原公の社と  
 て菅原相の社の地とを  
 表坊の人いんは社ふある  
 庵。本社のあふわり規  
 表堂のむ日寺あり。南門  
 の外の南ふわりの表向乃  
 松若のふ南門の外に





のまありくもあはれするを  
 わり。平野の母の墓。ま  
 南ののりふねのやうあり。  
 東門のかに附平大社の社  
 のまありの口はまきふ  
 はゆきあふ橋。くはな  
 川ふのまきふを橋ふま  
 平野の林ふも金剛寺  
 にもゆくはな川まきふ  
 いづれもあはれあり

○平野社 仁徳天皇の  
 御社あり。少社のあはれ  
 釜川のありあり  
 ○金剛寺 又寺号と鹿  
 苑院といふ相國寺小属を  
 足利義満の宅ありし西  
 かりとちのふ八条ありて  
 系すくまきふのまきふ  
 ひくく西園寺あり  
 わり。義満建まきふ





三階の金剛の池あり金  
 園の板敷八重の板一  
 板ありあり。金高今  
 ものこころ下に義徳の  
 位牌あり園の寺は以  
 てんぐすいびあふる石動  
 わり。びーは西園寺の  
 寺ありあり。

○兼持院 足利寺

お茂といふはふ足利将  
 軍十三世の本像あり。棟  
 新たりを存証とて  
 ぐすいびあふる石動  
 あり。○龍安寺 寺  
 大あり。細川勝光寺  
 あり。池あり十月の中は  
 ひはふ雪ありありあり  
 るんねのあり  
 ○仁和寺 寺ありあり  
 ○大円山 仁和寺のあり





三階の金剛の池あり金  
 園の板敷八重の板一  
 板ありあり。金高今  
 ものこもり下に義徳の  
 後牌あり園の寺は以  
 てんていびあふる不物  
 わり。びいれ西園寺の  
 寺ありありあり  
 ○平等院 是相  
 のりありありあり



お院といふはふ足利将  
 軍十三世の本像あり。標  
 新たりを寺はありあり  
 あり。○龍安寺 是  
 大あり。細川勝元が寺  
 あり。池あり十月の中は。  
 は池ふある寺ありあり  
 ありありありあり  
 ○仁和寺 ありありあり  
 ○大円山 仁和寺のありあり





○並の岡 仁和寺の南に

つめくはるるまやう

○光孝天皇の御後 麓

に車塚とのみ車のごころ

仁和寺のあふわり ○福

子村福まのはわり ○福

福まの村よはくたり 氏

家わりあわり 福まの

あはまのまのまのまの

青の山道 家あり 凡

いさきのしし西のふとス

あふのしん八町よまの

いふれふ入解佛のげん

まのけくう西のふと

廣沢の池のる月の名

かりちのまのまのまの

けふのまのまのまの

あふけ里に破石のまの

まのまのまのまの

名乃たのまのまの





○梅ヶ畑梅多し山中多  
 ○高雄寺坂の上には神  
 護國祚寺の麓に清浄  
 川のほとりには秋をうけ  
 ありふもむき多し  
 かわらぬ春の名も  
 水はゆるぎなく  
 とも推枝尾梅尾い  
 る山川をまきか  
 三石のふたの



ありゆるぎなく  
 とも推枝尾梅尾い  
 る山川をまきか  
 三石のふたの  
 ありゆるぎなく  
 とも推枝尾梅尾い  
 る山川をまきか  
 三石のふたの









▲第十日 南

八幡ふゆく道

○八幡 石清水八幡宮

ふゆく道

もろく山

心

東寺

石清水

八幡

八幡

八幡

八幡

八幡

八幡

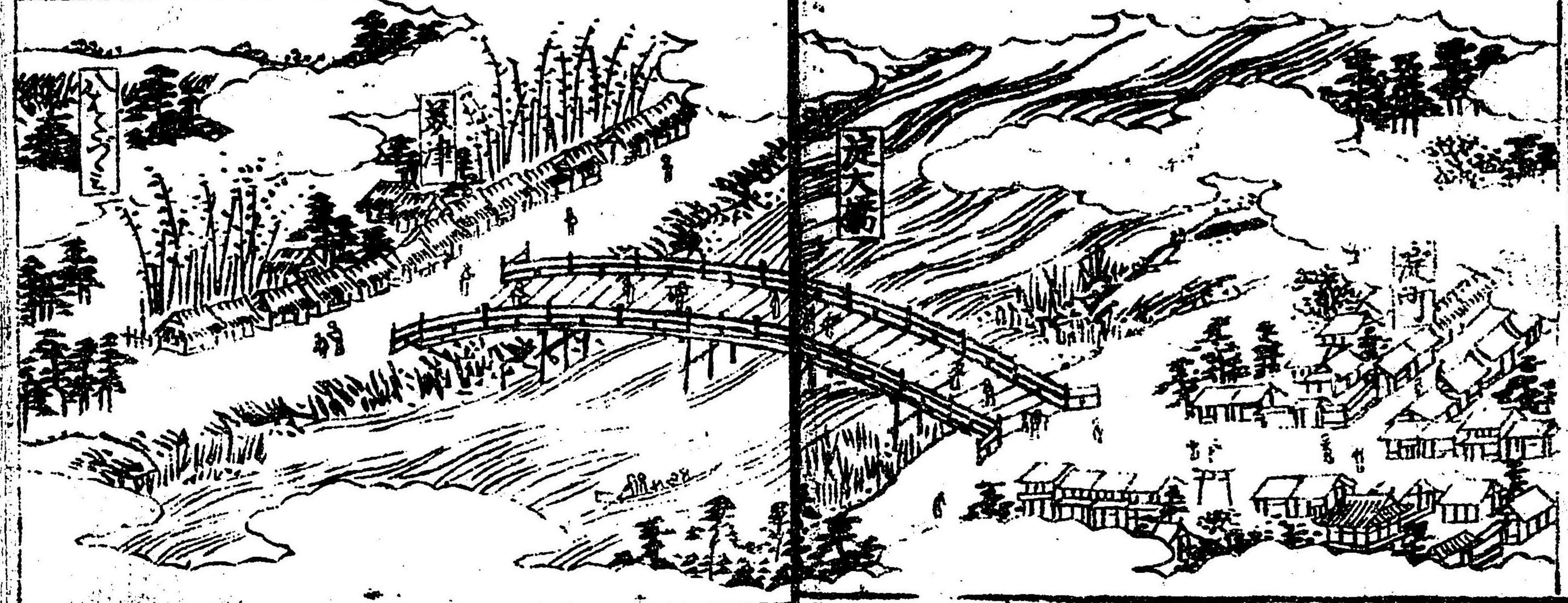
八幡

八幡

八幡

八幡

八幡





放生舎を昨日の如くを 釈

使事ありし今如くより

神香に供せしむる以下

宮ありしを此れも築き置

ふ入る山より遷すありと

を此れより前にありし其れを

雅なりしとの本社あり

下向ふの裏道よりありて

石清水と云ふ人々を此れ

に茶師堂ありしは此れなり

下の諸郡なりて其れを

今と云ふ山より山下に

ありしやうありしは

坂のうへをゆるぎに

乃昔にありしを

八幡下の町よりありし

て清水の里ありしを

男塚女塚ありしを

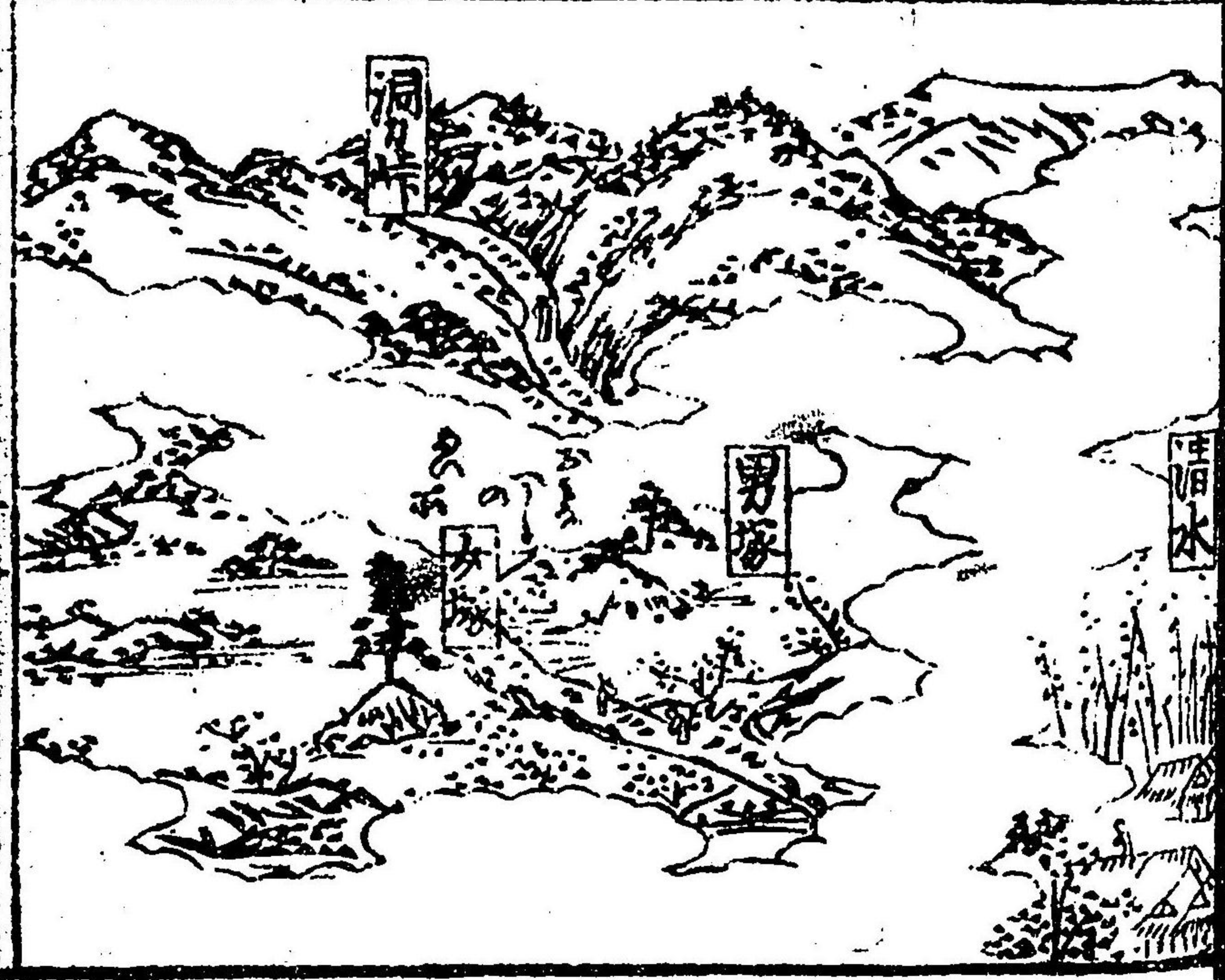
今ありしを





南の山に城を築き、  
 北の山に城を築き、  
 東の山に城を築き、  
 西の山に城を築き、  
 四方ふち大なる橋を  
 築き、四方に四方を  
 守り、是より後、  
 是より後、  
 是より後、  
 是より後、

西の山に城を築き、  
 北の山に城を築き、  
 東の山に城を築き、  
 西の山に城を築き、  
 四方ふち大なる橋を  
 築き、四方に四方を  
 守り、是より後、  
 是より後、  
 是より後、  
 是より後、





の森を穿てりり河せり  
の勢のよなり

▲第十日 良

比叡ふふ好乃瓜志を

○比叡ふ 雲母坂より上

ふへ 衣のたれ谷ふる

羽の流るるもきらく坂の人

水香流の地勢堂のつ

もくくを流るるもきらく

に若羽の流るるもきらく

と山科の東牛尾とけ西

なり。皆は多なり比叡ふ

のふ比叡庵寺といふふと

天台ふと号し田明河と

りふ又別の富きといふは

三塔わり。南ふのり比叡東

塔といふふをいふふて中ふ

と西塔といふふ比叡もふ

を横川といふふとふと二塔と

稱し。東塔ふ根本中堂ふ









に下りてくさねを松の傍とせり  
 てはたぐし。三塔の内東塔  
 横川の近の多う。西塔へ山城を  
 ▲第十二日 南  
 ちかちかとるう山城にゆく  
 みらひたふると

○東寺の上下の塔  
 西里人の見とる所の表塔  
 とる人一夜表塔の下の塔を  
 眺めてあるまゝの程とて

り。塔とてり。○小松の塔  
 上をねと下をねのりよま  
 変流川のほとりふのりよま  
 多う。○秋のふたの東寺  
 としやうのりよまのりよま  
 の難文にあんしゆせり  
 時。の巻の集ふ多うのりよま  
 と極らとてゆふ秋のりよま  
 ぼく。○下をねのりよまのりよま  
 に表塔寺のりよまのりよま



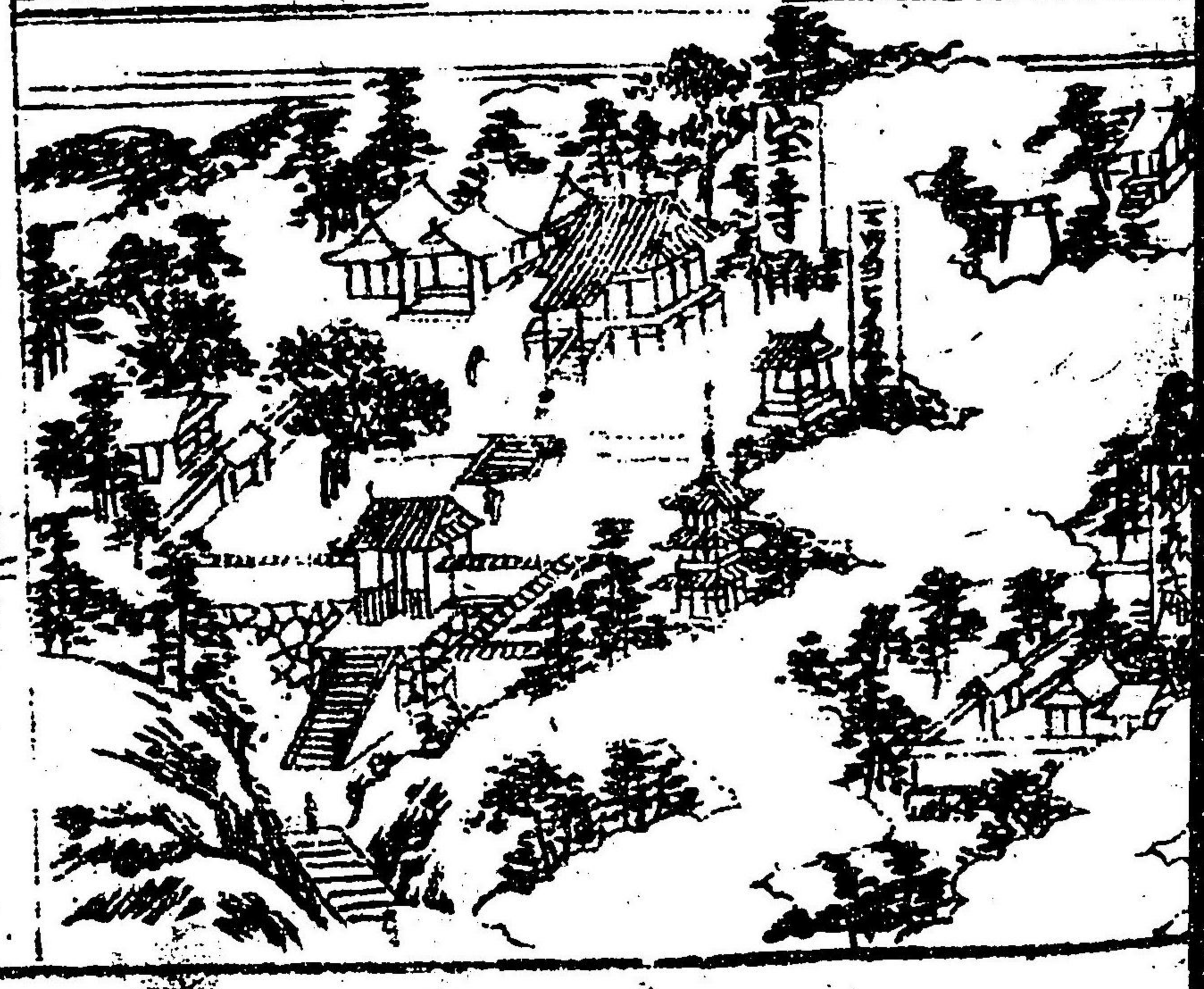


○新田下

塚のり。毛考の志塚あり  
 一の東に芥川村の里  
 ひの帝せり川の傍に  
 とを志をくみゆとに  
 あり。芥川他ありあり  
 りん流非あり○知不町  
 波川はなのふあり  
 ○波町 城あり  
 ○波原の村 ありあり



岡おかのり。波川と波川とを  
 波切なみきりの石の波川とあり  
 やりののがり東に波川の  
 波川ふかづるありあり  
 てりあり。波川とありあり  
 波川とあり○山崎 町あり  
 ありあり。波川とありあり  
 波川とありあり。波川とありあり  
 波川とありあり。波川とありあり  
 波川とありあり。波川とありあり





つゝ家に天皇のやうなる  
ゆゑにふり利休がまゝ  
妙喜庵あり。茶室あり。  
町の南ふ離宮八幡及び  
蒸みりて大社あり。まゝ  
もの方に水戸あり。

▲第十三日 北

鞍馬ゆふゆく大坂を  
まゝり三里のり貴布祿

とてんくううはむくと

一目ふりぬやとまゝあり

○鞍馬のりしりて上

大坂とてんくうはむくと

まゝりて上大坂より下

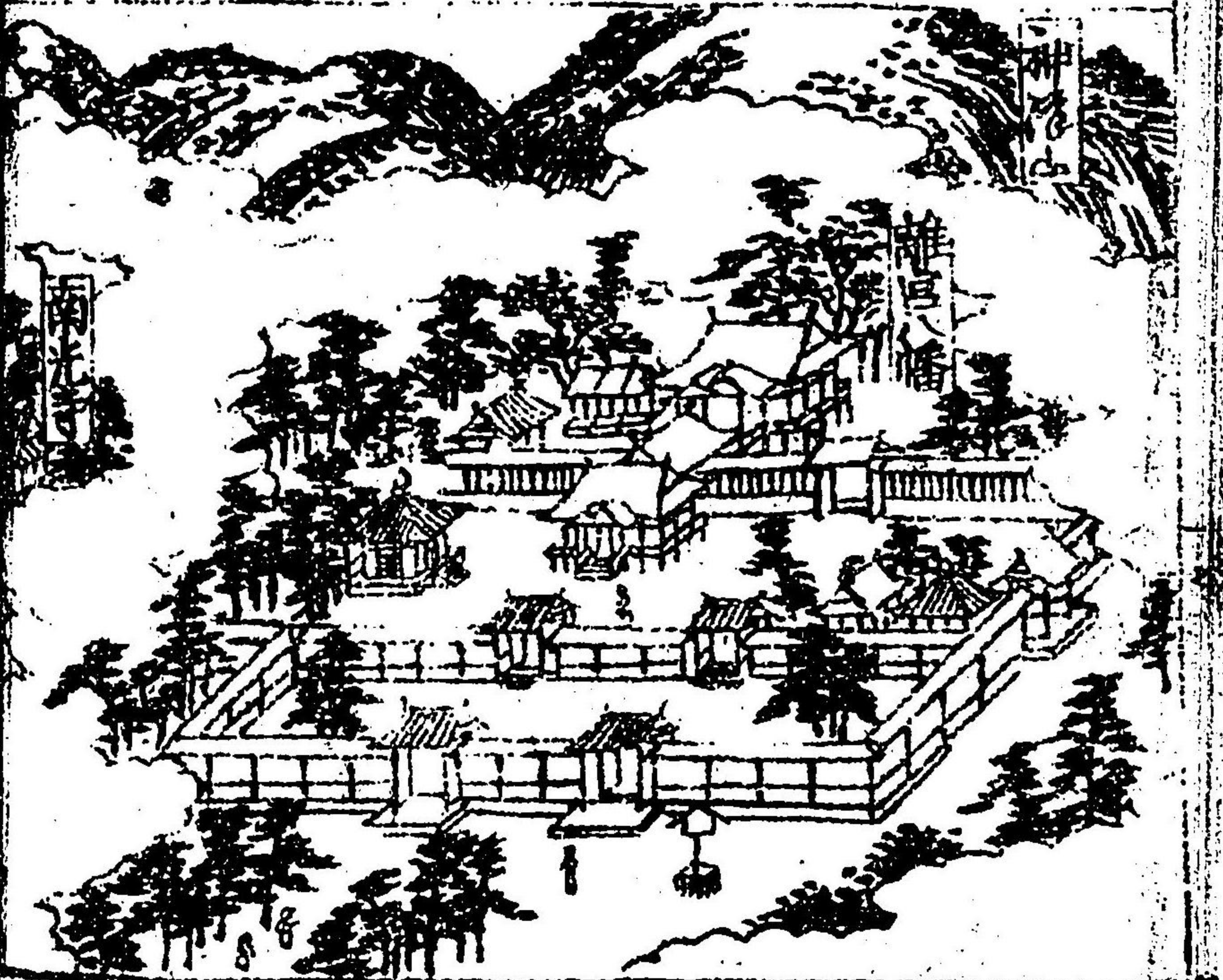
のりしりて上大坂より下

其居ぬよりまゝあり

まゝありて上大坂より

○西念寺 あまのりて上

南川のりぬものあり





ほろの下のしるしありて  
中人ふんがしき堂しるしあり  
法師堂に修く

とありて一棟ありてあり

我若くはしるしありてあり

ありてありてありてあり

ありてありてありてあり

のまゝとての物のまゝとて

て今もあり

○市原 善徳池 上の大池の

ひびくありてありてあり

ありてありてありてあり

ありてありてありてあり

ありてありてありてあり

ありてありてありてあり

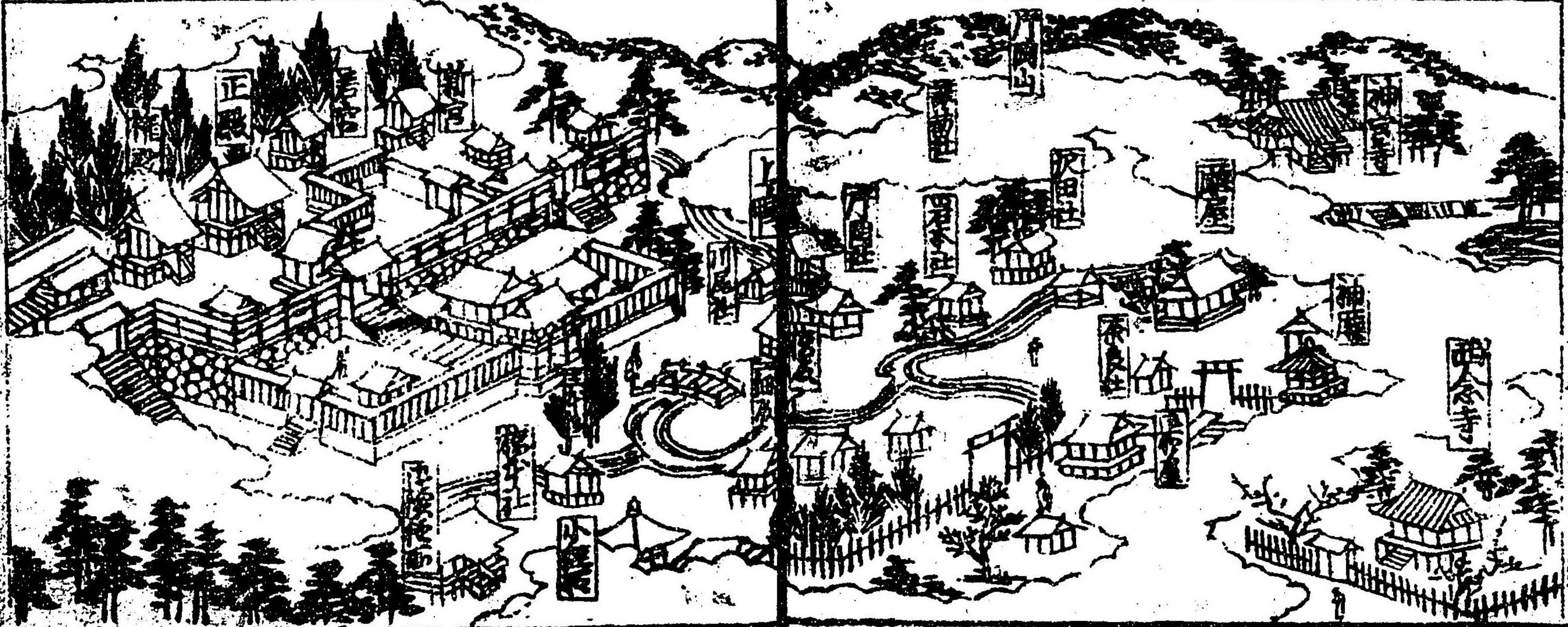
ありてありてありてあり

ありてありてありてあり

○市原 村の入口右のまゝ

神池落寺ありてありてあり

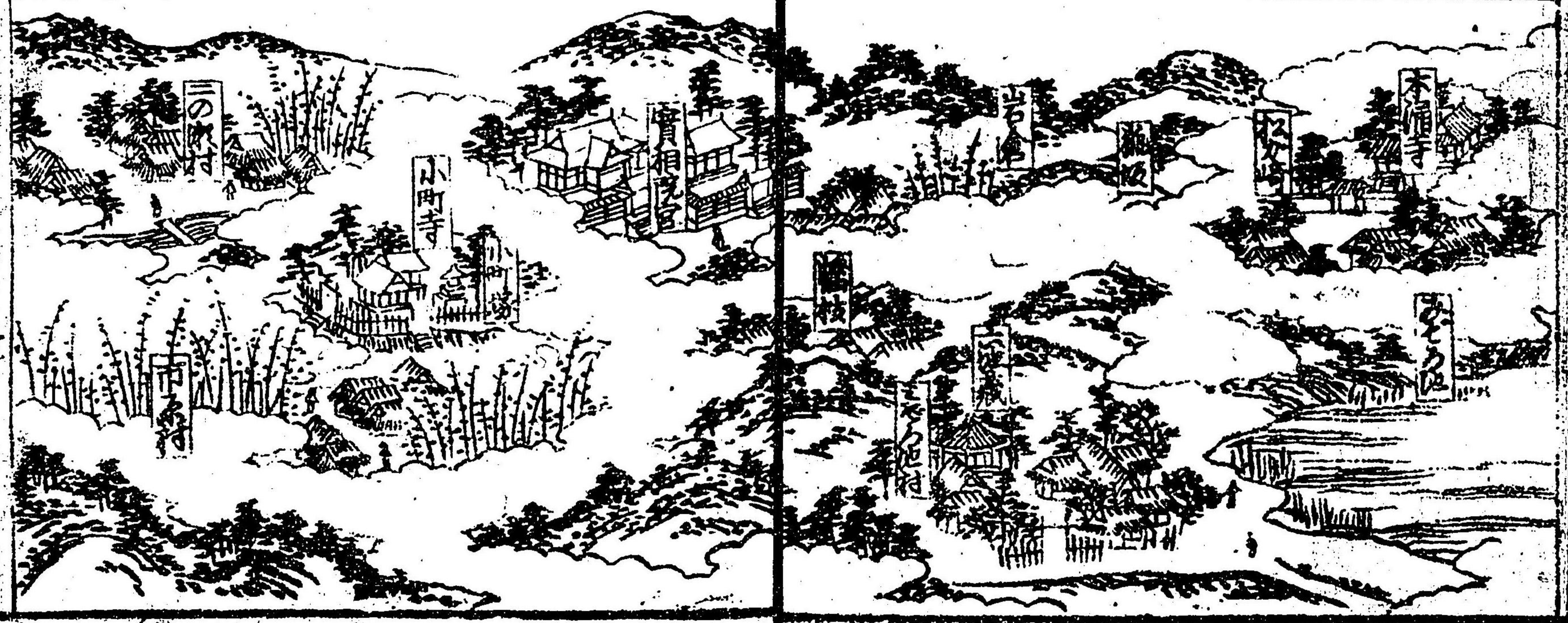
善徳池落寺ありてありてあり





寺は小野小町が墓曰く  
 本像 益徳のを後代奉  
 とほじりのまに彼しもの  
 かん 其先にぬき院旧  
 室わりの者のゆと影ぞう  
 ときしあまの林道まふ  
 の栢まは細し相堂のを  
 河より三のせし町あくま  
 なるしび谷中にまを栢か  
 やし〇轄る町 民家

多し。茶屋食店わると宿  
 ところ。木の目漬茶。山科  
 の皮と煮る。ふゆりた置也。  
 坂敷町とよろく毘沙門  
 堂にゆる。坂あつたふ紐大  
 明神のやしりのり。源義  
 経見寺のそた。ほせし  
 東光坊 篤庵ののりわり。  
 毘沙門堂に義経のふ  
 と。長慶がたの力たしとく





ついでに傍ふろくくんは

柄さくくま。堂の東より

比叡山を相捕撞かた

つ名○傍ふろくくんは

の正堂の西のくまのふ

とくまのくまのふ

を傍ふろくくんは

源義経まかしく叔父

とまかしく叔父

源義経まかしく叔父

天狗のほろあつとく貴

布條よりいあま

もの方れあつたにづる

つとくくまのほろあつ

中よりまかしくくま

えんくま。まかしくくま

○鞍馬よりくまにゆ

から後の民家のあなる





川をさして東のふもとまで  
 ゆく。坂けりくべ茶屋  
 坪といふ都立といふ里と  
 あり。長者といふ里もあ  
 り。ん白公はのぼりし所  
 駒鉢谷といわり。鎌倉の  
 上と八入の園といふ名を  
 せん。の若くふじりり  
 善徳落寺のりりりりり



きく坂といふえゆありたふ  
 けえのやうりりりりりり  
 といふくゆありりりりり  
 ○貴布祿 傍に谷の  
 にのりりりりりりりりり  
 民家あり。轉るりりりりり  
 のりりりりりりりりりり  
 奥のやうりりりりりりり  
 七町あり。奥のやうりりり  
 祿の御ありりりりりりり

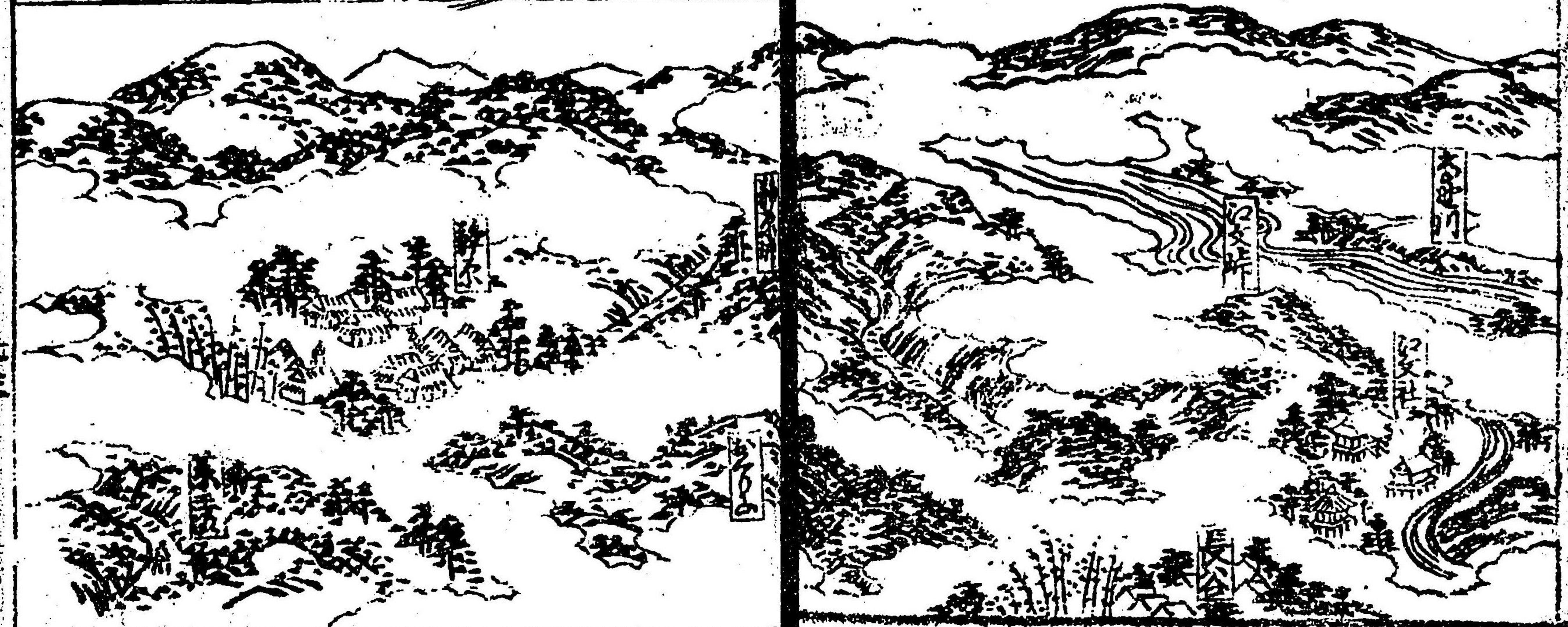




案内多とらぢのやしりて  
 本社ほんしゃにありしむねを  
 そのまゝゆの人まゝの  
 やしりし奥の社との  
 別たの敷所なく山の  
 中らふふ杉まの瀑布を  
 せねの谷れおくにまきせ  
 といふ前わの山系の花  
 けふの別多のせねしを  
 案にりて路の方にほ

石いふまふ入らりあり  
 して賣るあわのそれと  
 ぬごかうしんふ  
 ○まづまゝのひのひ  
 んとあまゆくまうし貴  
 布ぬい新しを替るふらえ  
 中系にゆきまぐとの白系  
 にゆりまふふ日あま  
 つまひし

▲第十四日 北





小原にゆくりな山あり

あふくまの里あり

○小原は 今川一とゆ

乃ありかき川とゆりて

勝安の里にありて

さく、小原の里に入る

○赤松の社 赤松村の東

ふたふあり、赤松の社

赤松の社あり、赤松

の里にあり、赤松

あり○八幡 氏家のり

風呂あり、赤松の里

とあり、赤松の里

は若平流あり、赤松

あり○小原 大原あり

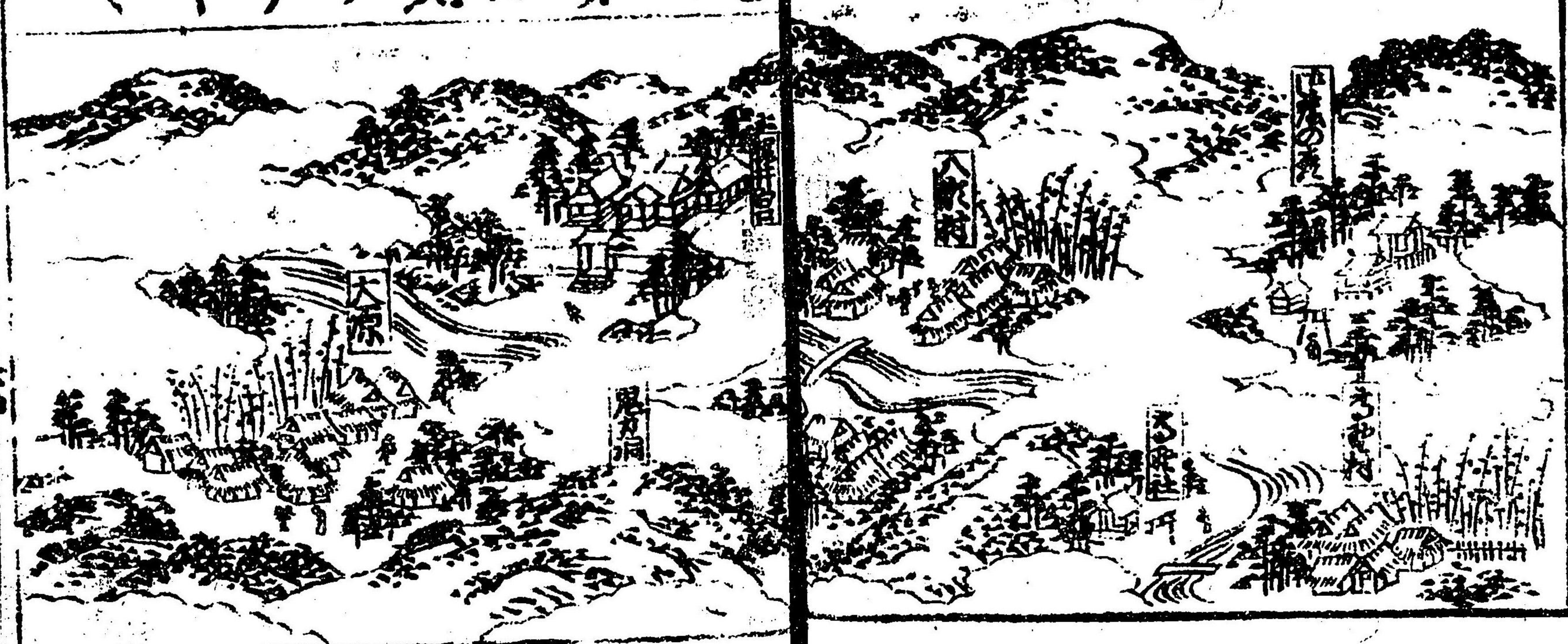
小原の里あり、赤松

○掘井宮 宮内門あり

○赤松の里あり、赤松

の里あり、赤松の里

あり、赤松の里あり





○せぐの池 ○あがりの池  
 水 ○常光院の谷の中  
 に草むすのふあゝわりの尾  
 寺のわらびー 高倉院  
 の后のらふ尾とありて夏  
 に候くも入建礼の度と号  
 ぢー 女院おんを本徳は  
 ゆとーいゝにがしる所  
 候のるを建礼の所の  
 長きいひのよの川平

家物候ふらるる女院の  
 志はまらびとあふよる  
 めいーゆあふととあひ  
 けの中候村まらとあ  
 し。 建礼の院をいひ候  
 と候ー同候ふあふら  
 けあまらるるあふーい  
 にふあふ村ありまら  
 ふ城まらびあり。 建礼の  
 ういかりも珍なりと





其山の妙花谷あり

▲第九十五日 東

河内東坂平にゆくは

あつ

○東坂川○由川村町

のりばは山崎より志保

くちのせし早車ゆい

るふりせり黒の殿女も

せりまにゆくあつた

の山は山崎軍地

いふは山崎生ゆい

○山中 民家ありし所

深山の中ありを思ふ

あつ梅花も二月小坂

か山ありしは山中ふ

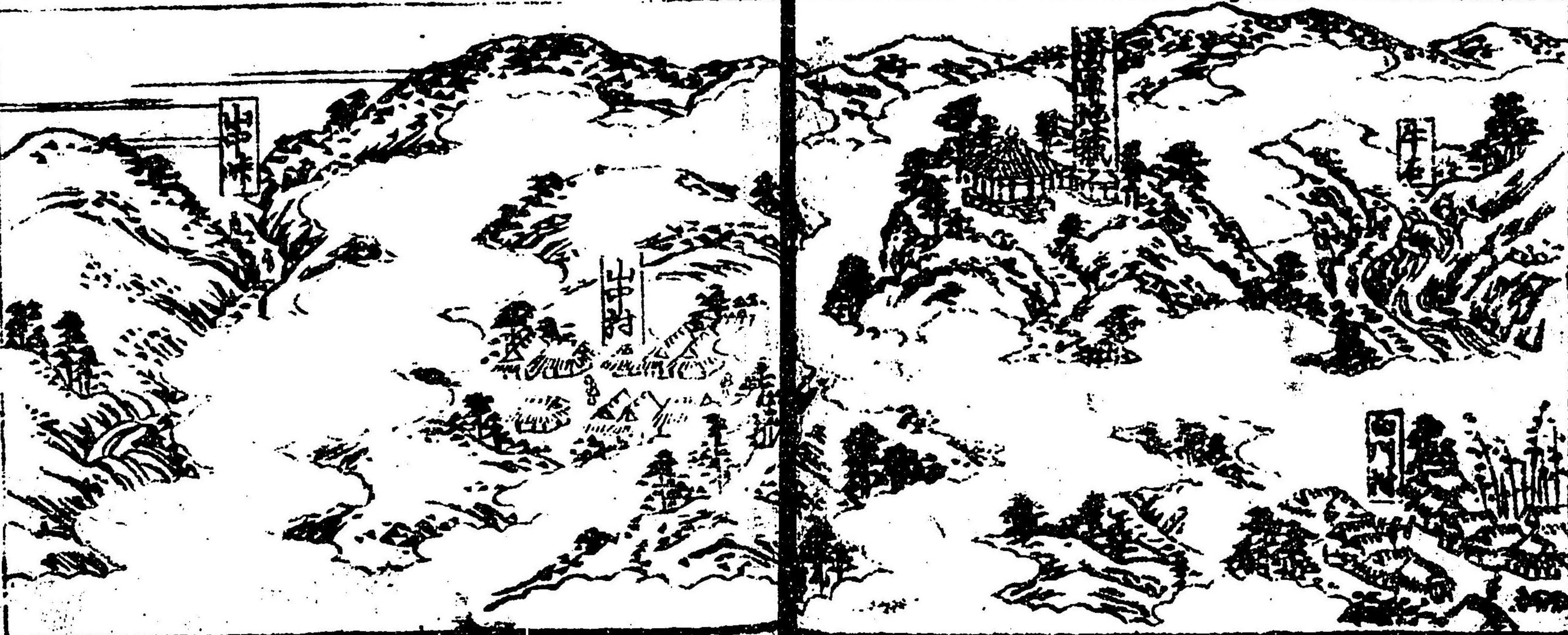
ゆいあつゆく志保

ゆいあつゆく志保乃山

あつ今坂かにゆくは

あつ今坂かにゆくは

あつ今坂かにゆくは

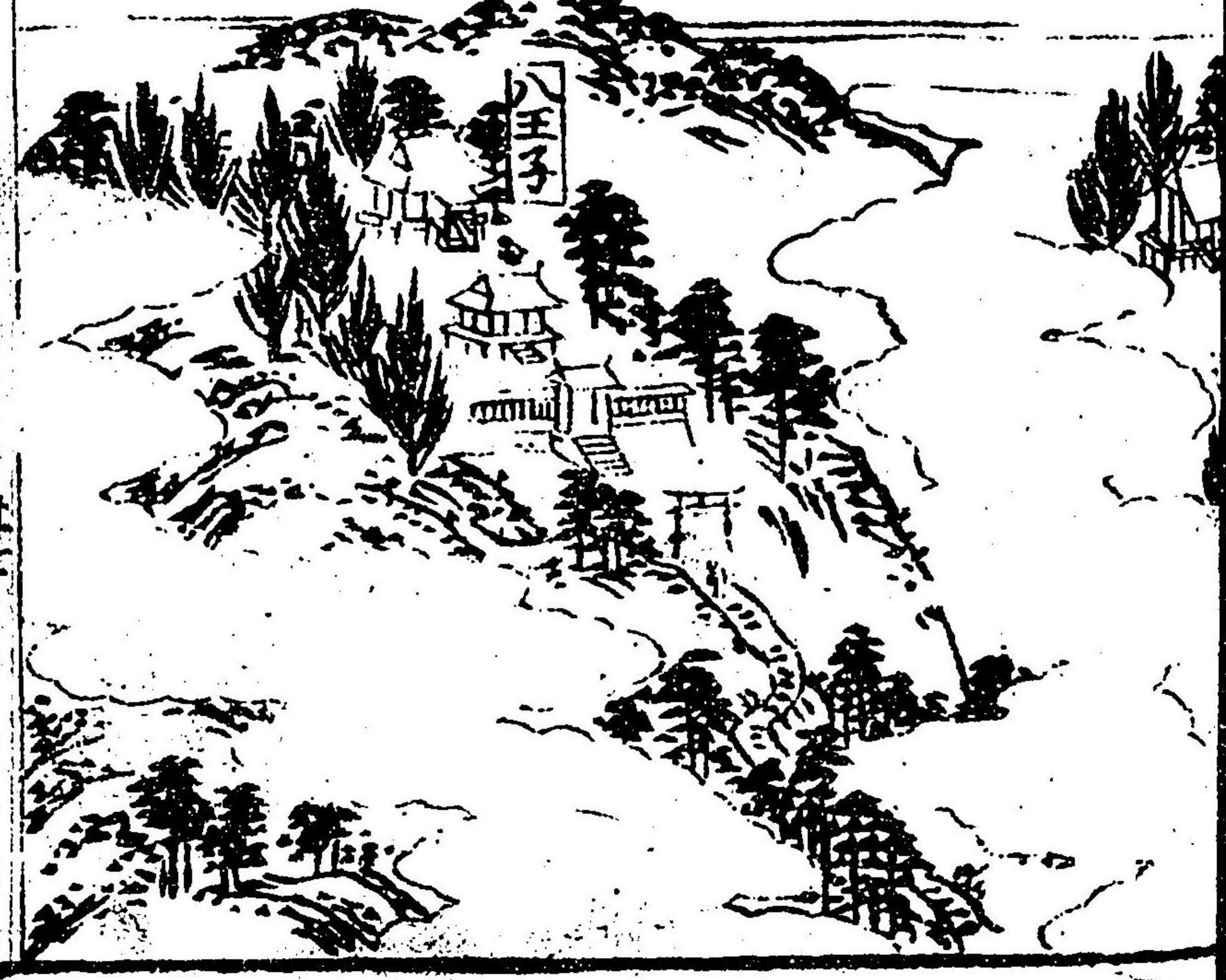
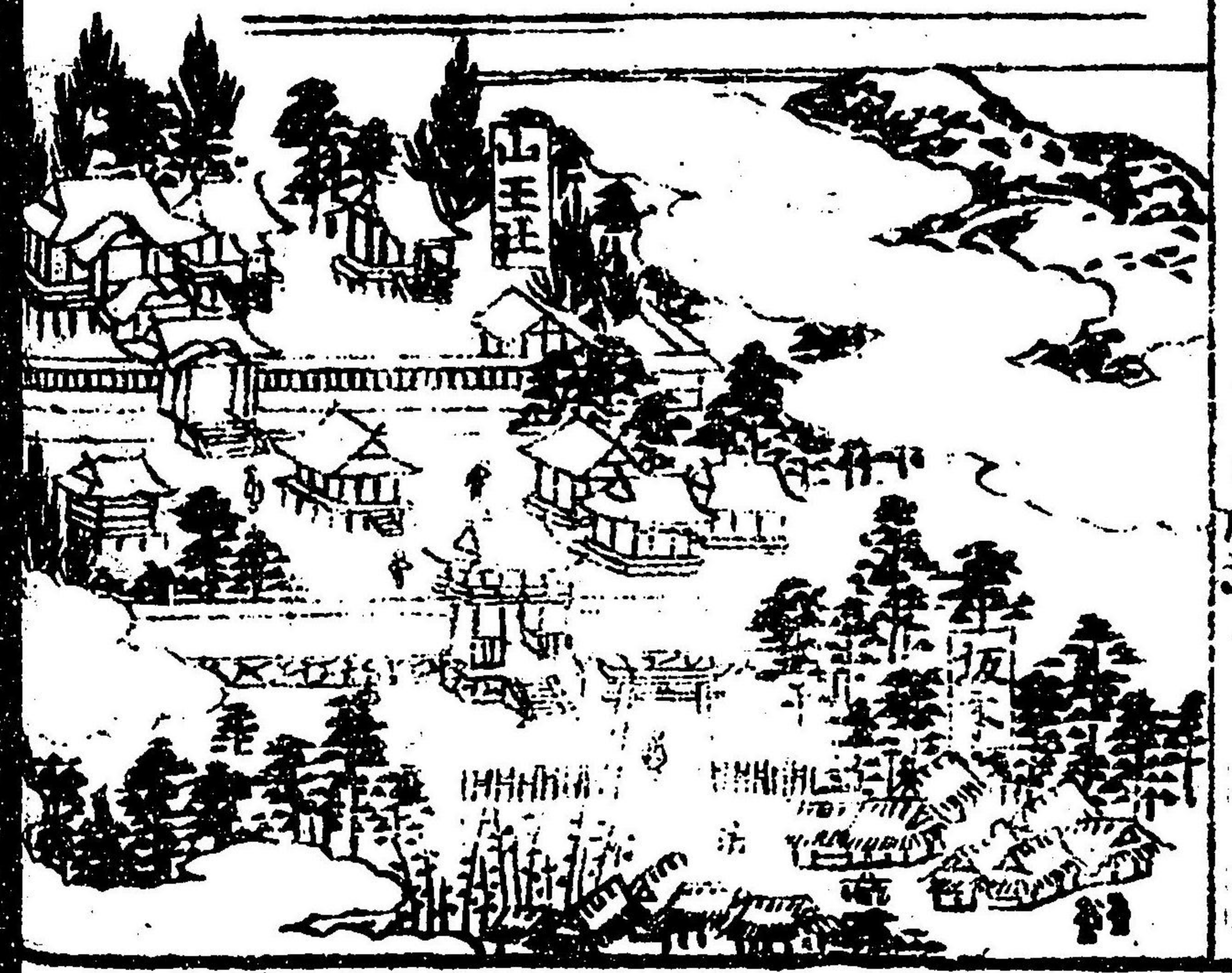




げらるる眼もふぬあつたを  
 佐系多りの上坂本 山  
 王のやうりあり。町右の社  
 ものふとてと山まは二十社  
 わり八まふも二十一社の内  
 かるおまふくまびらま  
 雲にのりまゆしーり八町  
 せとのやのまふしー中まろ  
 ゆらりとやうなるあり

○東照宮 上坂本の町も

方えとあふまふそのりふ  
 善眼大師のまのる○白  
 毫院 石まふつをる空家  
 のりまはにてめぐるまのり  
 のり長くしらし。よと富  
 士山ののりらとあせり。寛永  
 年中に院を貧人の飢饉  
 とまくりんぬあふ。多くの飢  
 んとやいしてつをしーる





○ふまのあしり敷ふま  
 る乃わりの○下坂に所を  
 洲水ふをし。小園へゆく  
 大乃多りの○上坂中のみ  
 方板町のいね新羅明林乃  
 やしりあつもの○唐海志変  
 唐海の二ツ雲わると唐海  
 の林のやしりあつものを唐  
 道のりゆく無業せう。系  
 唐海あふふ。二ツ坂の下



○ふまのあしり敷ふま  
 る乃わりの○下坂に所を  
 洲水ふをし。小園へゆく  
 大乃多りの○上坂中のみ  
 方板町のいね新羅明林乃  
 やしりあつもの○唐海志変  
 唐海の二ツ雲わると唐海  
 の林のやしりあつものを唐  
 道のりゆく無業せう。系  
 唐海あふふ。二ツ坂の下



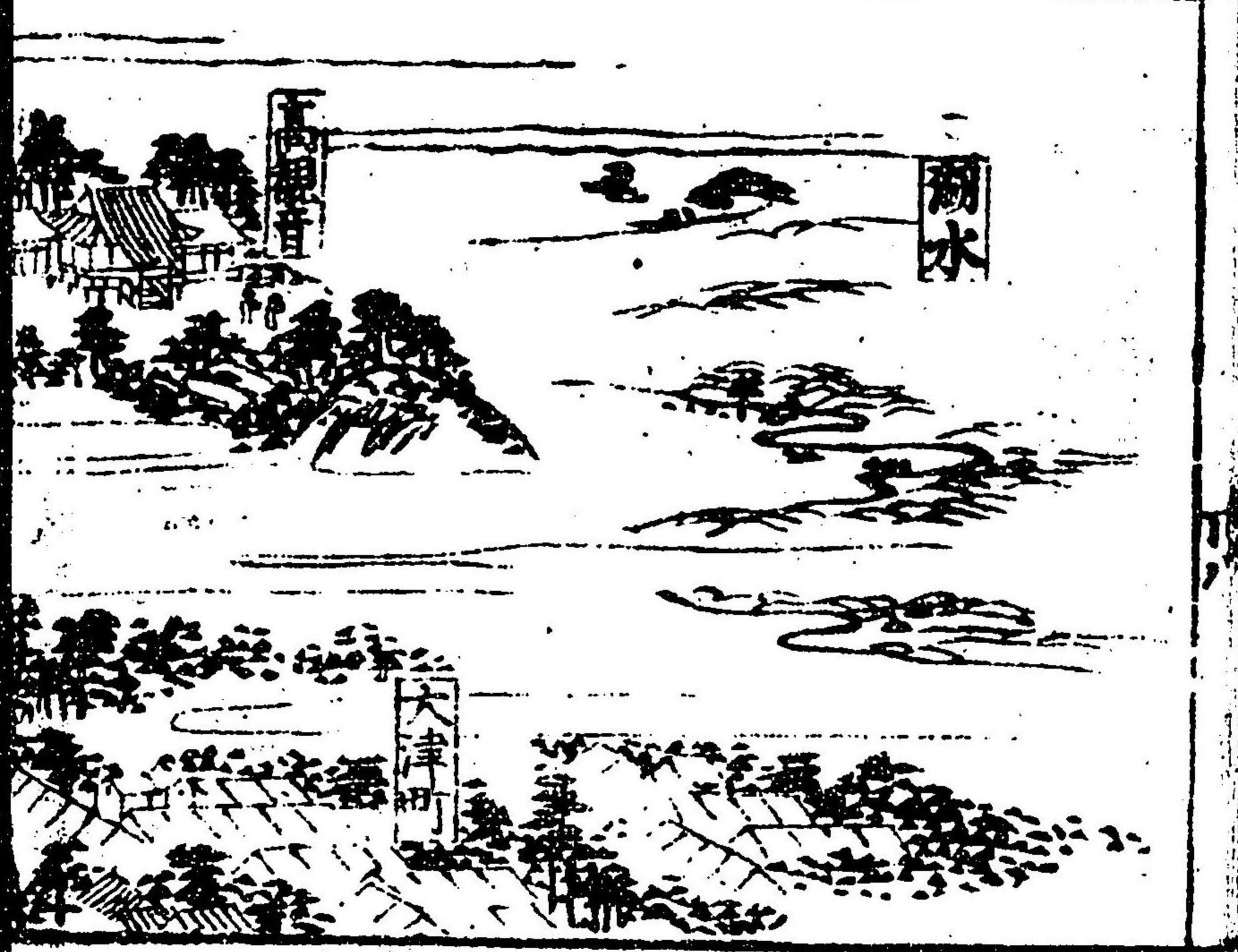


もくしーの三井寺又園  
 城寺とくつたさかほし井  
 のり。鐘のり。女人のあまの  
 と茶どよのふは長等ふ  
 とつて多ああり

○高観音 ちんちんま  
 ぬあをくんそ風来し。  
 願れ松秀ともり西園三  
 三所れあの内なり又大池の  
 あり別あきあありし

あもきんたああくちああさ  
 しり。大池の町湖水とん  
 あり。後ふらふふふふ志  
 笑唐縁は良のが獄とのか  
 跡らとらんあり

○小園 ちんちんま  
 ちんちん入る城とくつた山  
 に出。あふゆりああり。大池  
 小池く系にうらふあを  
 し。山科の敷れとくま



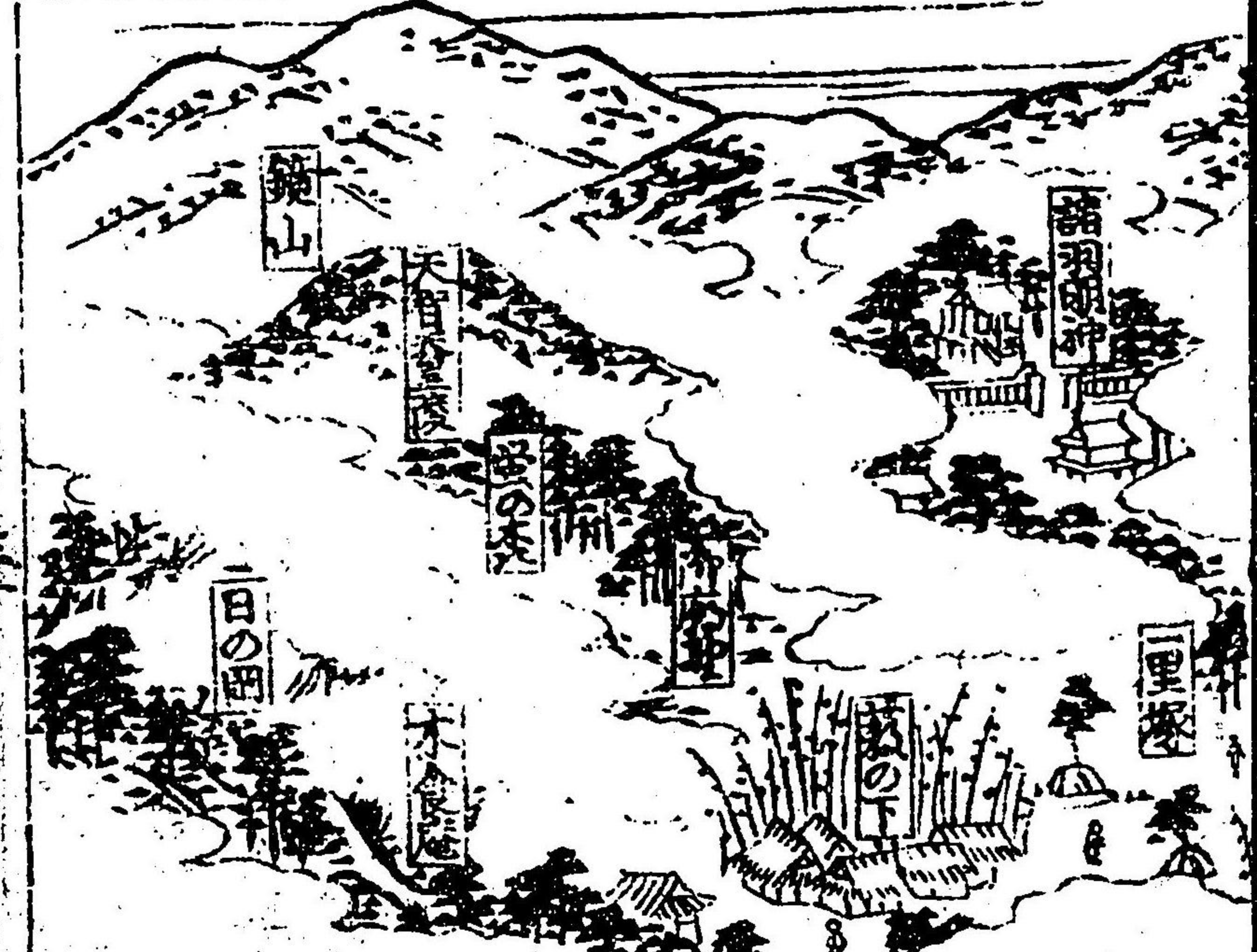


の東ふらふら。びら野中  
 にひ日寺あり。佛像  
 さめり大岩あり。あつて  
 て慈光大陣の作り  
 あり

▲第十六日 東  
 石ふふやうな山あり  
 乃遠くねんやうま  
 物

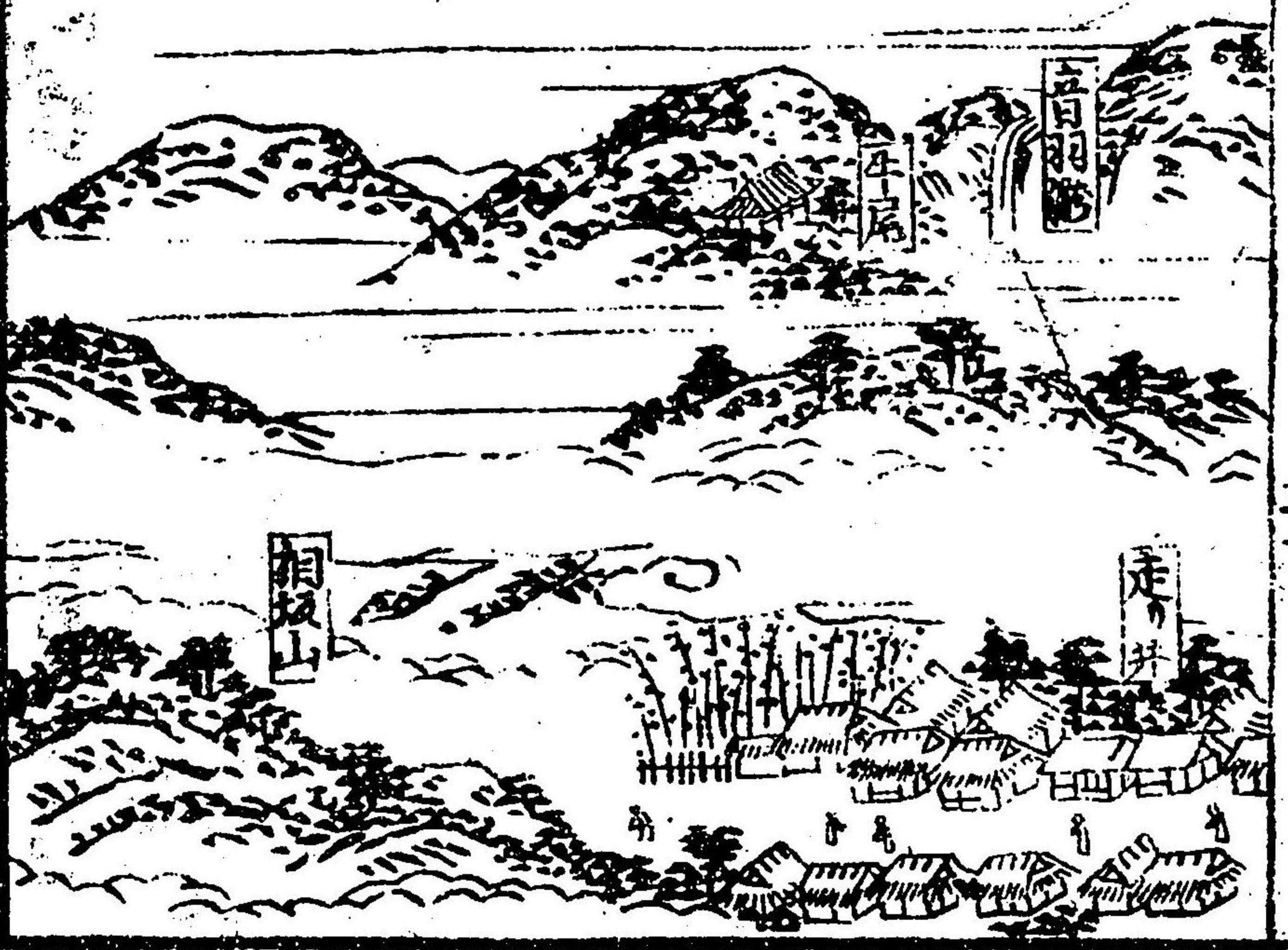
三條の大橋 ○白川橋

白川ふらふら。○粟田は  
 神のまゝあり。○磯  
 のあ○松坂 日の園の  
 坂あり。○日の園 なるげ  
 わらふらふはをまふら  
 ○うらふらふら。○所  
 天智天皇の御陵あり  
 わら。焼くあり。○教の下  
 めんともあり。○日  
 文川東口のま村小諸





大明神のやうあり。たのふ  
 けのまゝ○十禪寺○近分  
 大はより幸し伏見入ゆ  
 わくちらまゝなるまゝ近  
 江の境の近分のまゝ一町  
 毛井の西三町ふわり日本  
 六十六町東西のまゝあり  
 ○牛尾山 近分のまゝの  
 村まゝと谷川ふまゝにての  
 むたをまゝとて法寺とす



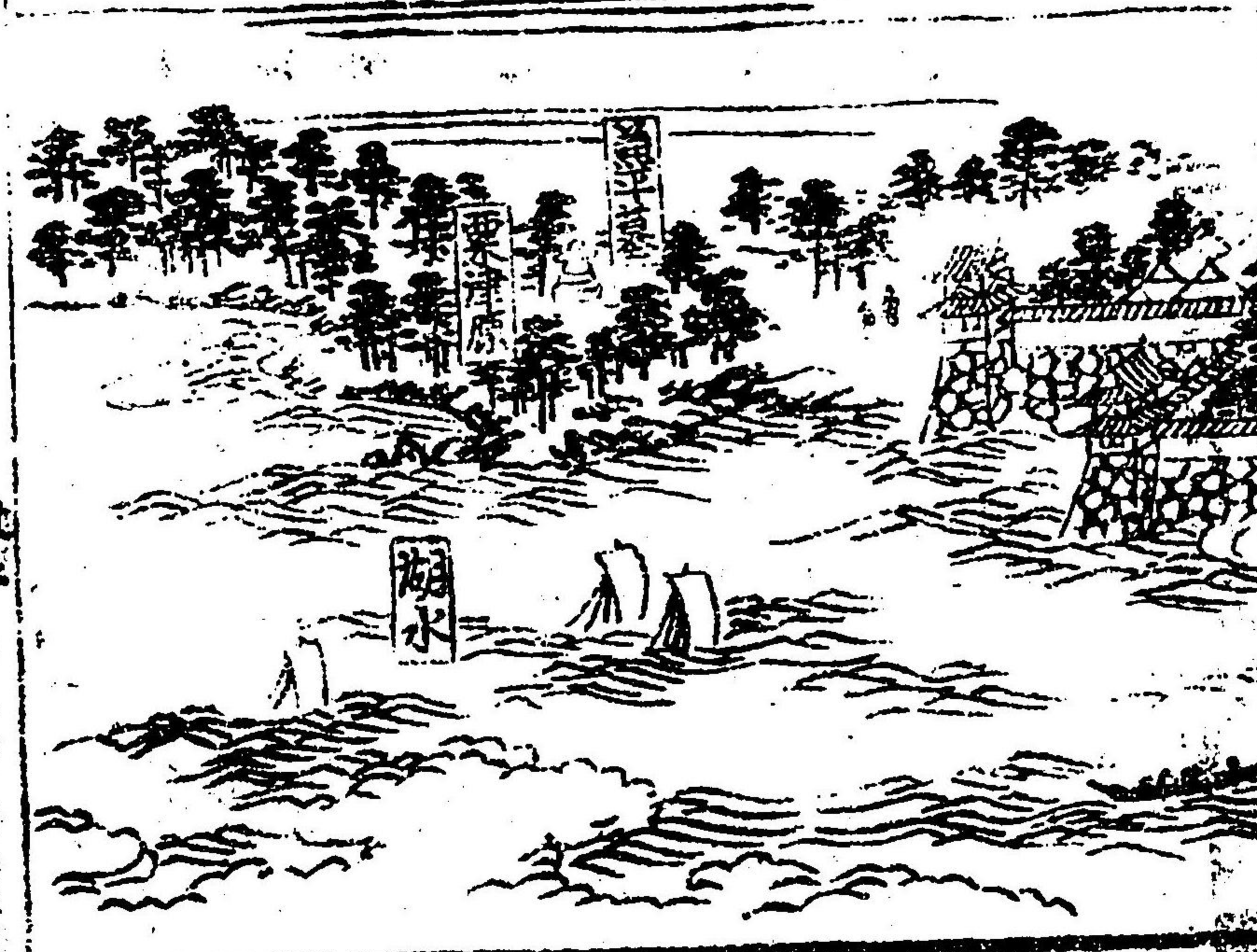
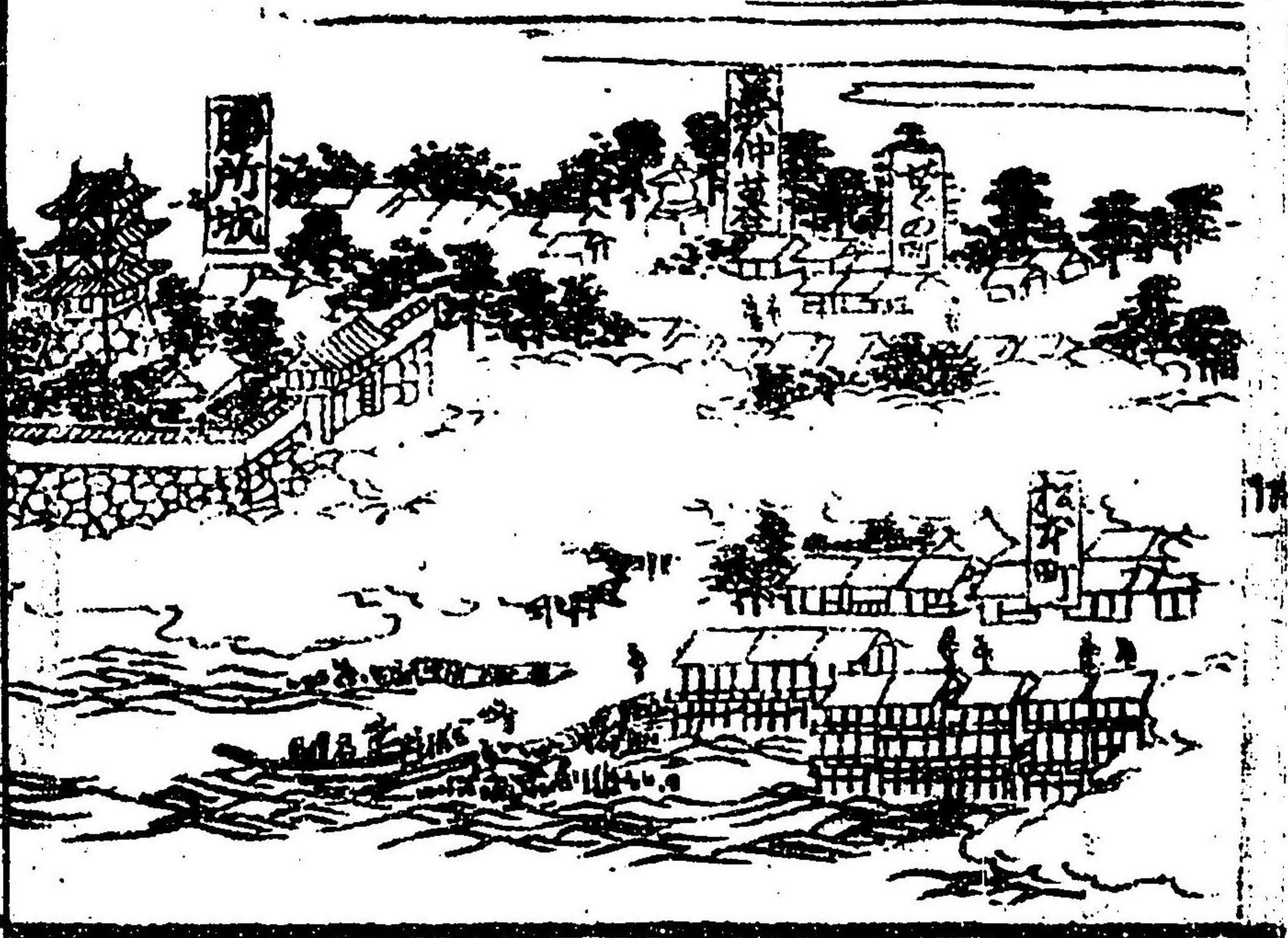
寺ありまゝあり。まゝあり。青  
 砥の磨わり。たをまゝのまゝ  
 てふよるまゝのまゝあり。まゝ  
 方南にありまゝふまゝあり  
 まゝのまゝ○まゝあり。まゝ  
 家ありまゝあり。まゝあり。まゝあり  
 ふまゝのまゝあり。まゝあり。まゝあり  
 まゝあり。まゝあり。まゝあり。まゝあり  
 ○八町あり。まゝあり。まゝあり  
 まゝあり。まゝあり。まゝあり。まゝあり





町のあり人びあやふ  
 ざり。○園寺あふあや  
 ○園の徳あり乃のたふま  
 為はふふふふふ  
 ○大津 れのつわりとま  
 ともたふゆきふ三井もの  
 ちもあやふもゆくま  
 ちふもささささささ  
 ねもの素あふふふ  
 てんふふ

大津の舟乃のふふ同  
 町わを民家大あして  
 人多し三井ものねま  
 ともたふふふふふ  
 同所とあふふ。○大  
 ね三井もの素あふふ  
 次ふあふふ  
 ○お出渡 けさささ  
 のりてあゆふもゆく  
 ○松本素あふふ





茶屋御殿ふのをとて東  
まき

○膳所 城のり町を所  
中へ本曾義仲の墓あり

○粟津の原 田中今  
井兼平の墓あり ○瀬田

川 舟の瀬田の橋より東  
にあり今も橋のあり瀬田  
まへ橋のありとるふより

瀬田の橋ありふの橋あり

其乃中橋あり橋の東ふ

ゆにともふあり橋に

た跡の社儀を奉り師

ふよりあり其ふ建た

樹のやうあり

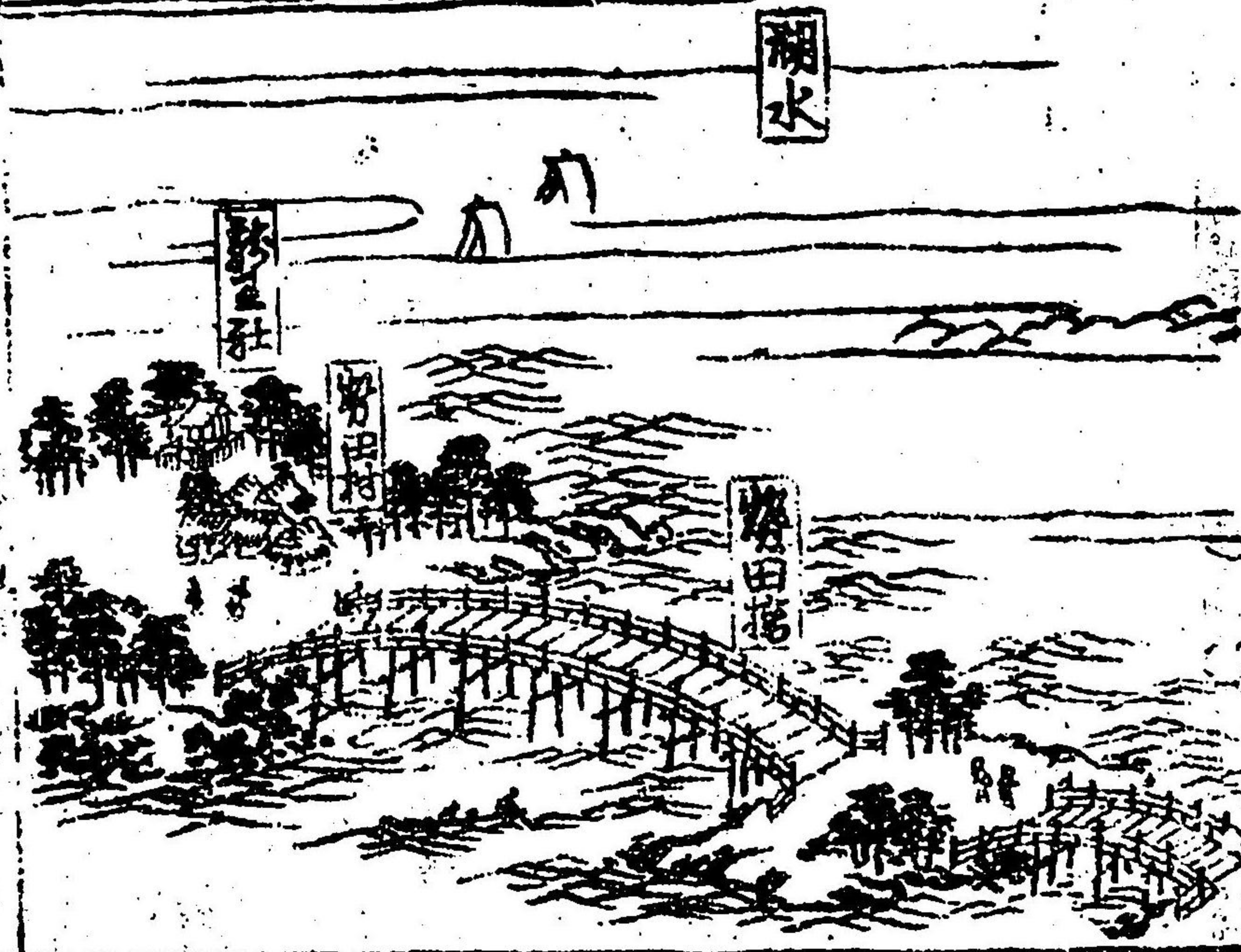
○石山 橋の西より瀬田より

十入町のり橋も堂あり堂

のりより大石のりより

つらよりあり橋のりより

ありと舟よりありあり



湖水

社

橋

橋

橋

橋







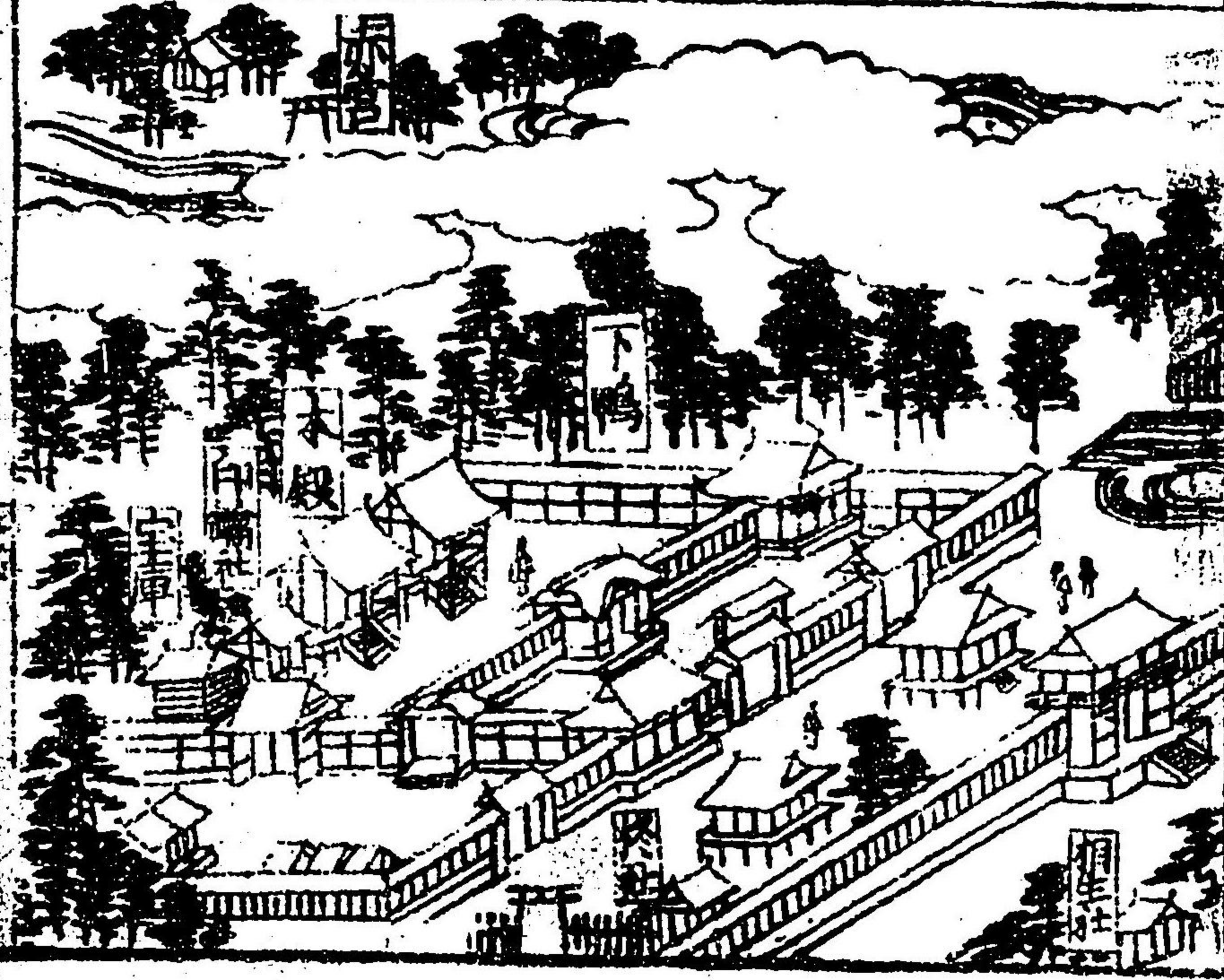
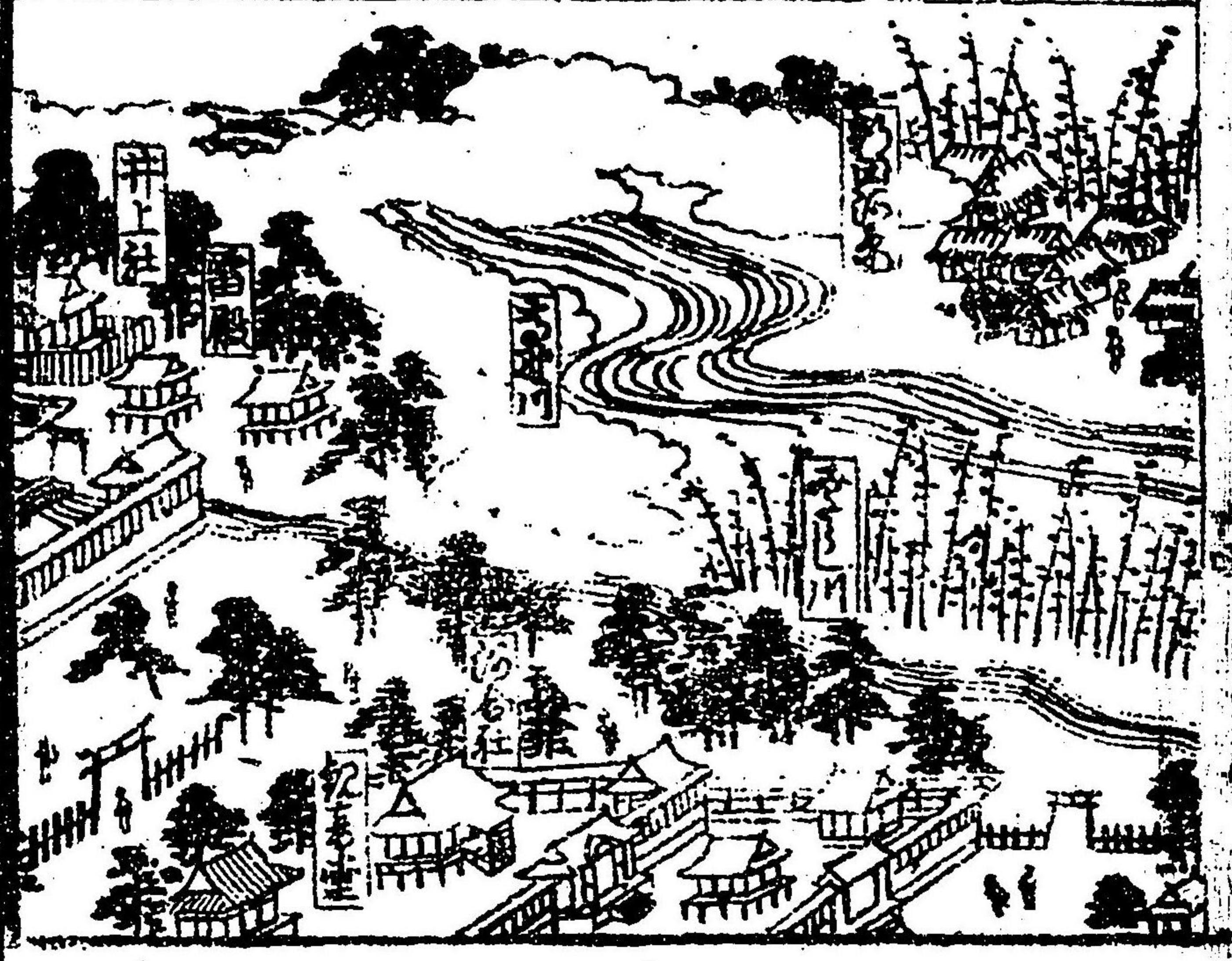
荒神のつらふふより  
供所の殿と八幡とんぼ  
伏所の殿とつらふより  
にふくまふ殿とつらふより  
まへに西遊のつらふより  
こゝろ流のつらふより  
河は西遊のつらふより

▲ 第十七

○ 下鴨の社 ありありの所

祖のやしろのつらふより  
社とありも安成川のつらふより  
川とつらふより  
つらふより  
今伝ふあり

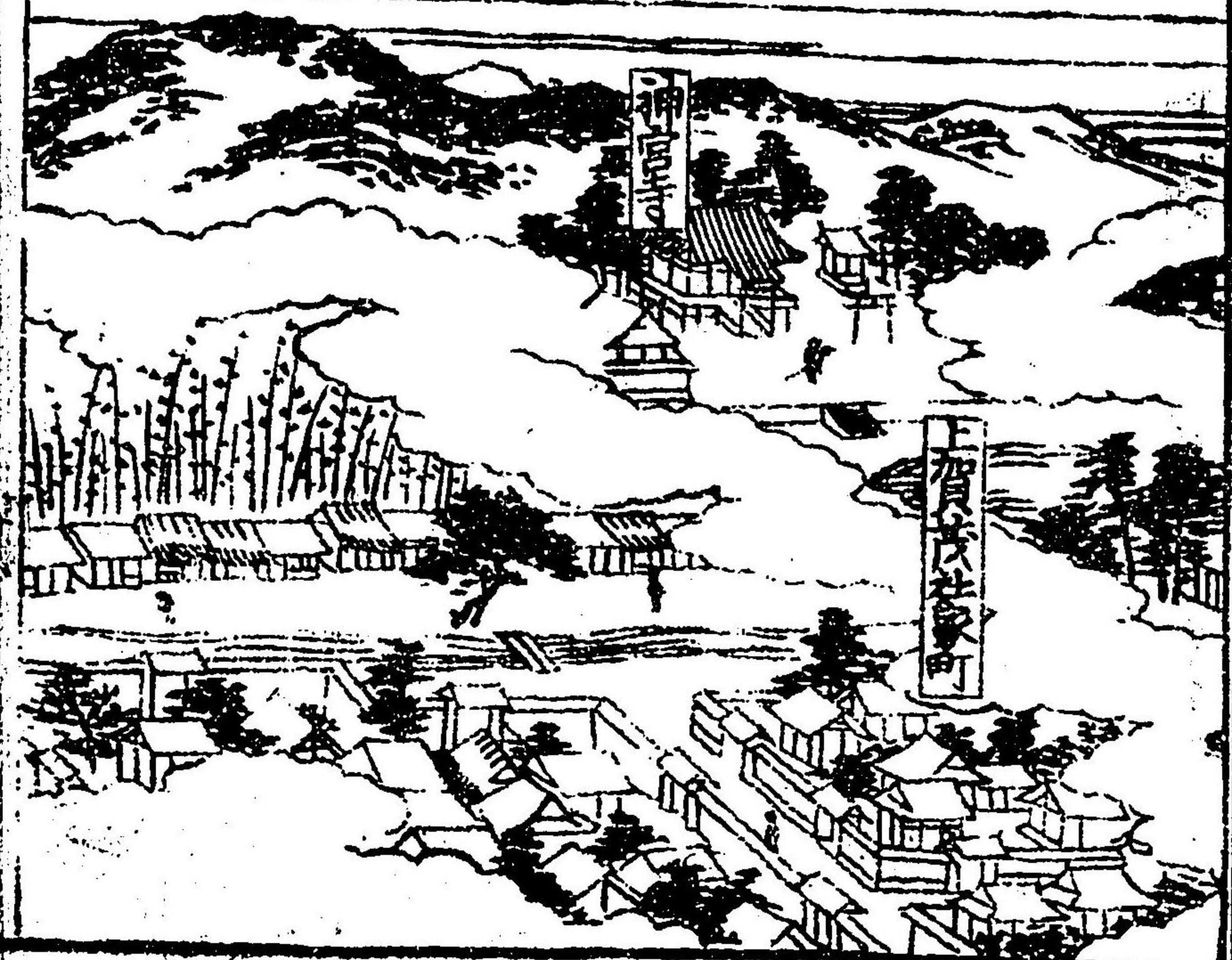
○ 本社ありありのつらふより  
ありありのつらふより  
ありありのつらふより  
ありありのつらふより  
ありありのつらふより





あり。れの表わりの社ありと  
 も使境なり。林泉もまき  
 きり。社人あり。は月中  
 の午の日。神輿取山の麓  
 さむ村の所産ふゆり  
 まふ。祭りの。俗人もあや  
 ゆた。社より。も。祭  
 と。祭りと。中。ひくも。若  
 祭りの。真日所。祭りの。  
 所産の社。下鴨の社。作。り。

来現。志。き。ふ。番。多。く。今日  
 の。勅使。あり。方。二。日。と。願。と  
 て。中。の。酒。日。先。下。鴨。の。社  
 に。勅使。立。め。ひ。官。自。も。多  
 く。あ。り。俗。人。多。く。あ。り。  
 社。祭。り。も。も。祭。り。と。ま。す。  
 祭。り。も。あ。り。と。大。祭。り。と。ま。  
 賤。め。り。も。あ。り。と。事。あ。ひ。と  
 た。し。事。も。そ。後。と。ま。日  
 勅使。下。鴨。り。上。賀。茂。が。





〇六月十九日より晦日まで  
 今式にて神幸なり。是日  
 洛中洛外の男女老幼は  
 びく細線とらんをひいて  
 一人一履をとりて  
 庭より入酒食など  
 〇上野  
 養神社あるの一言あり  
 平安城のありさるなり

〇上野  
 養神社あり。大社也  
 其地は後に山崩り川ありて  
 湯ふりし法ふとひけを  
 養心の奥平安城の上流  
 にあるのゆゑなりと云ふ  
 川のありさるなり。由は  
 〇養神社あり。大社也  
 〇養神社あり。大社也  
 〇養神社あり。大社也

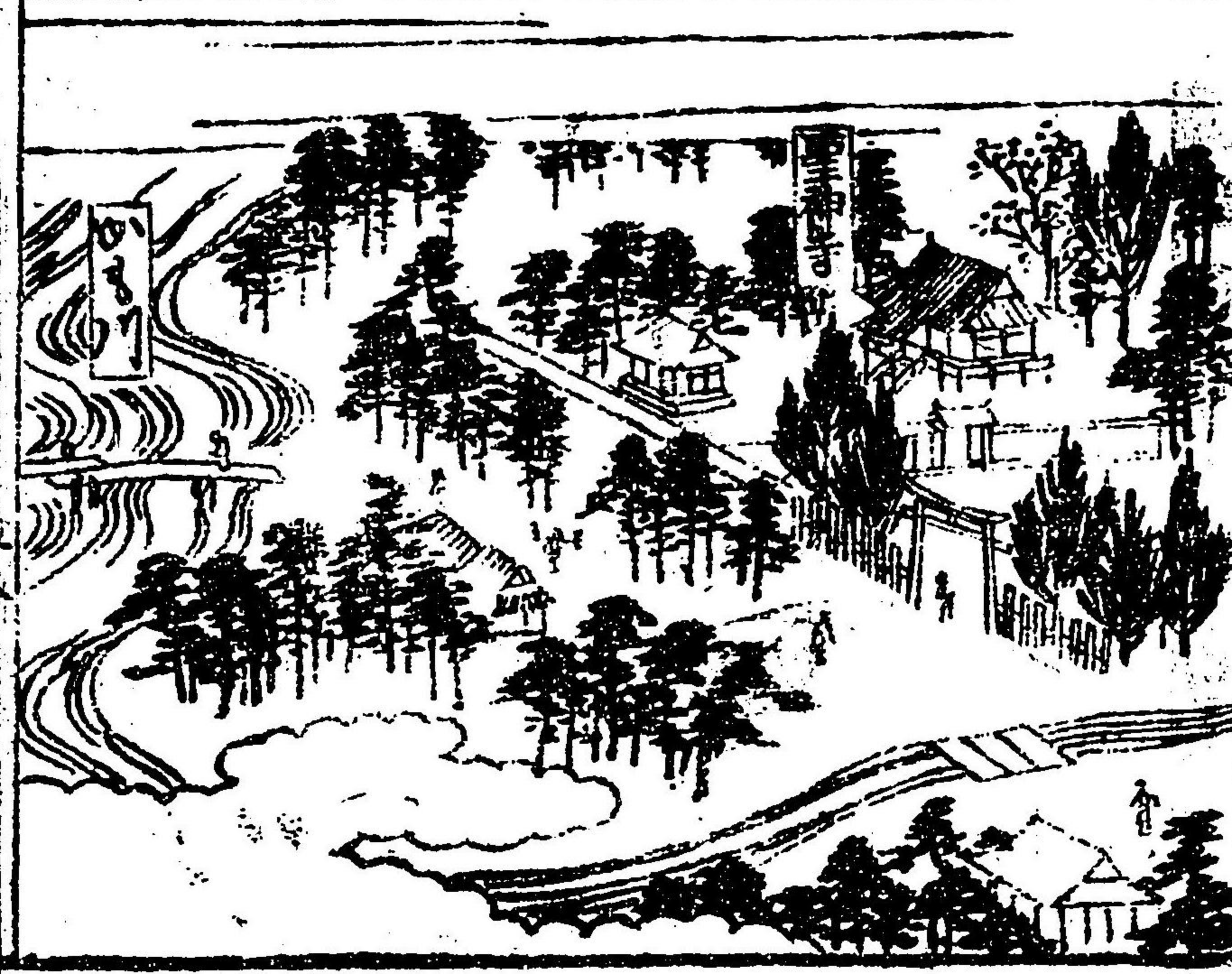




中へ事じりあがりなげし社  
 の電異ひひとの國すを定ん  
 むひしあや皇胡新苑と久  
 るあろくの書にもいし  
 神の事と詳ふあるせう  
 城ふ本まきう人を閑暇わを  
 て花観とあふえんげよ下の  
 所社ふあえー九ろふ  
 大社ふ信来きう人の心身以  
 つさきうく奇飛してあを



屋し。あうしとあうしに林  
 初ふ入くおひあをうと。  
 只於徳せんとあふあをれ  
 ぬしと社あふあをを  
 くをうと。○境内ふ所  
 洗川のり林ふりあをと  
 如く。中社のほあはとだ。  
 やうくそを下流はあうし  
 川あふあうの社あふ  
 ぬ。古あにうあを定ん

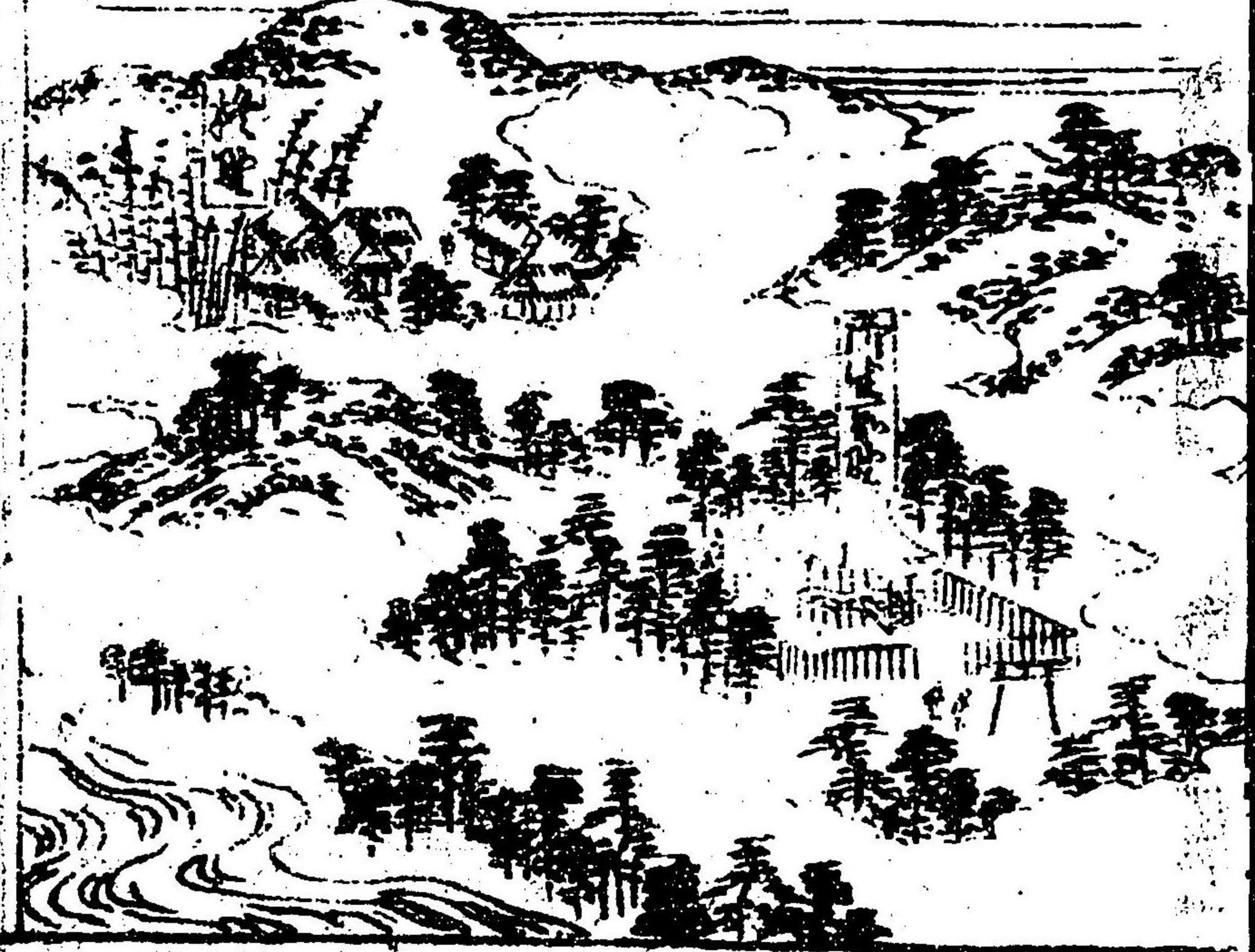




かりの社いふ川のまゝ  
 わり。そふふ岩が橋の  
 やらうる斤間いんかんの表うらは社の  
 ひらふふふわり。社の西  
 市原いちハラろふまふのふく  
 みのり。〇は月中の西の日  
 の表うらふふ。物ものはまふ下鴨  
 の社やしろは信のぶあひくはけは社  
 にまふあふ官くわん司し及び及び俗  
 人も多くあふれ式しきなり。



歌うた樂がく秀しゆ曲きよくと奏そうを。物ものは  
 下した鴨かのりのりははくく。  
 其その古ふる雅みやび多たの事こと歌うたありト  
 鴨かふくもはく。石いし橋はし水みづははあ  
 と南みなみ家やとつひまをて小こ家  
 とのふも古ふる今いま天あま下したの天あま宗むね  
 かりと表うら後ご上うへ下したの今いま自みづかの  
 家や及び及び石いし橋はし水みづの敷しき生なま合あの  
 物ものははあふ古ふるあふく中なか以も久く  
 々々他ほかふり。近ちか年ねんすん





りんばさうしてけいんせうり  
 りんば人もはげぬふわふは  
 えんふしとまふにうりく  
 ぶきもゆめうりく死勝  
 のまかなをこれとんふは  
 りんばのまふあがー

○上安茂のふはははは  
 とりんば神山の西ふふのり  
 安茂の明神ゆめく生  
 るのふはは今日面白く

まめり社人氏人  
 ○五月朔日上安茂神事  
 て競馬の足探りつた  
 八月八日に競馬の供人  
 孫集とるまふびと  
 ○西安茂 上安茂のふは  
 下にわりの正徳寺。霊源寺  
 安茂の明神ゆめく生  
 とりんばのまふあがー  
 安茂のふはははは





實茂と今宮のなる川のお  
松町ふわり

○今宮 紫野にありてお

ものゝ。お園山のおふわり。

神殿 斎藤あり。あま茶

屋わりの。毛よりあま茶に

ゆく乃わりの。八月七日より神

興所 旅下ふは出八月十日

なあり。はらるは旅下ふは

旅下ふは。はらるは旅下ふは

○大徳寺 紫野ふわり。

五山のか。びるとゆをて

禪刹あり

○雲林院 大徳寺のあま。

し。はらるは旅下ふは

もの。はらるは旅下ふは

村あり

○松園山 ひらくはま

あり。ふらにふらふら

あまの。はらるは旅下ふは





の方はうしとんが舞とく  
とありあり

○千手寺 松尾山のお

にあり、岡魔堂あり、三月

花のさくらふ念佛あり、人

形集とふ地を築武が

墓じいひをいあり

とくも今い志とく○

岩。今宮大徳のあり

そは町あり。丹治あり

町のもふ山あり。あきと

りふふい町のあきとこの

と連基野なり。町の入口

東方に茶園二あり、あきと

一町のありありありあり

宗法西のありありあり

ろのいありあり

○常経堂町のありあり

らふありあり。体系の所

ありあり。田とありあり

